

陸前高田市文化財調査報告書第28集

# 袖野 I 遺跡

平成22年3月

陸前高田市教育委員会

## 発 刊 に あ た り

陸前高田市は、岩手県の東南部に位置し、三陸海岸特有のリアス式海岸と北上山系の山々に囲まれた温暖な地です。海と山からの豊かな恵みは、古来より今日に至るまでこの地に住む人々に大きな幸を与え続けています。先人たちが、この豊かな自然環境のあるこの地を選択し、生活を営み、文化を育んできたことは、250箇所以上もの遺跡が市内に存在することにあらわれています。その中でも、袖野Ⅰ遺跡が位置している広田半島には、国指定史跡 中沢浜貝塚や、縄文時代後期の標識土器となっている「門前式土器」で有名な門前貝塚などの著名な遺跡が数多く存在していることで知られています。

これらの多くの遺跡は、現在の陸前高田市の成り立ちを考える上で、貴重な財産であり、後世に残していくために大切に保護していかなければならないものです。

しかし、近年増加傾向にある開発事業により、遺跡やその周辺環境は変化を遂げつつあります。このことは本市においても例外ではなく、各関係機関との調整を図っているものの、やむを得ぬ事情により緊急発掘調査を実施するに至っております。

開発事業などによって失われてしまう遺跡については、発掘調査をおこない、その記録保存を残すことが私たちに課せられた重要な責務であり、後世に地域の歴史を伝える一役を担うことになります。

袖野Ⅰ遺跡では、陸前高田市の先史、とりわけ縄文前期から晩期までの生活史を知る上で貴重な成果を得ることができました。

この度ここに刊行されました、「袖野Ⅰ遺跡発掘調査報告書」を地域の方々をはじめ研究者の方々にご活用いただき、埋蔵文化財の保護に対する関心と理解を深めるとともに、さらなる普及啓蒙にお役立て下されば幸いです。

おわりに、これまでの発掘調査に従事及び協力して下さった多くの方々、並びに関係各位に深く感謝申し上げますとともに、今後ともご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

陸前高田市教育委員会

教育長 伊 藤 壽

## 例言

- 1 本書は、岩手県陸前高田市広田町字袖野地内に位置する袖野Ⅰ遺跡の発掘調査報告書であり、平成15年度におこなわれた調査を取りまとめたものである。
- 2 袖野Ⅰ遺跡の発掘調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。調査は、陸前高田市広田町字袖野195-5 金沢菊男氏より依頼を受け、陸前高田市教育委員会生涯学習課で担当した。
- 3 調査期間、調査体制は以下のとおりである。

調査期間 平成15年8月1日～10月30日

調査体制	団 長 砂田康郎	陸前高田市教育委員会教育長
	総 括 吉田明郎	陸前高田市教育委員会生涯学習課長
	事務局 岡本教司	陸前高田市教育委員会生涯学習課長補佐
	調査員 佐藤正彦	陸前高田市教育委員会生涯学習課副主幹
	水野(遠野)いずみ	陸前高田市教育委員会生涯学習課主事
	遠藤勝博	発掘調査員
	遠藤(坂本)優子	”

- 4 野外調査は水野いずみが担当した。室内整理は水野いずみ、佐藤正彦、遠藤優子がおこなった。
- 5 本報告書の執筆は、V・VIの石器を遠藤優子が担当し、他は佐藤正彦が執筆した。編集・構成は佐藤正彦が担当した。
- 6 石材鑑定は佐藤悦郎氏(大船渡市役所)に依頼した。
- 7 野外調査に際しては、次の方々の協力をいただいた。(順不同・敬称略)  
金澤キミヨ、熊谷タケ子、金野玲子、西條嘉代子、桜井一子、佐々木サヨ子、佐藤多恵子、佐藤とも子、鈴木初子、千田礼子、前川ヨシ子、渡辺和子、吉田チヨ子
- 8 室内整理及び報告書の作成にあたり、次の方々の協力をいただいた。(順不同・敬称略)  
青山道子、岩崎ミヨ子、岡本典子、菅野トシエ、金野玲子、村上奈穂子、佐々木のり子、佐藤紀代子、佐藤多恵子、佐藤とも子、佐藤洋子、菅原とみ子、鈴木貞子、鈴木初子、戸羽由美、新沼カチ子、新沼浩美、藤井明美
- 9 掲載した土層の色調は、『新版標準土色帖』第4版(小山正忠・竹原秀雄編著1973)によった。
- 10 本遺跡から出土した遺物及び調査資料は、陸前高田市埋蔵文化財収納庫に保管している。
- 11 野外調査においては、広田町袖野地区をはじめとする地元の方々のご協力をいただいた。
- 12 調査対象面積は192㎡であるが、遺構確認作業の結果、精査面積を176㎡に絞り込んでいる。

## 目次

発刊にあたり

例言

目次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の位置-と環境	
1 遺跡の位置と周辺の環境	1
2 基本層序	5
3 周辺の遺跡	7~8
III 調査と室内整理の方法	10
1 調査方法	
2 室内整理	
IV 発見された遺構	
1 土坑	11~25
2 焼土遺構	25~26
3 埋設土器	27
V 遺構外出土遺物	
1 土器	30~51
2 土製品	51~52
3 石器	97~103
VI 考察とまとめ	114~119
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 袖野 I 遺跡位置図	2
第2図 袖野 I 遺跡地形図	3
第3図 地形分類概念図	4
第4図 基本層序	6
第5図 周辺の遺跡分布図	8
第6図 遺構配置図	11
第7図 A1-1土坑及び出土遺物	12
第8図 A2-1土坑	13
第9図 A2-2土坑及び出土遺物	13
第10図 B1-1土坑	14
第11~16図 B1-1土坑出土遺物	16~21
第17図 C1-1土坑	22
第18~20図 C1-1土坑出土遺物	23~25
第21図 B2-1・C1-1焼土遺構及び出土遺物	26
第22図 C1-1埋設土器	27



第23～53図	遺構外出土土器	53～83
第54～57図	土製品	84～87
第58・59図	石器	104・105

## 写真図版目次

写真図版 1	調査区遠景・完掘状況	122
写真図版 2	A1～F1西壁セクション	123
写真図版 3	A1～3南壁セクション F1～2北壁セクション	124
写真図版 4	A1-1土坑検出状況・A2-1土坑土層断面 ・A2-2土坑検出状況・B1-1土坑土層断面、完掘状況	125
写真図版 5	C1-1土坑土層断面・完掘状況 B2-1・C1-1焼土遺構土層断面 C1-1埋設土器検出状況・埋設状況・土層断面・完掘状況	126
写真図版 6～8	遺構内出土遺物	127～129
写真図版 9～18	遺構外出土土器	130～139
写真図版19	土製品	140
写真図版20～25	石器	141～146

## 表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表	9
第2表	遺構内出土土器一覧表	28
第3表	遺構内出土土製品一覧表	29
第4表	遺構内出土石器一覧表	29
第5表	遺構外出土土器一覧表	88～95
第6表	土製品一覧表	96
第7表	石器一覧表	106～113

## I 調査に至る経過

平成15年1月20日、岩手県陸前高田市米崎町字中島36-5の鈴木工建より、陸前高田市広田町字袖野195-5の金野菊男氏の宅地造成を2月にしたい旨の相談があった。当教育委員会では、当該地は遺跡であるため事前の試掘調査あるいは発掘調査が必要であることを話し、工事開始の延期と、文化財保護法第57条第2項の規定に基づく書類の提出を依頼した。

次いで平成15年3月5日、鈴木工建と再度の打ち合わせを行い、3月中に試掘調査に入りたい旨を話したところ、5月以降にして欲しいとの申し出があった。

平成15年7月、陸前高田市広田町字袖野195-5金野菊男氏より文化財保護法第57条第2項での届出がなされ、平成15年7月8日付け陸高教生第94号で陸前高田市教育委員会の現地調査書を添えて副申した。平成15年7月10日付け教生第20-158号で、岩手県教育委員会より埋蔵文化財の発掘の通知があり、工事着手前に発掘調査を実施する旨の指導があった。

平成15年7月18日付け陸高教生第107号で本人に通知。国庫補助を導入して、平成15年8月1日より平成15年10月30日まで緊急発掘調査を実施した。発掘終了後、出土遺物の洗浄等を行うとともに、出土資料の数の把握に努め、平成16年3月2日付け陸高教生第217号で大船渡警察署長に埋蔵物発見届を提出し、同日、陸高教生第218号で岩手県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財保管証を提出した。平成16年3月31日付け教生第150-90号で、岩手県教育委員会教育長より埋蔵物の文化財認定の通知があり、ついで平成16年6月8日付け陸高教生第60号で文化財譲与申請書を生涯学習文化課長に提出し、平成16年10月4日付け教生第924号で出土文化財の譲与についての通知があり、出土遺物は陸前高田市に帰属した。遺物は、現在、陸前高田市埋蔵文化財収納庫で保管している。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と周辺環境（第1図・2図・3図）

袖野1遺跡は、岩手県陸前高田市広田町字袖野地内に所在し、市の中心部から東南東方向へ直線にして約7km、岩手県交通広田線の袖野バス停付近に位置する。

陸前高田市は岩手県の東南端に位置し、宮城県に隣接している。市境は、東は大船渡市、西は一関市、南は気仙沼市、北は気仙郡住田町に隣接し、東南方向は太平洋と面している。

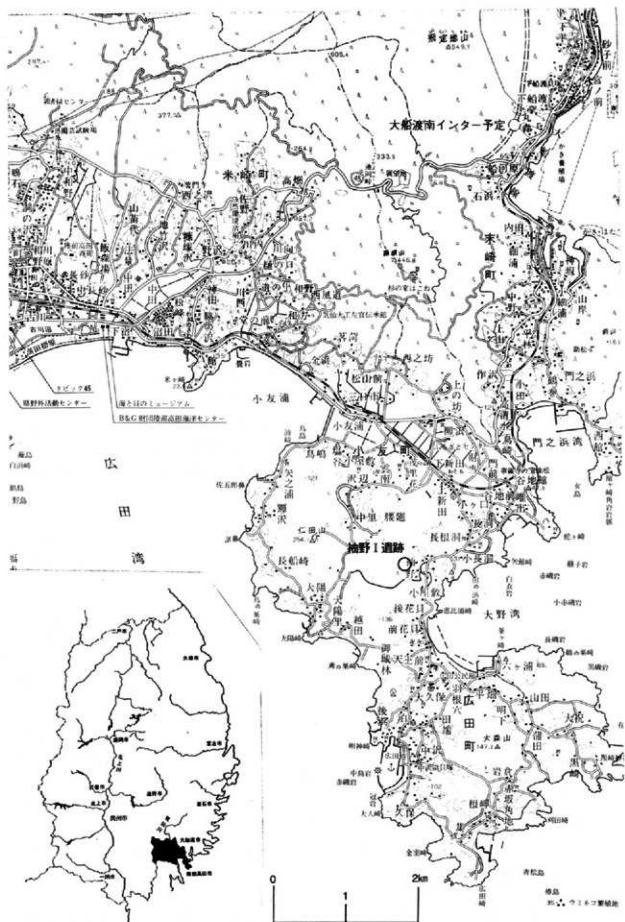
袖野1遺跡が所在する広田町は、リアス式海岸特有の突起した岬と湾入が交互に連続する複雑な海岸線の最南端市域の東南に位置する広田半島にある。広田半島は、北で小友町に隣接し、東をC字状に湾入する大野湾と西を逆U字状の広田湾に周囲を囲まれている。

広田半島の付け根には西方から小友浦が入り込み、その先には海拔10m以下の低地帯が広がり、縄文海進期には広田半島は島になっていたと考えられる。

遺跡は、大野湾を眼下に望む仁田山（標高234m）の山塊の内、仁田山山頂の東側に位置する標高202mの峰の東側に広がる緩斜面の裾に位置している。

地目は、現在は主に水田や畑地として利用されている。

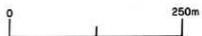
昭和53年には県道広田半島線の改良工事に伴い緊急発掘調査がおこなわれ平安時代の竪穴住居1棟が検出されている。

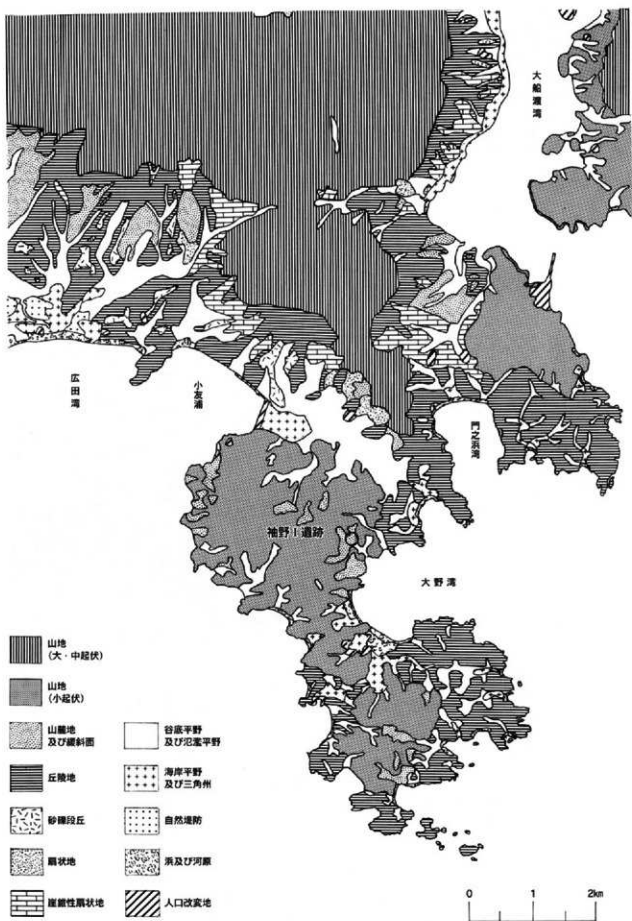


第1図 袖野I遺跡位置図



第2図 袖野I遺跡地形図





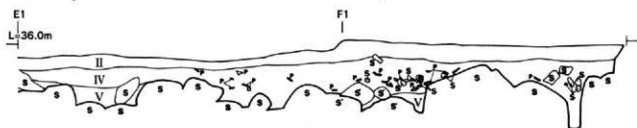
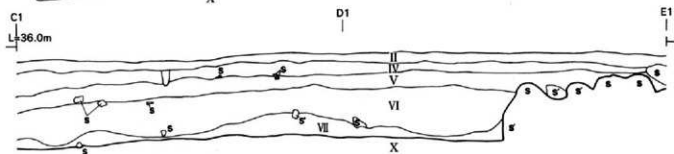
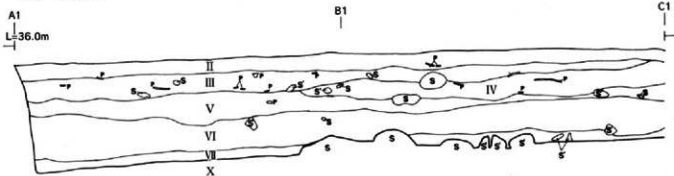
第3図 地形分類概念図

## 2 基本層序 (第4図)

基本層序は、東方向に傾斜する緩斜面に設置した発掘区の、南壁・西壁・北壁の層序のうち、遺構内の層を除いた層序を記載したものである。概括すると層は10層に大別される。以下、その概要について触れる。なお、Ⅷ層・Ⅸ層については、発掘時において土層注記を失念し詳細は不明である。

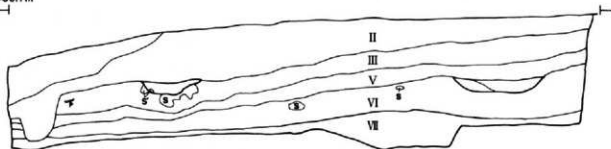
- I層 10YR4/2 灰黄褐色土層。A2グリット南壁でのみ検出。土質は細砂。炭化物・焼土無し。粘性は無く柔らかい。しまりが無く、真砂・礫を含む。人工遺物は無い。攪乱層である。最大層厚は、A2グリット東南端で38cmを測る。
- II層 10YR4/2 灰黄褐色土層。発掘区全体に広がる層。土質は細砂。炭化物・焼土無し。粘性は無くやや硬い。しまりが無く、真砂・礫を含まない。人工遺物は縄文土器片を微量に含んでいる。攪乱層である。最大層厚は、A2グリット南壁で63cmを測る。
- III層 10YR3/2 黒褐色土層。発掘区南側のA1・A2グリットでは層は比較的厚いが、B1グリットで消える。土質は細砂。炭化物・焼土無し。粘性は弱く柔らかい。しまりが無く、真砂を含まない。礫有り。人工遺物は縄文土器片を少量含んでいる。最大層厚は、A2グリット南壁で32cm程である。
- IV層 10YR3/3 暗褐色土層。発掘区のB1グリットの北側に広がる層である。土質は細砂。炭化物を微量、焼土を少量含む。粘性は弱くやや硬い。しまり有り。真砂を含まない。礫有り。人工遺物は縄文土器片を多く含んでいる。最大層厚は、F1グリット北壁で35cm程を測る。
- V層 10YR3/3 暗褐色土層。発掘区全体にほぼ広がるが北壁には無い。土質は細砂。炭化物微量、焼土少量含む。粘性は弱くやや硬い。しまりが有り、真砂を含まない。礫有り。人工遺物は縄文土器片を多く含んでいる。最大層厚は、A1グリット西壁で40cm程である。
- VI層 10YR2/2 黒褐色土層。発掘区の中央から南側にかけて検出した。土質は細砂。炭化物・焼土無し。粘性は弱く硬い。しまりが有り、真砂・礫を含む。人工遺物は無い。最大層厚は、D1グリット西壁で60cm程である。
- VII層 10YR5/3 におい黄褐色土層。発掘区の中央から南側にかけての花崗岩の基盤上に堆積する層である。土質は細砂。炭化物・焼土無し。粘性は無く柔らかい。しまりが有り、真砂・礫を含む。人工遺物はほとんど無い。最大層厚は、C1グリット西壁で30cm程を測る。
- X層 花崗岩の岩盤である。発掘区の中央付近より南側は、比較的平坦であるが、北側は大小様々の円形あるいは楕円形の花崗岩礫が岩盤に食い込んだ状態で露出している。岩脈の違いであろうか、広田半島においては、このような円形あるいは楕円形の花崗岩礫の露出が随所に散見される。

A1 ~ F1 西壁



A1 ~ A3 南壁

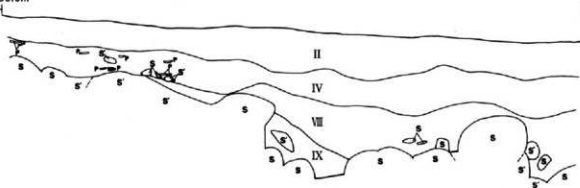
L=36.7m



0 1m

F1 • F2 北壁

L=36.0m



0 1m

第4図 基本層序

### 3 周辺の遺跡（第5図・第1表）

三陸沿岸には、貝塚や多数の遺跡が所在している。陸前高田市に隣接する大船渡市には、国指定史跡の蛸の浦貝塚・大洞貝塚・下船渡貝塚などの著名な貝塚が集中している。

陸前高田市内においてもこれまで250を越す遺跡が確認されており、特に袖野Ⅰ遺跡の位置する広田半島には、国指定史跡「中沢浜貝塚」(71)や大陽台貝塚(52)、瀬沢貝塚(26)、雲南遺跡(33)といった著名な貝塚や遺跡を見ることができる。

現在確認されている遺跡の時代ごとの分布状況であるが、縄文時代早期の遺跡としては、市内においては3遺跡が知られる。小友町にある貝殻文系土器を主体とする上の坊遺跡(9)、広田町にある平安期まで続く国指定史跡の中沢浜貝塚(71)、図幅外ではあるが国道343号の改修工事の際の事前の調査によって早期遺物の発見された矢作町の梅木遺跡が知られる。

縄文時代前期の遺跡は、小友地区では仁田山(標高254m)北斜面の海拔50m以下の地点に雲南遺跡(33)・小屋敷遺跡(18)、西側斜面には瀬沢貝塚があるが、瀬沢貝塚は前期前葉の限られた時期のみである。広田地区では仁田山の南斜面の海岸部に大陽台貝塚(53)と大陽台貝塚(52)があり、東側には縄文時代晩期まで続く袖野Ⅰ遺跡(56)がある。このうち雲南遺跡・大陽台貝塚は大規模な遺跡であり、本市の縄文時代前期を代表する屈指の遺跡である。広田半島先端では、この頃、大森山(標高147.2m)の南側に金室貝塚(85)、集遺跡(86)もみられるようになった。

縄文時代中期になると、遺跡の数は前期と比べると非常に多くなり、図幅内では14遺跡が知られる。広田地区のうち、仁田山山麓で確認できる遺跡は小屋敷遺跡(18)・矢の浦Ⅰ遺跡(23)・雲南遺跡(33)・柏崎遺跡(51)・大陽台貝塚(52)・袖野Ⅰ遺跡(56)があり、大森山山麓では中沢遺跡(69)・中沢浜貝塚(71)・内田遺跡(74)・根岸遺跡(78)・胡畑遺跡(81)があり、広田湾岸及び大野湾岸に遺跡が分布する。広田半島外では、堂の前貝塚(1)・岩井沢遺跡(5)・三日市遺跡(10)・門前貝塚(42)がある。

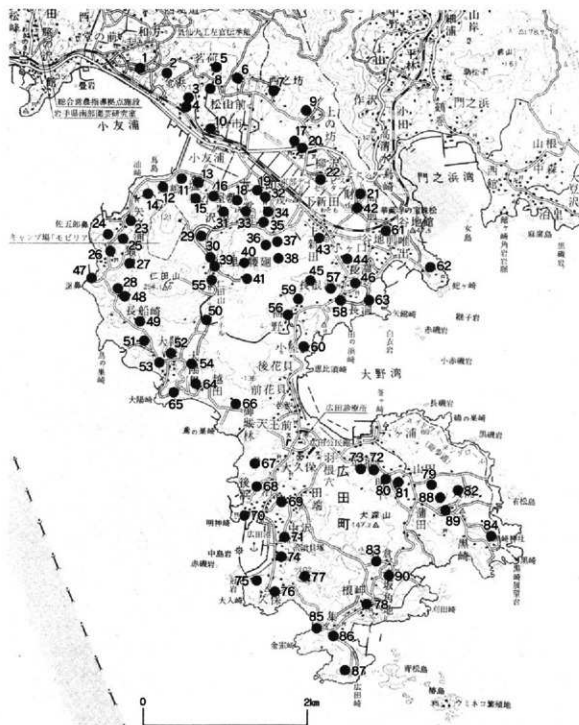
縄文時代後期になると遺跡数は増え図幅内では17遺跡が知られる。広田半島では、仁田山山麓では広田湾を望む西側斜面及び南側斜面に遺跡の分布が広がり、鳥嶋Ⅱ遺跡(12)・塩谷Ⅰ遺跡(13)・矢の浦Ⅰ遺跡(23)・矢の浦Ⅲ遺跡(25)・瀬沢Ⅱ遺跡(47)・船荒遺跡(49)・大陽台貝塚(53)・赤沼遺跡(66)がある。大森山山麓では、広田湾を望む西側斜面には中沢遺跡(69)・中沢浜貝塚(71)・久保遺跡(75)がある。また、後期になって外洋を望む大森山の東側斜面にも遺跡が分布するようになり、大祝Ⅰ遺跡(82)・岩倉遺跡(83)・黒崎遺跡(84)が知られる。この時期の著名な遺跡としては、半島の付け根の低地帯北側に、弓矢状の配石や帯状の配石が発見された門前貝塚(42)が立地している。

縄文時代晩期から弥生時代にかけての遺跡数は激減する。図幅内では晩期遺跡が6遺跡、弥生時代の遺跡が3遺跡知られるのみである。晩期遺跡は、仁田山山麓の西側斜面の瀬沢地区において瀬沢貝塚(26)・瀬沢Ⅰ遺跡(27)・瀬沢Ⅱ遺跡(47)が、東側斜面では小長洞遺跡(58)が知られる。大森山山麓においては、西側斜面で、中沢浜貝塚(71)・久保貝塚(75)が知られる。晩期の遺跡数は6遺跡と少ないが、貝塚が多いのが特色である。弥生時代の遺跡は、長洞遺跡(46)・小長洞遺跡(58)・中沢浜貝塚(71)の3遺跡のみが知られる。

古代の遺跡は、主たる生業が、狩猟採集から農耕へと変わったせいであろうか、広田半島の付け根部分にある低地帯を挟むように、両側の斜面に遺跡の分布が集中するのが特色である。また、遺跡数も図幅内で26遺跡と数が増える。遺跡の分布は、低地帯の北側斜面には金浜遺跡(2)・両



替Ⅰ遺跡(3)・岩井沢遺跡(5)・西之坊遺跡(6)・松山前遺跡(8)・三日市遺跡(10)・谷地館遺跡(61)が、低地帯の南側斜面には鳥嶋Ⅰ遺跡(11)・鳥嶋Ⅱ遺跡(12)・塩谷Ⅱ遺跡(15)・塩谷Ⅲ遺跡(16)・森崎Ⅰ遺跡(32)・森崎Ⅱ遺跡(34)・森崎Ⅲ遺跡(35)・新田遺跡(43)・小ヶ口遺跡(44)・小長洞遺跡(58)がある。広田半島中にも遺跡が増え、瀬田Ⅲ遺跡(28)・腰廻Ⅰ遺跡(36)・腰廻Ⅱ遺跡(37)・腰廻Ⅲ遺跡(38)・袖野Ⅰ遺跡(56)・小屋敷遺跡(60)・大陽崎遺跡(65)・久保貝塚(75)・黒崎遺跡(84)がある。古代の遺跡の中で特色的な遺跡として、岩井沢遺跡(5)からは毛抜形藪手刀一振りが出土しており市指定の有形文化財となっている。大陽崎遺跡(65)からは製塩土器が出土しており海岸特有の遺跡となっている。



第5図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡コード	遺跡名	遺跡の種類	時代	遺構	遺物	所在地	備考
1	NF-69-2130	室の瓦葺遺跡	瓦葺遺跡	縄文	住居跡・土間土層(中・後)	土器類	室積野上野の南	昭和46年・平成9～9年調査
2	NF-69-2134	瓦葺	瓦葺遺跡	古代	土間	瓦	小友町平谷	小友町平谷
3	NF-68-2176	溝跡1	散布地	縄文・古代	縄文土層・土間跡	かまど跡	小友町平谷	小友町平谷
4	NF-68-2187	溝跡2	散布地	縄文	溝跡		小友町平谷	小友町平谷
5	NF-68-2230	野古石	集積跡	縄文・古代	縄文土層(中)	土器類・遺物類・磨石刀	小友町平谷	小友町平谷
6	NF-68-2262	古石	散布地	縄文・古代	縄文土層(後)	土器類	小友町平谷	小友町平谷
7	NF-68-2267	古石	散布地	縄文	古石		小友町平谷	小友町平谷
8	NF-68-2270	和山田	集積跡	縄文・古代	縄文土層・土間跡		小友町平谷和山	平成16年度文化センター調査
9	NF-68-2380	中西8・上の坊	散布地	縄文	縄文土層(早・後)		小友町中西	小友町中西
10	NF-78-0108	三日市	集積跡	縄文・古代	縄文土層(中)	土器類	小友町三日市	小友町三日市
11	NF-78-0166	庵跡1	散布地	古代	土間跡		小友町庵跡	小友町庵跡
12	NF-78-0173	庵跡2	散布地	縄文・古代	縄文土層(後)	土器類	小友町庵跡	小友町庵跡
13	NF-78-0178	庵跡3	散布地	縄文	縄文土層(後)	土器類	小友町庵跡	小友町庵跡
14	NF-78-0182	庵跡4	散布地	縄文	縄文土層(後)	土器類	小友町庵跡	小友町庵跡
15	NF-78-0188	庵跡5	散布地	古代	土間跡		小友町庵跡	小友町庵跡
16	NF-78-0189	庵跡6	散布地	古代	土間跡		小友町庵跡	小友町庵跡
17	NF-78-0229	庵跡7	散布地	縄文	縄文土層		小友町庵跡	小友町庵跡
18	NF-78-0281	小塚跡	散布地	縄文	縄文土層(前・中)	石椁・割片	小友町小塚	小友町小塚
19	NF-78-0292	溝跡	散布地	縄文	石椁・割片		小友町小塚	小友町小塚
20	NF-78-0321	両輪跡	埋藏跡	中世	主要	空堀	小友町両輪	小友町両輪
21	NF-78-0358	内堀	埋藏跡	中世			小友町両輪	小友町両輪
22	NF-78-0362	付田	散布地	縄文	縄文土層・割片		小友町付田	小友町付田
23	NF-78-1029	矢の浦1	散布地	縄文	縄文土層(前・中・後)		小友町矢の浦	小友町矢の浦
24	NF-78-1037	矢の浦2	散布地	縄文	縄文土層(前・中・後)	土器類・土間・土椁・石椁	小友町矢の浦	平成15年調査
25	NF-78-1048	矢の浦3	散布地	縄文	縄文土層(後)	貝類類	小友町矢の浦	小友町矢の浦
26	NF-78-1067	小友丸跡	瓦葺	縄文	縄文土層(後)	骨角器類	小友町小友丸	昭和50年・平成10～16年調査
27	NF-78-1079	溝跡1	散布地	縄文	縄文土層(後)		小友町溝跡	小友町溝跡
28	NF-78-1098	溝跡2	散布地	古代	内堀土層		小友町溝跡	小友町溝跡
29	NF-78-1149	穴込1	散布地	縄文	縄文土層		小友町穴込	小友町穴込
30	NF-78-1159	穴込2	散布地	縄文	縄文土層・土間跡		小友町穴込	小友町穴込
31	NF-78-1202	穴込3	散布地	縄文	縄文土層・土間跡		小友町穴込	小友町穴込
32	NF-78-1206	森崎1	散布地	古代	土間跡		小友町森崎	小友町森崎
33	NF-78-1214	遺骨	集積跡	縄文・弥生	住居跡・縄文(早・前・中)・弥生土層		小友町森崎	平成13～16年調査
34	NF-78-1217	森崎2	散布地	古代	土間跡		小友町森崎	小友町森崎
35	NF-78-1225	森崎3	散布地	古代	土間跡・遺物類		小友町森崎	小友町森崎
36	NF-78-1245	森崎4	散布地	古代	土間跡		小友町森崎	小友町森崎
37	NF-78-1246	森崎5	散布地	縄文・古代	縄文土層・土間跡		小友町森崎	小友町森崎
38	NF-78-1267	藤原跡	散布地	古代	土間跡		小友町藤原	小友町藤原
39	NF-78-1270	中道	散布地	縄文	縄文土層		小友町中道	小友町中道
40	NF-78-1273	藤原IV	散布地	縄文	縄文土層		小友町藤原	小友町藤原
41	NF-78-1293	藤原V	散布地	縄文	縄文土層		小友町藤原	小友町藤原
42	NF-78-1307	室の瓦葺遺跡	瓦葺遺跡	古・代	土間跡	石椁・割片	小友町室の瓦葺	昭和29・49・55～56年・平成元～3年調査
43	NF-78-1323	新田	散布地	古代	土間跡・遺物類		小友町新田	小友町新田
44	NF-78-1376	小ヶ口	散布地	古代	遺物類		小友町小ヶ口	小友町小ヶ口
45	NF-78-1391	長野淵1	散布地	縄文	縄文土層		広島町長野淵	広島町長野淵
46	NF-78-1397	長野	散布地	縄文・弥生	縄文土層・弥生土層		広島町長野	広島町長野
47	NF-78-2005	長野2	散布地	縄文・古代	縄文土層(後・後)		広島町長野	広島町長野
48	NF-78-2009	長野(埋藏)	埋藏跡	縄文・中世	縄文土層		広島町長野	広島町長野
49	NF-78-2130	船塚	散布地	縄文	縄文土層(後)		広島町長野	広島町長野
50	NF-78-2149	大塚原1	埋藏跡	中世・前・後	跡跡(割取所?)		広島町大塚原	広島町大塚原
51	NF-78-2162	船塚	散布地	縄文	縄文土層(前・中)		広島町大塚原	広島町大塚原
52	NF-78-2175	大塚原瓦葺遺跡	瓦葺	縄文	縄文土層(前・中)	石椁・骨角器	広島町大塚原	昭和51年調査
53	NF-78-2184	大塚原2	集積跡	縄文	縄文土層(前・後)		広島町大塚原	広島町大塚原
54	NF-78-2187	大塚原3	散布地	縄文	縄文土層		広島町大塚原	広島町大塚原
55	NF-78-2200	中道	散布地	縄文	縄文土層		小友町中道	小友町中道
56	NF-78-2239	埴野	散布地	縄文・古代	縄文土層(前・中)	土器類・石製品類	広島町埴野	昭和61年・平成15年調査
57	NF-78-2304	長野淵2	散布地	縄文	縄文土層・石椁		広島町長野淵	広島町長野淵
58	NF-78-2315	小長野	散布地	縄文・古代	縄文土層(後・前)	弥生土層・土間跡	広島町小長野	広島町小長野
59	NF-78-2321	埴野2	散布地	縄文	石椁		広島町埴野	広島町埴野
60	NF-78-2361	小塚跡	散布地	縄文・古代	縄文土層・土間跡・両輪		広島町小塚	広島町小塚
61	NF-78-1020	付田	埋藏跡	縄文・古代・中世	縄文土層		小友町付田	小友町付田
62	NF-78-1074	古石・瓦葺	埋藏跡	中・代	空堀・土間跡・主要	二の坊	小友町付田	小友町付田
63	NF-79-2021	矢野	埋藏跡	中世	主要		広島町矢野	埋藏
64	NF-88-0118	越田	散布地	縄文	縄文土層・石椁・割片	両輪	広島町越田	広島町越田
65	NF-88-0125	大塚原	散布地	古代	製塩縄文土層		広島町大塚原	広島町大塚原
66	NF-88-0242	大塚	散布地	縄文	縄文土層(後・前)		広島町大塚	埋藏
67	NF-88-1205	赤塚	埋藏跡	中・中	縄文土層		広島町赤塚	埋藏
68	NF-88-1245	中沢	散布地	縄文	縄文土層(後)		広島町中沢	平成
69	NF-88-1278	中沢	散布地	縄文	縄文土層(中・後)		広島町中沢	広島町中沢
70	NF-88-1284	小塚	埋藏跡	中世	跡		広島町中沢	広島町中沢
71	NF-88-1298	中沢瓦葺遺跡	瓦葺	縄文・弥生	縄文(早・前)	弥生土層・骨角器類	広島町中沢	平成9年調査
72	NF-88-1311	石野	埋藏跡	中世			広島町中沢	広島町中沢
73	NF-88-1315	平塚	埋藏跡	縄文	縄文土層		広島町中沢	広島町中沢
74	NF-88-2239	内田	散布地	縄文	縄文土層(中)	土間跡	広島町中沢	広島町中沢
75	NF-88-2256	久保瓦葺	瓦葺	縄文・古代	縄文土層(後)	土間跡	広島町久保	埋藏
76	NF-88-2269	久保	散布地	縄文	縄文土層(後)		広島町久保	広島町久保
77	NF-88-2342	六輪跡	埋藏跡	中世	跡・平塚		広島町久保	広島町久保
78	NF-88-2389	赤塚	埋藏跡	中世	縄文土層(中)		広島町赤塚	広島町赤塚
79	NF-89-1023	瀬田1	散布地	縄文	縄文土層		広島町瀬田	広島町瀬田
80	NF-89-1031	平塚	埋藏跡	中世	空堀・主要		広島町平塚	広島町平塚
81	NF-89-1052	瀬田	散布地	縄文	縄文土層(中)		広島町瀬田	広島町瀬田
82	NF-89-1140	大塚1	散布地	縄文	縄文土層(後)		広島町大塚	広島町大塚
83	NF-89-2030	此の塚	埋藏跡	縄文・弥生	縄文土層(後)	貝類類	広島町大塚	広島町大塚
84	NF-89-2104	高瀬跡	埋藏跡	縄文・古代	縄文土層(後)	土間跡	広島町大塚	平成20年度埋藏
85	NF-98-0303	常楽	瓦葺	縄文	縄文土層(前)		広島町常楽	広島町常楽
86	NF-98-0326	常楽	埋藏跡	縄文	縄文土層(前)		広島町常楽	広島町常楽
87	NF-98-0376	常楽	埋藏跡	中世	空堀		広島町常楽	広島町常楽
88	NF-98-1057	瀬田1	散布地	縄文	縄文土層		広島町瀬田	平成20年度埋藏
89	NF-98-1079	大塚1	散布地	縄文	縄文土層		広島町大塚	平成20年度埋藏
90	NF-98-2092	赤石瓦葺	瓦葺	縄文	縄文土層		広島町赤石瓦葺	平成20年度埋藏

### III 調査と室内整理の方法

#### 1 調査方法

- (1) すべて手掘りにより掘り下げた。
- (2) 基軸線の設定は、発掘区の南西隅に任意の基準杭を原点として設置し、発掘区の西壁に平行するように基軸線を設けた。また、原点に直交する直線を基軸線とした。発掘区の西壁に平行する基軸線は磁北より14度東偏している。グリットの設定は、4m幅の区画ごとに原点より北方向に向かってにA～Fのアルファベットで示し、同様に原点より東方向にむかって順に1～3のアラビア数字で示した。グリットの名称は各区画内における南西方向の交点の杭によりA1、B1、C1のように表した。
- (3) 遺物の取り上げは原則として、遺構内出土のものは、遺跡記号(SN)、出土年月日、遺構名、グリット名、出土層位を記録し取り上げた。グリット名は、各グリットの南西に位置する杭の番号を用いた。

出土土器のうち、攪乱層出土のものと土器細片を除く遺物は原則として、遺物番号を付け実測後取り上げた。
- (4) 遺構名は、発掘時において冠したものを報告書作成の段階で部分的に変更している。
- (5) 平面実測は、グリット軸に合わせた1mメッシュを基本とし1/10の縮尺を用いた。
- (6) 写真記録は、35mmモノクロとカラーズライド1台、デジタルカメラを用い、各種埋土堆積状況や断面、遺物の出土状況、完掘状況などについておこなった。撮影にあたっては、整理時の混乱を避けるため撮影カードを利用した。

#### 2 室内整理

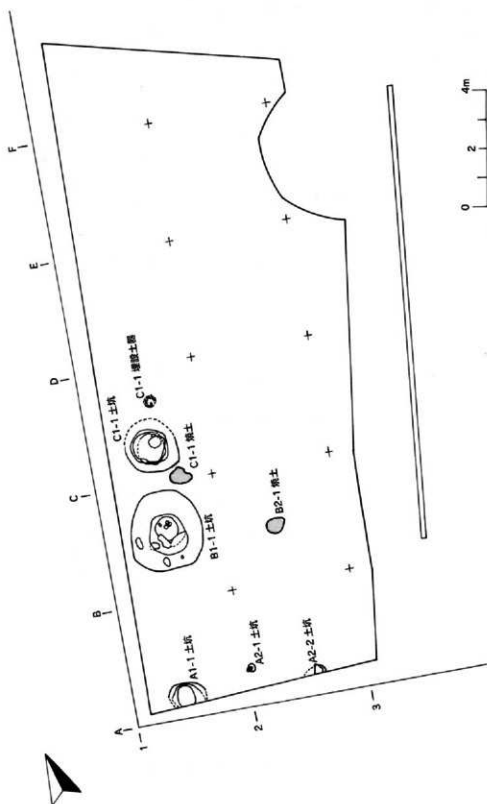
野外調査で得られた実測図、写真、遺物の各種資料は、室内整理の段階で以下のとおり処理、整理し、報告書作成の基礎とするとともに資料化をおこなった。

- (1) 土器・土製品  
発掘調査後、室内に持ち帰り整理をおこなった。55×42×26cmのコンテナで約40箱程度の出土量がある。水洗後、各遺物に注記を行い、各出土地点、層位ごとに仕分けと復元をおこなった。その後、拓本、実測、写真撮影の順で整理をおこなった。
- (2) 石器  
石器は水洗後、フレーク類からの石器の抜き取り、台帳登録をおこない、実測、計測、写真撮影を行った。石器は、約700点の出土量であり、データはすべてコンピューターに入力し管理した。石材の鑑定は、佐藤悦郎氏(大船渡市役所)に依頼した。
- (3) 図面  
図面は、遺構に関しては遺構カード、土器・土製品・石器に関してはそれぞれの遺物カードを作成した。遺構は縮小して、遺物は実大または縮小して実測、トレースをおこない図化した。各実測図は遺構ごとに分類し、原因点検の上、報告書作成に必要なものについては第2原因図を作成し用いた。
- (4) 写真  
写真はネガと密着焼き付けのものをアルバムに貼付して整理し、カラーズライドはスライドファイルに撮影順に収納した。

#### IV 発見された遺構 (第6図)

袖野 I 遺跡の発掘調査で発見された遺構は、土坑 5 基・焼土遺構 2 基・埋設土器 1 基である。遺構のすべては、堆積土中において検出し、地山面においての検出遺構は無い。

遺構の時期は、遺物を伴わない遺構もあるが、遺構外の出土遺物から推定して、縄文時代前期後葉から縄文時代中期のものと思われる。以下、土坑・焼土遺構・埋設土器の順に、その概要に触れる。



第6図 遺構配置図

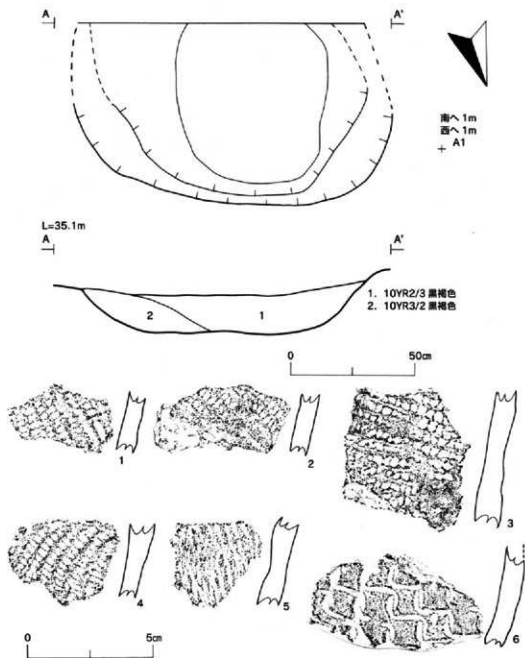
# 1 土坑

## (1) A1-1土坑(第7図、写真図版4)

A1グリットのVI層(10YR2/2)黒褐色土層の上面において全体の1/5程を検出した。残りはグリット南側の調査区域外に広がる。形状は楕円形を呈すると思われ、規模は、開口部の長軸は127cm、底部の短軸は60cmである。壁は緩やかに傾斜し、断面形は舟底状を呈している。埋土は2層からなり自然堆積である。

[出土遺物](第7図1~6、写真図版6-1~6)

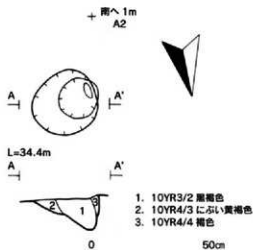
埋土中より縄文土器片21点が出土した。6点を図示した。1~6は深鉢の胴部片である。地文は、1~4は単節斜縄文が施文されるもので、1・2はRL、3・4はLRである。5は燃糸文が施され、6にはS字状連鎖沈文が施されている。1・2では、胎土に微量の植物繊維を含む。



第7図 A1-1土坑及び出土遺物

(2) A2-1土坑 (第8図、写真図版4)

A2グリットのV層 (10YR3/3) 暗褐色土の上面において検出した。形状は、開口部はほぼ円形を呈しているが、断面形は西方向に傾斜し、底部は尖底をなす。規模は、開口部径29cm、底部径は8cm×3cmである。埋土は3層からなり、1層は柱痕、2・3層は埋土と思われる。遺物の出土は無い。



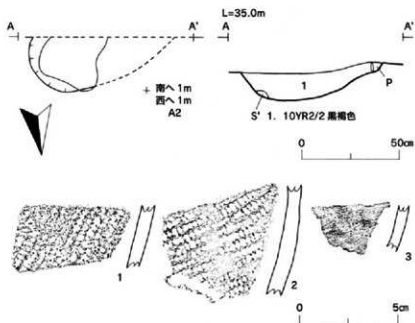
第8図 A2-1土坑

(3) A2-2土坑 (第9図、写真図版4)

A2グリットのⅢ層 (10YR3/3) 暗褐色土の上面において検出した。形状は、不整形形で、グリット南側の調査区域外に広がる。規模は、残存部の開口部の最大幅は40cm、底部は20cm、深さ12cmである。埋土は1層からなる。

[出土遺物] (第9図1～3、写真図版6～7～9)

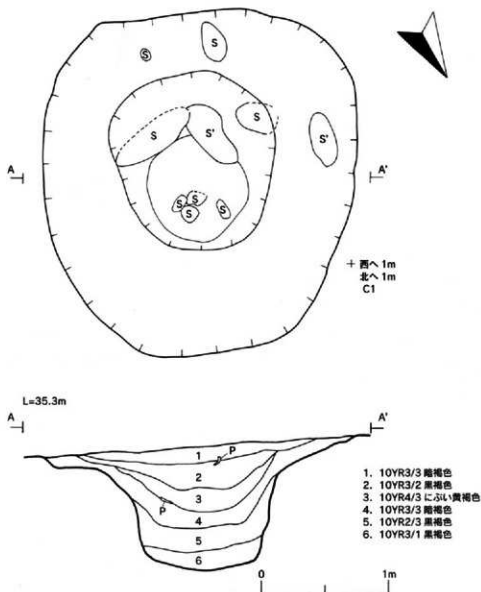
埋土中より縄文土器片24点 (うち口縁部片1点) が出土した。3点を図示した。1～3は深鉢の胴部片である。1・2はLRの単節斜縄文が施文され、3は無文である。



第9図 A2-2土坑及び出土遺物

(4) B1-1土坑(第10図、写真図版4)

B1グリットのVI層(10YR2/2)黒褐色土の上面において検出した。形状は、ほぼ円形を呈しており、断面形は、開口部から断面中央部付近までは緩やかに傾斜し、中央部から底部にかけてはほぼ直壁状をなしている。規模は、開口部の径は140cm、底部径は70cm程である。埋土は6層からなり自然堆積である。



第10図 B1-1土坑

[出土遺物](第11～16図、写真図版6～10～7～76)

出土した遺物は、土器・土製円盤・石器がある。

土器は、縄文土器細片が724点出土した。47点を図示した。いずれも、埋土中からの出土である。

2～6は、大木1式に相当すると思われるもので、胎土中に植物繊維を含むものである。2は深鉢の胴部片である。結節の無い羽状縄文が施文される。3は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、口縁部は外傾する。文様は口唇に短い斜め沈線が、胴部には横位の斜縄文(前々段多条RL)が施文されている。4～6は深鉢の胴部片である。いずれも斜縄文が施文され、4は前々段多

条(RL)、5は横位単節斜縄文(RL)、6は横位単節斜縄文(LR)である。

7は、深鉢の胴部片で大木2b式に相当すると思われるものである。S字状連鎖沈文施文後に、縦位の粘土紐を貼付し、貼付文には指頭押圧文を有している。

8～10は、深鉢の胴部片で大木4式に相当すると思われるものである。縄文施文後に、8では弧状貼付文、9では横位の波状貼付文と弧状貼付文、10では横位の波状貼付文が施文されている。

12は、深鉢の口縁部片、11・13・14は深鉢の胴部片で、大木5式に相当すると思われるものである。12は、口縁は平縁をなし若干外反する。口唇には浅い沈線による山形沈線文を有し、口縁部は無文で、胴部には横位の山形沈線文が施文されている。11は原体施文後(LR)に隆帯を貼付し、隆帯に山形の切込みを入れている。13は半截竹管による縦位の、14では沈線による横位の山形沈線文を有している。

15～43は、大木6式～大木7a式に相当すると思われるものである。

15～22は、刻みや刺突の施された横位の隆線を有するものである。15～17・19～21は、深鉢の口縁部片で、16・17は同一の土器の破片である。口縁は、15～17・21は平縁をなし、19は双頭波状口縁、20は波状口縁をなす。口縁部の断面形は、15は外傾、16・17は内反、19～21は外反である。文様は、15は口縁部に幅の広い横位貼付文を有し、貼付文には竹管による刺突が施される。16・17では口唇に変形した山形突起を有しており、突起下には円文や刺突の施された楕円形の貼付文・縦位の貼付文を有し、縦位貼付文には半截竹管による爪形文を有している。口縁部には横位沈線が3条と横位爪形文を有する。19は双頭波状の突起下に円形の貼付文を有し中央は指頭によってくびれる。口縁部には半截竹管による横位波状沈線と、横位隆線が巡り、隆線上には爪形文を有している。20は波状部が幅広く作り出され、口唇は楕円形にくびれている。口縁の形状に沿って、2条の隆線を有している。21は口唇に沿って幅広い隆線を有するもので、隆線上には刺突文と縦位の沈線が施文される。18・22は深鉢の胴部片である。口縁部と胴部は刻みの施された一条の隆線によって区画されている。

1・23～27は、貼付文・ボタン状貼付文を有するものである。1は深鉢の口縁部から胴部下半にかけてのもので、全体の1/3程が残存する。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面はやや内湾ぎみに外傾している。文様は、口縁部と胴部は1条の隆線によって区画され、口縁部には波状部下に刻みを有する縦位の貼付文を有し、6条の沈線と3条の波状沈線が巡る。胴部には縦位の結節を有する羽状縄文が施文される。23・24は、深鉢の口縁部から胴部片である。口縁は、23は山形口縁、24は平縁をなし、口縁部の断面は外傾である。口縁部の文様は、23では弧状の貼付文、24では縦位の貼付文とボタン状貼付文を有し、ともに横位沈線・弧状沈線を有している。口縁部と胴部の境には、23では刺突文列・波状沈線・横位沈線が、24では刺突文列を有している。胴部には、23では縦線文を、24では胴部上反に弧状沈線と横位沈線が、胴部下反には単節斜縄文が施文されている。25～27は深鉢の口縁部片である。口縁は、25は山形口縁、26は波状口縁をなし、断面形は、25・26は内反、27は外傾である。文様は、26はボタン状貼付文と弧状沈線が、27では沈線が施文された縦位貼付文と横位沈線が、25では縦位の貼付文と弧状沈線が施文されている。

28～33は、沈線による文様を有するものである。28～30は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面は、28は外反、29・30は外傾である。文様は、28は口唇に沿って横位の刺突文列を有し、口縁部には縦位の弧状沈線と刺突文列が施文され、横位沈線によって胴部とを区画している。29には刺突文と沈線が、30には横位沈線と波状沈線・弧状沈線が施文されている。31～33は深鉢の胴部片である。31には渦巻き文・平行沈線・山形沈線・弧状沈線が、32にはLRの単



節斜縄文施文後に波状沈線が、33では燃糸文施文後に弧状沈線が施文されている。

34～43は、半截竹管によって施文されるものである。34・35は深鉢の口縁部資料である。口縁はともに平縁をなし、断面は34では頸部で屈折し口縁部は外傾し、35では外傾している。文様は、34では口縁部は半截竹管による横位の沈線文を有し、胴部には縦位の綾絡文有している。35では単節斜縄文施文後に半截竹管による沈線文を有している。36～43は深鉢の胴部片である。36は頸部から胴部にかけての破片で、頸部には横位の半截竹管による沈線文が、胴部には沈線文が施文されている。37は斜縄文(RL)施文後、半截竹管による斜め沈線・波状沈線が施文される。38～41・43は半截竹管によって、38は格子状の文様が、39は山形沈線・斜め沈線が、40は弧状沈線が、41は縦位沈線・弧状沈線が、43は横位沈線・波状沈線が施文されている。42は斜縄文(LR)施文後、半截竹管による斜め沈線が施文されている。

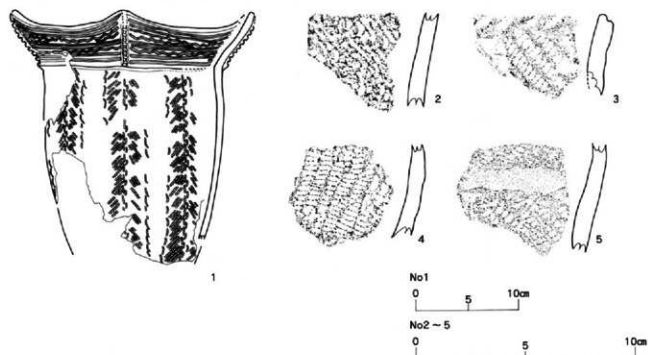
44～46は、文様が地文のみのものである。44は口縁部資料で、口縁は刻みを有する小波状口縁で、断面は外反である。胴部には燃糸文が施文される。45・46は縦位の燃糸文が施文される。

47はミニチュア土器である。手づくねで壺状に作り出されているが、整形されず、いびつである。

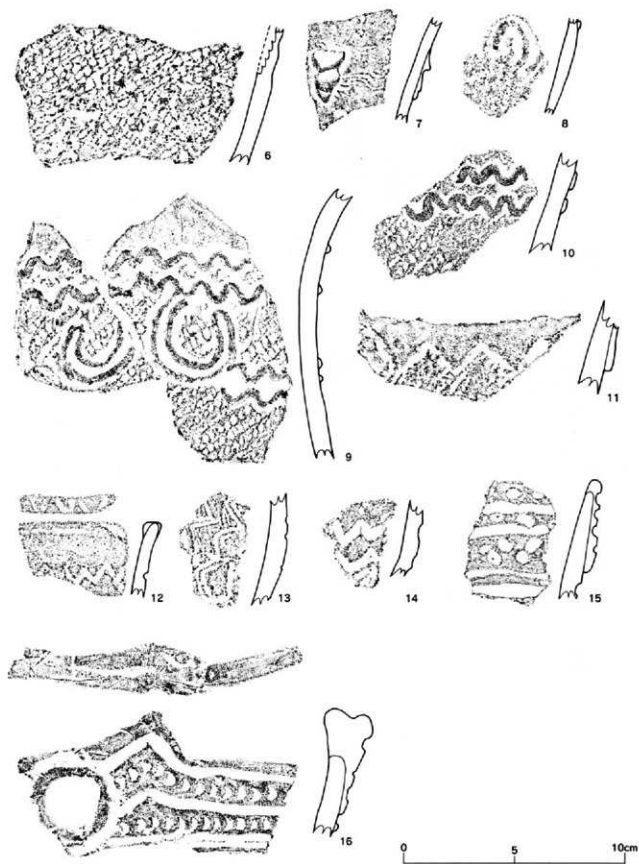
48～51は土製円盤である。形状は円形を呈し、打ち欠きによる整形後、周縁を研磨している。

石器は、石鏃9点・不定形石器6点・磨製石斧の剥落片1点が出土した。

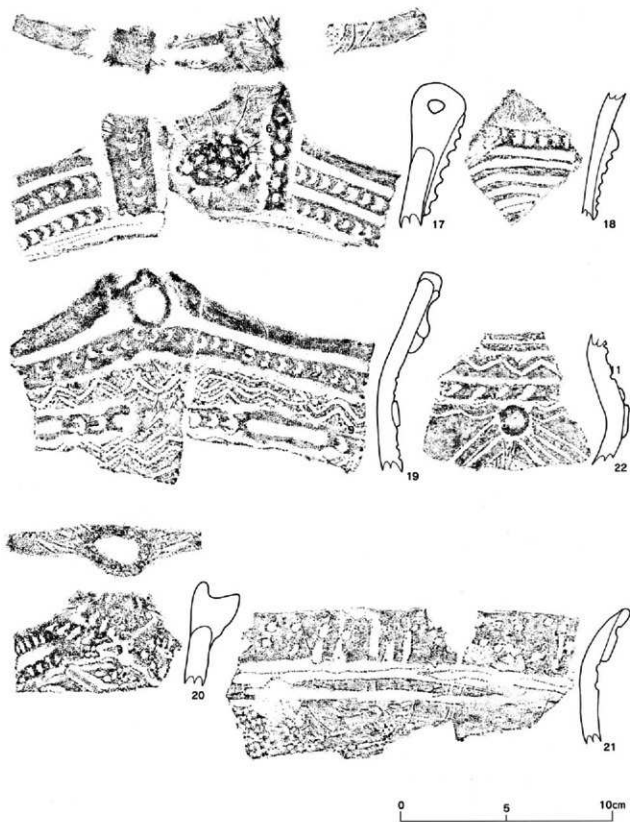
52～60は、凹基石鏃である。52～56は側縁が外弧をなすものである。52・53・55は片面に一次剥離痕を残している。57・58は側縁が直線的なものである。両面が剥離調整され、丁寧な作りとなっている。59・60は側縁の中央部付近で最大幅をなすものである。ともに片面に一次剥離痕を残す。厚さが厚く作り出されている。61～66は不定形石器である。61は一縁辺に片刃の刃部を有する。62～66は二縁辺に刃部を有するものである。62・64・65は二縁辺に片刃の刃部が、63は片刃と両刃の刃部が、66は二縁辺に両刃の刃部が作り出されている。67は磨製石斧の剥落片である。一面のほぼ全面に研磨痕を残している。



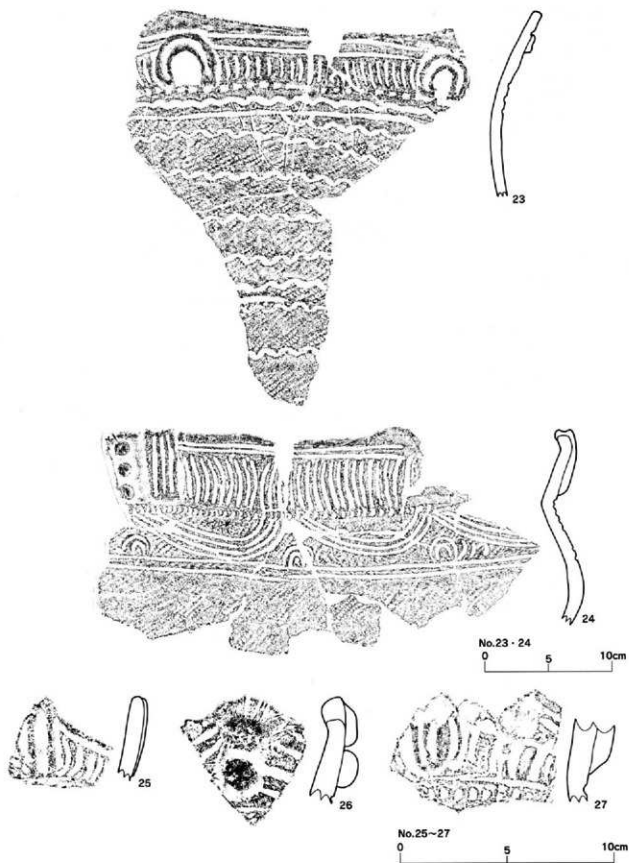
第 11 図 B1-1 土坑出土遺物



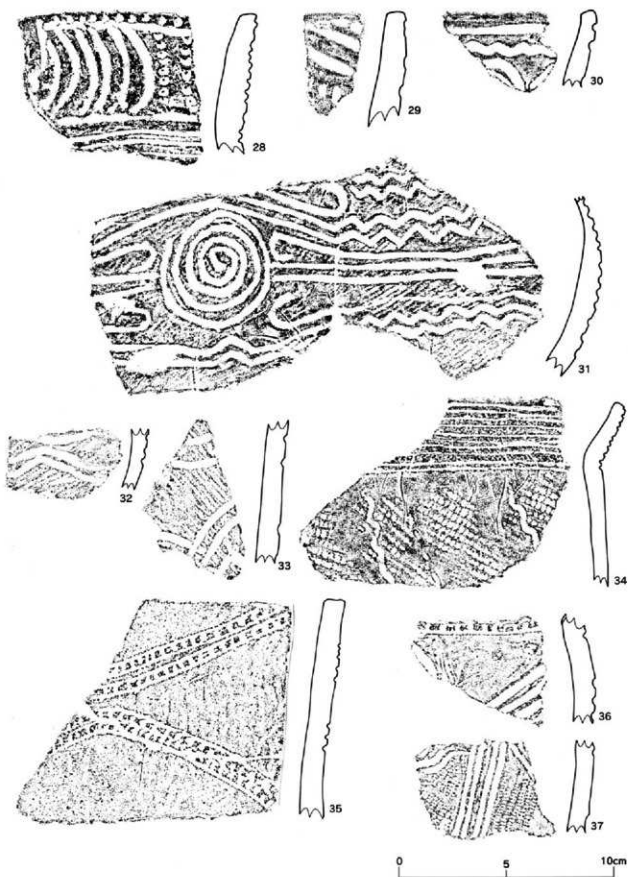
第12图 B1-1土坑出土遺物



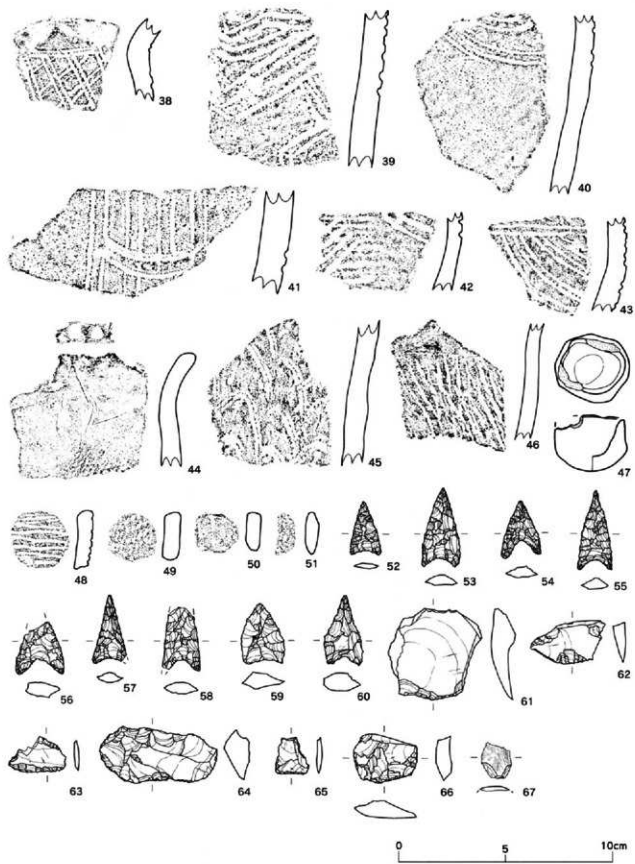
第13圖 B1-1土坑出土遺物



第14図 B1-1土坑出土遺物



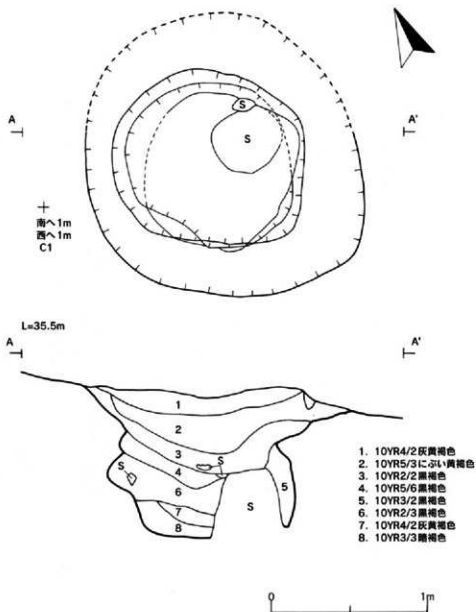
第15图 B1-1土坑出土遺物



第16图 B1-1土坑出土遗物

(5) C1-1土坑 (第17図、写真図版5)

C1グリットのV層において検出した。全体の1/3程の開口部については不明である。形状は円形を呈し、断面形の形状は、中央で壁が縮まるフラスコ状をなす。規模は、開口部の最大幅は188cm、底部径は106cm、深さ89cmである。埋土は、7層からなり自然堆積である。



第17図 C1-1土坑

[出土遺物] (第18～20図、写真図版7-77～101)

出土遺物は、土器・石器がある。

土器は、縄文土器細片が135点出土した。23点を図示した。いずれも、埋土中からの出土である。

1～3は胎土に植物繊維が混入するもので、大木1式に相当すると思われるものである。1は深鉢の口縁部資料である。口縁は平縁をなし、断面形は外傾している。口唇は平坦である。文様は、結節の無い羽状縄文(RL・LR)と斜め方向からの刺突による刺突文列が施文されて

いる。2・3は深鉢の胴部片である。ともに原体は前々段多条で、1は結節の無い羽状縄文が、2は斜縄文が施文されている。

4・5は大木4式に相当すると思われるものである。4は深鉢の口縁部片で、口縁は平縁あるいは波状口縁で、断面形は外反している。文様は、口唇部下は無文で、口縁部には単節斜縄文上に巾の狭い横位の隆線が貼付されている。5は横位の幅の狭い隆線を有している。

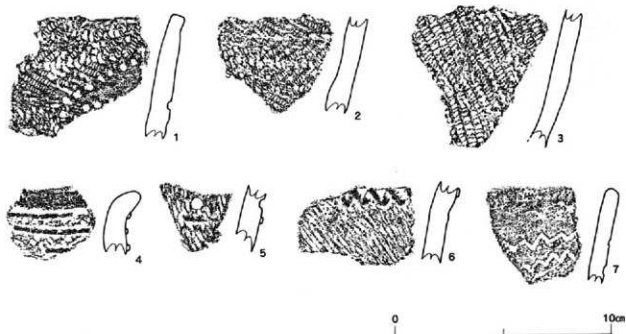
6・7は大木5式に相当すると思われるものである。6は深鉢の胴部片である。貼付文による山形文を有している。7は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は若干外反している。口縁部は無文で、胴部に横位の山形沈線を有している。

8～14は大木6式に相当すると思われるものである。8～14は深鉢の胴部片である。半截竹管による曲線文や直線文を有する。

15～23は形式不明のものである。15は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は外傾である。表面はほとんど剥落しており文様は不明であるが、口唇下に横位の刺突文を有している。16～18は深鉢の口縁部片である。口縁部は平縁をなし、16は口唇部に刺突が施され、18は折り返し口縁を有している。17は口唇部に粘土が貼り付けられ、表裏に折り返され、口唇に斜め方向からの刺突を有している。断面形は16では外傾、17・18は外反である。文様は、18は無文で、17は胴部に浅い縦位の縄文原体の側面圧痕文を有している。16ではLRの単節斜縄文が施されている。

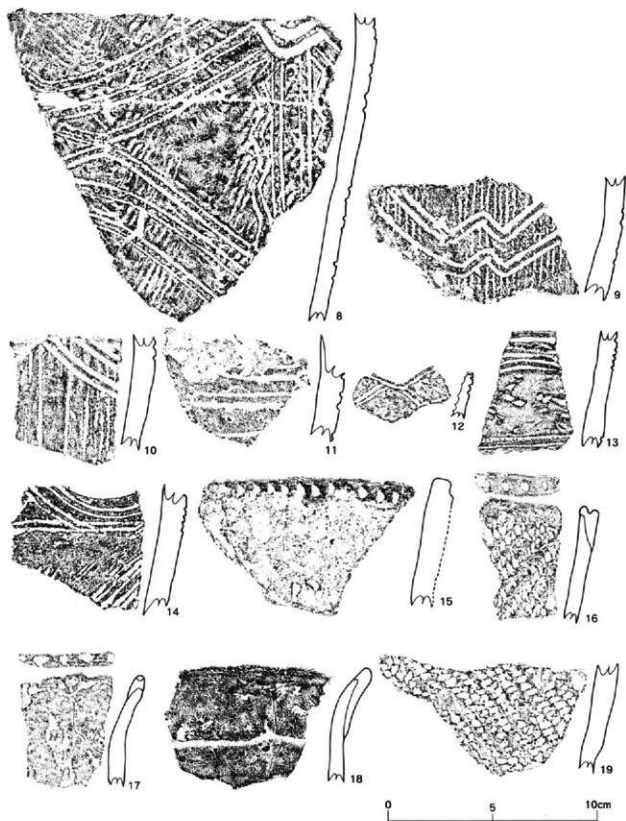
19～23は深鉢の胴部片である。19はLRの単節斜縄文を、20は木目状燃糸文を、23は燃糸文を有している。21・22は不明である。

石器は不定形石器2点が出土した。24は片面のみに幅の狭い刃部を有するもので、他の面

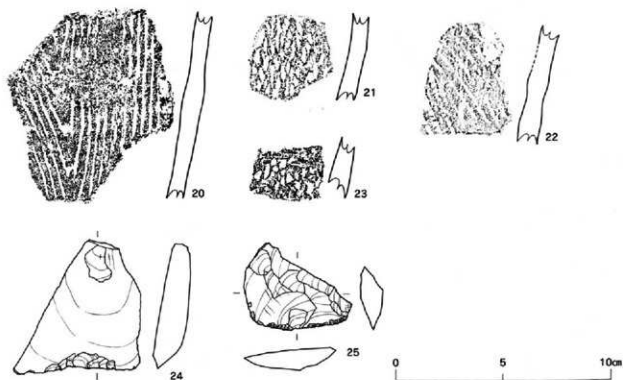


第18図 C1-1 土坑出土遺物





第19圖 C1-1土坑出土遺物



第20図 C1-1 土坑出土遺物

## 2 焼土遺構

### (1) B2-1 焼土遺構 (第21図、写真図版5)

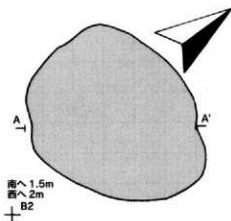
B2グリットにおいて検出した。規模は65cm×50cmの楕円形で、厚さは14cmである。炭化物は見られず、投棄の可能性はある。遺物の出土も無い。

### (2) C1-1 焼土遺構 (第21図、写真図版5、写真図版8-102～105)

C1グリットのV層において検出した。規模は71cm×57cmの不整形形で、厚さは13cmである。炭化物が微量含まれるものの、投棄の可能性はある。

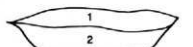
出土遺物は、焼土中より土器片13点、石鏃1点が出土した。土器片3点を図示した。1～3は深鉢の胴部片である。1は大木5式に相当すると思われるものである。沈線による山形文を有する。2・3は型式不明のものである。LRの単節斜縄文が施文される。4は無茎の石鏃である。側縁は外弧をなし、片面に一次剥離痕を残している。

B2-1 焼土



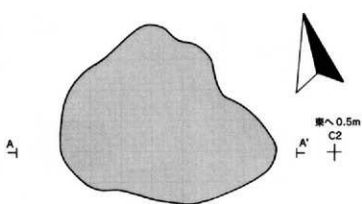
南へ 1.5m  
西へ 2m  
B2

L=34.5m



1. 焼土 多 7.5YR4/3 褐色  
2. 少 10YR3/3 暗褐色

C1-1 焼土



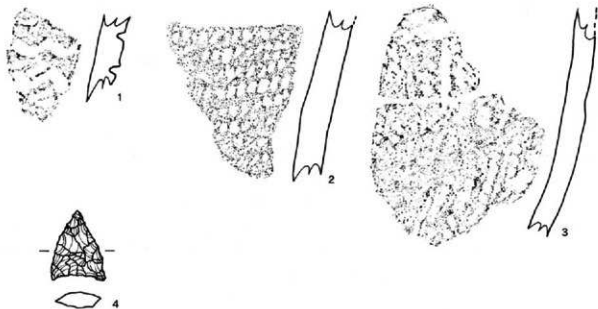
東へ 0.5m  
C2

L=35.2m



1. 焼土 多 10YR4/6 褐色  
2. 少 10YR4/2 灰黄褐色

0 50cm



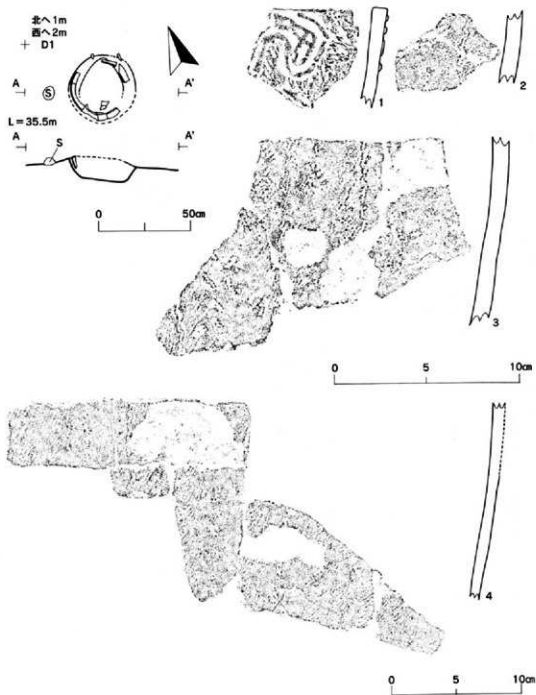
0 5cm

第21図 B2-1・C1-1焼土遺構及び出土遺物

### 3 埋設土器

#### C1-1埋設土器 (第22図、写真図版5、写真図版8-106~109)

C1グリットのV層において検出した。規模37cm×(37)cm、深さ(11)cmの円形の土坑に、深鉢の胴部が埋設される。第22図2~4は埋設土器である。同一固体であり、胴部中央部のみの埋設である。結節を有する斜縄文が、縦位で施文されている。1は深鉢の口縁部片である。埋土中からの出土である。口縁は平縁をなし、口縁部の断面形は外傾である。口縁部に細い隆線によって梯子状の文様が施文されている。



第22図 C1-1埋設土器



第3表 遺構内出土土製品一覧表

図 版	写真図版	出土地点	器 種	形 状	計測値 (cm)			重量 (g)	登録 No
					長さ	幅	厚さ		
第16図 48	7-57	B1-1土坑	土製円盤	円形、打ち欠き	2.78	2.81	0.89	8.7	1640
第16図 49	7-58	B1-1土坑	土製円盤	円形、打ち欠き	2.25	2.25	0.78	5.4	1641
第16図 50	7-59	B1-1土坑	土製円盤	円形、打ち欠き	1.81	2.00	0.67	3.4	1688
第16図 51	7-60	B1-1土坑	土製円盤	円形、打ち欠き	1.90	(0.90)	0.71	1.3	2647

第4表 遺構内出土石器一覧表

図 版	写真図版	出土地点	器 種	形 状	計測値 (cm)			重量 (g)	石 材	登録 No
					長さ	幅	厚さ			
第16図 52	7-61	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	2.49	1.43	0.23	0.7	珪質頁岩	18183
第16図 53	7-62	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	3.71	1.77	0.47	2.7	珪質砂岩	18118
第16図 54	7-63	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	2.70	1.84	0.49	1.6	チャート	18147
第16図 55	7-64	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	3.75	1.61	0.55	2.5	珪質頁岩	18154
第16図 56	7-65	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	(2.42)	2.26	0.62	2.5	凝灰質頁岩	18230
第16図 57	7-66	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	3.17	1.57	0.46	1.8	珪質頁岩	18209
第16図 58	7-67	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	(3.00)	1.83	0.49	2.4	珪質頁岩	18193
第16図 59	7-68	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	2.79	2.00	0.72	3.7	珪質頁岩	18059
第16図 60	7-69	B1-1土坑	石鏃	無茎凹基	3.27	1.89	0.74	3.9	珪質頁岩	18199
第16図 61	7-70	B1-1土坑	不定形石器	1鎌辺片刃	4.36	4.24	1.36	24.7	ホルンフェルス	18537
第16図 62	7-71	B1-1土坑	不定形石器	2鎌辺片刃	2.48	1.88	0.25	1.2	珪質粘板岩	18585
第16図 63	7-72	B1-1土坑	不定形石器	1鎌辺片刃・1鎌辺両刃	3.60	1.83	0.54	3.6	珪質岩	18586
第16図 64	7-73	B1-1土坑	不定形石器	2鎌辺片刃	5.42	7.53	1.14	14.1	珪質頁岩	18588
第16図 65	7-74	B1-1土坑	不定形石器	2鎌辺片刃	1.74	1.54	0.22	0.7	粘板岩	18602
第16図 66	7-75	B1-1土坑	不定形石器	2鎌辺両刃	2.21	2.91	0.75	5.1	凝灰岩	18604
第16図 67	7-76	B1-1土坑	磨製石斧	剥落片	(1.85)	(1.42)	(0.28)	0.8	細粒砂岩	18491
第20図 24	7-100	C1-1土坑	不定形石器	1鎌辺片刃	6.22	5.72	1.36	46.8	細粒砂岩	18514
第20図 25	7-101	C1-1土坑	不定形石器	マイクロレーキング	5.19	3.88	0.89	16.0	珪質砂岩	18623
第21図 4	8-105	C1-1焼土	石鏃	無茎凹基	2.29	1.80	0.47	1.7	珪質頁岩	18139

## V 遺構外出土遺物（第23図～第59図、第5表～第7表、写真図版9～25）

2003年に実施した袖野Ⅰ遺跡の発掘調査では、遺構外から土器・土製品・石器が出土している。ここでは、土器・土製品・石器の順にその概要について触れる。

### 1 土器

土器は、図化した資料53点、土器片が55cm×42cm×26cmのコンテナで約40箱が出土している。出土した土器の時期は、縄文時代前期・中期・後期・晩期があり、特に前期末から中期初頭のものが多く出土している。

以下、縄文時代前期のものを第Ⅰ群、前期末から中期初頭のを第Ⅱ群、中期中葉から中期後葉のものを第Ⅲ群、後期のものを第Ⅳ群、晩期のものを第Ⅴ群、型式不明のものを第Ⅵ群として分類する。

#### 第Ⅰ群 縄文時代前期のものである。

##### 第1類

大木1式に相当すると思われるものである。出土量は少ない。植物繊維を胎土に含むものが多く、原体により細分が可能である。

##### A.（第35図54～62、写真図版14-54～62）

結節を有する羽状縄文を施文するものである。出土数は少ない。54・55は深鉢の口縁部片、56～62は胴部片である。54・55は平縁をなし、口縁の断面形は、54は外反、55は外傾である。ともに口唇部直下まで原体が施文されている。胎土には、全て植物繊維を含む。原体は全て前々段多条（LR l・RL r）である。

##### B.（第35図63～75、写真図版14-63～75）

結節の無い羽状縄文を施文するものである。出土数は少ない。63～66は深鉢の口縁部片、67～75は深鉢の胴部片である。口縁部片はすべて平縁をなし、口縁の断面形は、63～65は外反、66は外傾である。63・64は口唇部に斜めの刻みを有している。胎土には、63・65～70・72～75では植物繊維を含む。原体は63～74は前々段多条（LR l・RL r）で、75は上半が前々段多条（LR l・RL r）、下半が直前段半撚（RRL）である。

##### C.（第35図76～82、写真図版14-76～82）

ループ文を有するものである。出土数は少ない。76～81は深鉢の口縁部片である。口縁部は、76は山形突起をなし、77～81は平縁をなす。口縁の断面形は、76・78・79は内反、77・81は外反、80は外傾である。口唇部直下は、76・78は無文、77・79は口唇部直下まで斜縄文（LR）、80・81は口唇部直下までループ文が施文されている。ループ文は、細片ではあるが、81は3段、76・80は4段、77は5段、79は6段、78は8段を有しており、77は斜位のループ文が施文されている。76は前々段多条（RLr）、80は0段多条（Lr）の縄文が施

文される。82は深鉢の胴部片である。5段のループ文を有する。胎土には、76～80・82では植物繊維を含み、81は剥落のため不明である。

**D. (第35図83～第42図91、写真図版14-83～91)**

**斜縄文を施文するものである。**出土数は少ない。93～81は深鉢の口縁部片である。83～90は深鉢の口縁部片である。口縁部は、83～87・89・90は平縁をなし、88は刻みにより小波状口縁をなしている。口縁の断面形は、83・84・87は外反、85・86・88～90は外傾である。口唇部の形状は、83・84では平坦に作り出され、84は外側に張り出し、85は内面に向かって削られ、87は尖る。89・90は口唇部に刻みを有している。地文は、83～87・89では口唇部直下まで縄文が施文され、83は単節斜縄文(LR)、88は単節斜縄文(RL)、84・86は前々段多条(RLr)、85・87・89は前々段多条(LRl)である。90は組紐による施文と思われる。89は小破片ではあるが、胴部に半截竹管による刺突文と、穿孔を有する。90も穿孔を有する。91は深鉢の胴部片である。地文は組紐?と思われる。全ての胎土に植物繊維を含んでいる。

**E. (第36図92、写真図版14-92)**

**燃糸文を有するものである。**1点のみの出土である。92は深鉢の口縁部片である。口縁部は波状口縁をなし、口縁部の断面形は外傾である。口縁部に横位の燃糸文が施文され、胴部は無文である。胎土に植物繊維を含む。大木2a式の可能性もある。

**第2類 (第36図93～105、写真図版14-93～105)**

**大木2b式に相当すると思われるものである。**出土量は少ない。胎土に植物繊維を含むものが多く見られるが、含有量は第1類と比べると少なく、含まないものもある。胴部には、S字状連鎖沈文を有する。

93～100は深鉢の口縁部片である。口縁部は全て平縁をなし、口縁の断面形は、93～99は外反・100は内反である。口縁部には地文が施されず、93では一条の原体の側面圧痕文を、94では1条の沈線による波状文と半截竹管による4条の沈線が、95～98では刻みの施された横位の貼付文が、99では刺突文を有している。100の口縁部は無文である。胴部にはS字状連鎖沈文が施文される。101～105は深鉢の胴部片である。S字状連鎖沈文が施文され、105では結節を有する。93～97・101・103は胎土に植物繊維を含むが微量で、他には含まれない。

**第3類 (第36図106・107、写真図版14-106・107)**

**胎土に微量の植物繊維を含むもので、形式不明のものである。**出土数は少ない。106は深鉢の胴部片で、縦位の刻みを施す貼付文と、横位の綾絡文を有している。107は口縁部片である。口縁部は平縁をなし、断面形は外反である。口唇直下から燃糸文が施文され、口縁部には横位の刻みを有する貼付文一条を有する。

**第4類 (第23図1・2、第36図108～第39図170、写真図版9-1・2、写真図版14-108～15-170)**



大木4式・5式に相当すると思われるものを一括した。出土量が多い。

**A. (第36図108～第37図125、写真図版14-108～125)**

**細い粘土紐による小波状・「の」の字状・弧状の貼付文を有するもので、大木4式に相当すると思われるものである。**

108～113は深鉢の口縁部片である。口縁の断面形は、すべて外反で、108～111・113は平縁をなし112は山形突起を有している。108～112は、口縁部は無文で、口縁部内面に貼付文を有するもので、108・109は小波状貼付文を、110は小波状貼付文と円形・直線状の貼付文を、111～112は小波状貼付文と円形の貼付文を有している。108は口唇を平坦に調整しており、平坦面に小波状貼付文を有する。113は口縁部が無文で、頸部に横位の小波状貼付文を有している。

114～116は口縁部から胴部にかけてのもので、口縁部は無文で、114・116は小波状貼付文によって口縁部と胴部が区画されている。115は胴部に単節斜縄文(LR)施文後に、小波状貼付文を施文している。116では小波状貼付文と弧状貼付文が施文されている。

117～125は胴部片である。118・123は横位の小波状貼付文が、117・125は小波状貼付文と「の」の字状貼付文が、119は横位の直線状の貼付文と小波状貼付文が、120は小波状貼付文と弧状貼付文が、121・124は横位・縦位の小波状貼付文が、122は弧状貼付文が施文されている。

**B. (第23図1・2、第37図126～第38図155、写真図版9-1・2、写真図版14-126～15-155)**

**大木5式に相当すると思われるものである。**

1は、深鉢の口縁部から胴部下半にかけての2/3程が残存する。口縁部は平縁をなし、口縁部の断面形は外傾である。口唇直下から胴部下半にかけて斜縄文(LR)が施文され、その後口縁部に口唇部まで及ぶM字状の貼付文を有している。

2は、深鉢の口縁部から胴部下半にかけてのもので、全体の1/3程が残存する。口縁部は山形口縁をなし、断面形は内反気味に立ち上がり口唇で外側に折れ曲がっている。文様は、山形口縁の頂部下にボタン状の貼付文を有し、胴部下半まで燃系文が施文され、その後口縁部から胴部上半にかけて横位の弧状沈線・山形沈線・鉤状の沈線が施文されている。

126～138は、細い粘土紐の貼付による連続山形文を有するものである。126～131は深鉢の口縁部片である。口縁部は、126は口縁に鋸歯状裝飾帯を有し、127～130は平縁・131は山形口縁をなす。口縁部の断面形は、126・129は外反、127・128は外傾、130は頸部で「く」の字状に屈折し外反、131は外傾している。文様は、126～130は、原体施文後に横位の2条の連続山形文が施文され、127では梯子状の貼付文も有している。129は上位の連続山形文が剥落している。131は隆起線によって口唇が肥厚し、貫通孔を有している。132～138は深鉢の胴部片である。138では横位の1条の連続山形文が、132～134は横位の2条の連続山形文が、135は縦位の2条の連続山形文が、136・137は横位の貼付文と連続山形文が施文されている。連続山形文の貼付は、136以外はすべて原体施文後に行われている。

139は口縁部に刺突を有する鋸歯状裝飾帯を有するものである。口縁部の断面形は外傾をなす。

140・141は、口縁部に鋸歯状裝飾帯状の文様を有するものである。140は、口縁部は平縁をなし、断面形は外反である。折り返し口縁上に縦位の沈線を施文することにより、鋸歯状裝飾帯状の文様を作り出している。口唇は尖り刻みを有している。141は、口縁部は平縁をなし、断面系は外反である。口唇部の表裏に刺突を加えることにより、鋸歯状裝飾帯状に作り出している。

142・143は口縁部の外面に環状貼付文を有するものである。142は刺突の施された環状貼付文を有するもので、口縁の断面形は外反である。口唇の内・外面にも刺突文列を有している。143は無文の環状貼付文を有するもので、口縁部は平縁をなし、断面形は外反である。

144～155は、沈線による山形沈線文を有するものである。144～148は深鉢の口縁部片である。口縁部は、144・145は波状口縁、146は山形口縁、147・148は平縁をなす。口縁部の断面形は、144・146は内反、145は外反、147・148は外傾である。文様は、144では口縁の形状に沿って口縁部に2条の沈線が施され、胴部には縦位の山形沈線が施文される。145・148では横位の山形沈線が、146では山形口縁の頂部にボタン状の貼付文を有し、縦位の山形沈線が施文される。147では口縁部の内外面に横位に粘土紐が貼付され、外面には刺突文を有する。頸部には横位の刺突文列を有し、胴部には半截竹管による横位の山形沈線を有している。149～155は深鉢の胴部片である。149・150・153・154では横位の山形沈線が、151・155は縦位の山形沈線が、152は半截竹管による横位の山形沈線が施文される。

#### C. (第38図156～第39図170、写真図版15-156～170)

梯子状貼付文・格子状貼付文を有するものを一括した。型式的には、大木4式・大木5式に相当する。

156～161は深鉢の口縁部片である。口縁部は、156～159は平縁、160は山形口縁、161は波状口縁と思われ波頂部の外側に刺突の施されたボタン状貼付文を有している。口縁部の断面形は、156～159は外反、160は内反、161は外傾である。文様は、一条の貼付文によって区画された内側に、梯子状・格子状の文様が貼付されている。162～170は深鉢の胴部片である。文様は、一条の貼付文によって区画された内側に梯子状・格子状の貼付文を有するもの(162・163・166・168・169)と、一条の貼付文による区画の無いもの(164・165)がある。167・170は波状貼付文を有しており、大木4式に相当すると思われる。

#### 第II群

縄文時代前期末から中期初頭の、大木6式・7a式・7b式に相当すると思われるものを一括した。うち、大木7a式は出土点数が多く、発掘資料の中心をなすものである。ここでは、型式ごとに分類し、更に器種における胴部文様の有無によって細分する。

#### 第1類 (第23図3～第25図12、第39図171～第40図183、写真図版9-3～12、写真図版15-171～183)

大木6式に相当すると思われるものである。器種は、球胴形深鉢・長胴形深鉢がある。

#### A. (第23図3～第24図7、第39図171、写真図版9-3～7、写真図版15-171)

球胴形の深鉢である。

3～6は、口縁部から胴部にかけてのもので、胴部文様帯を有するものである。口縁部は、すべて平縁をなす。断面形は、3・4は内反、6は外傾、5は外傾気味に立ち上がり口唇内面が膨らんでいる。4・5は、口唇に台形状の突起を有しており、4では幅広の台形状の突起と、その左右に幅の狭い突起2個を有し、突起には刻みがつく。5では3個単位の突起が付いている。口縁部の文様は、3では、斜め沈線・V字状の沈線・刺突文列を有している。4では、幅広の突起下には貼付文（剥落により形状不明）と途中で「V」字状に折れ曲がる横位沈線、横位の弧状沈線を有する。5では、渦巻き状の貼付文・中央が窪み渦巻き状の沈線が施文される貼付文・途中で「W」字状に折れ曲がる横位沈線と波状沈線・弧状沈線を有している。6では、3本単位の縦位の貼付文・横位沈線・斜め沈線・弧状沈線が施文され、縦位の貼付文には原体の側面圧痕文を有している。頸部には、3では横位沈線と刺突文列、4・6では横位沈線を有している。胴部上半には、3では円文と波状沈線・横位沈線・刺突文列が、4～6では緩やかに斜めに下がり先端が渦巻き状をなす沈線と、縦位の弧状沈線を有する。胴部下半には、3では櫛引文が、4・5では斜縄文（LR）、6では斜縄文（RL）が施文される。4～6では、横位沈線によって胴部上半の文様帯を区画している。

7は、胴部文様帯を持たないものである。口縁部は平縁をなし、口縁部の断面形は外傾するが、口唇の内外面が隆起線によって膨らんでいる。口唇には、4個単位の突起が付き、突起には細い粘土紐が貼付される。口縁部には、突起下に弧状貼付文と、細い粘土紐が貼り付けられた幅の広い貼付文、途中「V」字状に屈折する横位沈線・波状沈線が施文されている。頸部には横位の刺突文列が施文され胴部と区画しており、胴部には木目状燃糸文が施文される。

171は、口縁部から胴部上半にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁部の断面形は内反である。文様は、口縁部には口唇から垂下する二条の貼付文と、半截竹管による下部で山形状となる斜め沈線が、口唇と胴部との境界に刺突文列が施文される。胴部には、半截竹管による斜め沈線・横位沈線と、竹管による縦位沈線、刺突文列が施文されている。

B. (第24図8～第25図11、第39図172～175、写真図版9-8～11、写真図版15-172～175)

**長胴形の深鉢で、胴部文様帯を有するものである。**

8は、口縁部から胴部にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇部には、口縁の形状に従って施文された沈線が巡る。口縁部には、山形口縁下に左右から押し中央を山形状にした貼付文と、縦位の弧状沈線を有する。頸部には、横位の刺突文列が施文される。胴部の上位には横位の沈線が施文され、下位には斜縄文（LR）を有している。

9は、口縁部から胴部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、断面形は外傾で、口唇内面は隆起線によって膨らむ。口唇には、一箇所にのみ3個の連続する弧状の突起と、その両側には台形状の突起を有している。弧状の突起の口唇には沈線を有しており、台形状の突起には3本の粘土紐が施文されている。口縁部には、横位沈線と縦位の弧状沈線が施文され、突起下のみ2個のボタン状貼付文と2個の弧状貼付文が付き、他の3面には弧状貼付文1個が貼付される。頸部には、刺突文列と横位沈線を有する。胴部の上位には、2段の山形沈線を有しており、胴部中央から下半にかけては無文である。

10は口縁部下端から底部にかけてのものである。口縁部は、縦位の弧状沈線を有し、頸部には横位沈線が施文される。胴部には、斜縄文(LR)を施文後に、縦位・横位・弧状の沈線からなる対角線文を有し、中心にはボタン状貼付文が貼付される。

11は口縁部から底部直上にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、断面形は外反である。口唇内面に幅の広い隆起線を有し、口唇には山形の突起を有している。口縁部には斜縄文(RL)施文後に、縦位の貼付文を貼付している。胴部には、斜縄文(RL)を施文後に、半截竹管による2本単位の横位沈線を施文し、沈線間に半截竹管の押し引きを行っている。胎土に金雲母を多く含む。

172～175は、口縁部片である。口縁部は、172は山形口縁、173～175は平縁である。口縁の断面形は、172・174は外反、173・175は外傾している。文様は、172は、口縁部には山形口縁の頂部下にボタン状貼付文を有し、貼付文を中心に弧状沈線が施文される。胴部とは一条の沈線によって区画され、胴部には無節の斜縄文施文後に、縦位・横位・斜め沈線が施文され、斜め沈線の交点には横位の弧状沈線が施文されている。173は、口縁部には円文・波状沈線・横位沈線・斜め沈線・刺突文が施文される。胴部とは刺突文列によって区画され、胴部には燃糸文施文後に横位沈線・弧状沈線・刺突文が施文される。174は、口縁部には縦位の貼付文と横位の楕円形状の貼付文が、胴部上半には半截竹管による山形沈線を有する。175は、口縁部には弧状の貼付文と波状沈線・横位の弧状沈線が、頸部には刺突を有する沈線が、胴部上半には横位の沈線が施文されている。

C. (第25図12、第39図176～第40図180、写真図版9-12、写真図版15-176～180)

**頸部で締まる長胴形深鉢で、口縁部のみに文様を有するものである。**

12は、口縁部から胴部中央にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁部の断面形は外傾である。口縁部の文様は、刺突文列・縦位の沈線と、沈線による渦巻き文を有し、渦巻き文の先端は緩やかに斜めに下がり、途中「V」字状に折れ曲がっている。頸部には刺突文列を有し、胴部と区画している。胴部には、縦位の結節回転縄文が施文されている。

176～180は、口縁部片である。口縁部は、176～179は平縁、180は山形口縁をなす。口縁部の断面形は、177・178・179は外反、176は外傾、180は内反である。文様は、176～178は縦位沈線・縦位の弧状沈線を有し、180は燃糸文施文後に山形沈線・弧状沈線・円文を有している。

D. (第40図181・182、写真図版15-181・182)

**胴部が欠損し、胴部文様の有無が不明のものである。**口縁部は、181は平縁、182は波状口縁をなす。口縁の断面形は外傾である。文様は、181は横位沈線・波状沈線が、182は弧状の貼付文と横位沈線・縦位の弧状沈線を有する。

E. (第40図183、写真図版15-183))

**口縁部文様帯と胴部文様帯を区画しないものである。**183は、口縁部は平縁をなし、断面形は外反である。単節斜縄文(LR)施文後、口縁部から胴部にかけて縦位の半截竹管による押し引きを有している。

第2類 (第26図13～第31図36、第40図184～第49図269、写真図版10-13～12-36、写真図版15-184～17-269)

大木7a式に相当すると思われるものである。器種は、球形深鉢・長胴形深鉢がある。

A. (第26図13～第27図16、第40図184～第41図190、写真図版10-13～16、写真図版15-184～190)

球形の深鉢で胴部文様を有するものである。

13は、口縁部から胴部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇内面に隆起線を有する。口縁部には、貼付文と細い粘土紐による四角形の区画文を有し、区画文の内側には粘土紐による山形文を有している。貼付文は、縦長の四角形状のものと、それに接続する横位のイカリ型のもので、四角形状の貼付文は中心部が長方形に挟れ、一辺も「W」状に挟れている。貼付文には細い粘土紐による縁取りと、イカリ状の貼付文には山形状の貼付文を有する。

14は、口縁部から底部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇外面には、隆起線を有し、隆起線には刻みと三角形印刻文を有している。口縁部には、集合沈線文を施文後に、沈線による渦巻き文・斜め沈線・波状沈線が施文される。頸部には、横位隆起線と、隆起線には刻みと三角形印刻文を有する。胴上半部上位には、集合沈線文を施文後に弧状沈線・斜め沈線・渦巻き文・ボタン状貼付文が施文されている。胴上半部下位から胴下半部中位まで、結節回転縄文が施文されている。

15は、口縁部から胴上半部にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇内外面に刻みを有する隆起線を有し、山形口縁の頂部には内外面に渦巻き状の貼付文が付き、貼付文には刻みが施される。口縁部には、横位・縦位の斜縄文(RL)施文後に、刻みを有する縦位貼付文・鉤状の沈線・斜め沈線・波状沈線・刻みが施されている。頸部には段を有する。胴上半部には、斜縄文(RL)施文後に、斜め沈線・波状沈線が施文されている。

16は、口縁部から胴上半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇には、内外面に迫り出す大型突起を有する。突起の頂部には三角形の貫通孔を有し、その周りは三角形の沈線によって縁取りされている。突起内面には「の」の字状の貼付文が付き、大きく挟れている。口唇外面には刻みが付き、内面には隆起線を有する。口縁部は、円形・涙滴状・三角形の凹みを入れた後に、凹みの周りを円形・涙滴状・連続する弧状沈線・斜め沈線に縁取り、各沈線の間には、幅の狭い集合沈線文が施文されている。突起下には、橋状把手を有し、橋状把手には集合沈線文が施文される。頸部には、横位隆起線を有し、隆起線には刻みが施される。胴上半部には、斜め沈線・弧状沈線・平行沈線・縦位綾絡文を有する。胎土には、細砂・細かい金雲母を多量に含み、表面がザラザラしている。細砂・細かい金雲母を多量に含む土器は他には見られず、搬入品の可能性もある。

184～190は、深鉢の口縁部片である。口縁部は、184・187・188は平縁をなし、185・189・190は山形口縁、186は波状口縁である。口縁の断面形は、185・187・189・190は内反、184・188は外傾、186は外反である。文様は、184は口縁部には円形沈線を有する円形の貼付文と平行沈線・山形沈線が、胴部上半には渦巻き文・弧状沈線・集合沈線文・横位沈線を有し、胴部下半には結節羽状縄文(LR・RL)が施文される。185は口唇部内面に隆起線

を有し、口縁部には波状沈線・「の」の字状沈線・集合沈線文が、胴部には横位沈線・集合沈線文が施文される。186は、波頂部は肥厚し頂部に凹みを有し、口縁部には横位沈線・刺突文列が、胴部には円形の沈線・連続する縦位弧状沈線・横位沈線を有し、胴部下半は無文である。187は、台形状の突起を有するもので、上部の口唇には半截竹管による短い平行沈線が施文される。口縁部・胴部上半には、半截竹管による平行沈線・弧状沈線が、胴部下半には斜縄文(LR)が施文されている。188は、口唇内面に幅の狭い隆起線が貼付され、口縁部には縦位貼付文・円形貼付文(剥落)・沈線が、胴部には斜め沈線と縦位の集合沈線文が施文される。189は、口縁部には山形口縁頂部より幅の太い隆起線が垂下し、口縁の形状に沿って刺突文列と沈線が、下部には横位沈線が施文される。頸部には横位刺突文列が、胴部上半には半截竹管による二条単位の縦位沈線と山形沈線が施文され、沈線間には刺突文が充填され、下半との境には横位刺突文列を有している。190は、刺突を有する貼付文と原体の側面圧痕文によって、文様を施文するものである。口縁部には、原体側面圧痕文による横位・山形の文様が、山形口縁下には貼付文を横位と縦位に貼付し、縦位のものは横に広がり胴部とを区画している。胴部には、貼付文と原体側面圧痕文による、逆「U」字状の文様を有している。

B. (第27図17～第28図22、第41図191～第42図202、写真図版10-17～22、写真図版15-191～16-202)

**球胴形の深鉢で胴部文様態を持たないものである。**

17は、口縁部から胴部中央にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。山形口縁の山形部は膨れ、頂部下の口唇の両側に馬蹄形の貼付文が付く。口唇内面には隆起線を有する。口縁部は、斜縄文(RL)施文後に、頂部下に縦位の貼付文(剥落)を貼付し、貼付文を中心に縦位の弧状沈線・横位沈線・波状沈線を有する。頸部には、二条の横位隆起線を有し、上位の隆起線には刻みが施されている。胴部には、縦位の結節回転縄文を有する。胎土に金雲母を多く含む。

18は、口縁部から胴部中央にかけてのもので、口唇部は欠損する。口縁部には、横位沈線・横位波状沈線を施文後、縦位貼付文が添付される。貼付文には、横位の刻みが施される。胴部には、縦位の結節羽状縄文を有する。

19は、口縁部から胴上半部にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。山形口縁頂部の口唇の両側には、外面から内面に至る弧状の貼付文が貼付されている。山形口縁の頂部の内外面には弧状の貼付文が付き、外面の弧状貼付文の両端は頸部まで延び、原体の側面圧痕文を有している。口縁部には、横位の結節回転縄文(LR)を有している。頸部には段を有する。胴部には、縦位の綾絡文を有する。

20は、口縁部から胴部中央にかえてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇内面に隆起線を有し、外面には刻みと三角形印刻文を有する。口縁部には、下端が円形に膨らみ中央が凹む縦位の貼付文・斜め沈線・横位沈線・円文・刺突文・三角形印刻文を有している。頸部には刺突文列を有する。胴部には結節回転縄文(RL)を有する。

21は、口縁部から底部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇外面に隆起線を有し、隆起線は部分的に、指頭による左右方向からの押圧により山形に尖っている。口縁部から胴部は無文であるが、頸部に横位の貼付文が付いている。

22は、口縁部から底部直上にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は

外傾である。口唇に横位の弧状の突起を有している。口縁部には、横位の結節回転縄文（RL）を有する。頸部には、横位隆起線を有し、隆起線には刻みが施されている。胴部には縦位の結節回転縄文（RL）を有する。

191～202は口縁部片である。口縁部は、191～193・196～198・200・202は平縁、194・195・199・201は山形口縁をなす。口縁の断面形は、192～194・196・197・199・202は内反、191・195・198・200・201は外傾である。191・192・193・200は口唇部に突起を有している。胴部には、191～194・196・198・200は結節回転縄文、197・199・202は結節羽状縄文が施文される。文様は、191は口唇部内面に隆起線が貼付され、口縁部には3条の横位沈線と沈線間には集合沈線文が充填される。突起下には幅の広い半載竹管による刺突文と横位沈線を有する縦位貼付文が貼付されている。頸部には刺突文列によって胴部と区画されている。192は口唇部に刻みを有し、内面には幅の狭い隆起線を貼付している。口縁部には、突起下に中央が凹むボタン状貼付文・横位の沈線・集合沈線文が施文されている。193は、口縁部には左右からの格子状の斜め沈線と竹管による刺突文を有する。194は、山形口縁の頂部にはボタン状・環状の貼付文が貼付され、口唇内面には隆起線を有する。口縁部には、縦位沈線の施された橋状把手・弧状沈線・平行沈線・波状沈線・集合沈線文が施文されている。195は、口縁部に貼付文・刺突文列・集合沈線文が施文される。196は、口縁部には半載竹管による横位沈線文と小波状文が施文され、頸部には三角形印刻文を有する横位隆起線が貼付され、胴部と区画している。197は、口唇には貫通孔のある突起を有し、口縁部には、口唇の突起下には沈線の施された橋状把手が貼付され、他には刻み・横位沈線・波状沈線が施文されている。頸部には、刻みの施された隆起線によって胴部と区画されている。胎土には金雲母を多く含んでいる。198は、口唇部内面に隆起線を有し、外面には三角形印刻文の施された隆起線を有している。口縁部には、ボタン状貼付文・山形沈線・横位沈線を有している。頸部には、沈線による刻みを有する隆起線が施文されている。199は、口唇部内面に隆起線を有し、外面には刻みを有している。口縁部には、沈線と押し引きによる渦巻き文・山形沈線を有している。頸部には橋状の貼付文を有する。200は、口唇には中央の抉れた突起を有しており、内面には幅の狭い隆起線を有している。口縁部には横位沈線が施文され、沈線上には縄文原体の側面圧痕文を施されている。頸部には刺突文列が施され、胴部と区画する。201は山形口縁下にボタン状貼付文を有しており、口縁部には半載竹管による弧状沈線・山形沈線・横位沈線を有している。202は、口縁部に刺突の施された隆起線を有している。

C、(第28図23～第29図24、第43図203～208、写真図版10-23・24、写真図版16-203～208)

長胴形の深鉢で、器形が、胴部が膨れ頸部で締まり口縁部が開くものうち、胴部文様帯を有するものである。

23は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外反である。口唇内面には幅の広い隆起線を有する。口唇部外面には、斜縄文（LR）施文後に、口唇まで及ぶ弧状貼付文が貼付され、弧状貼付文には口縁部に垂下する縦位の貼付文が付く。縦位貼付文には斜縄文（LR）が施文されている。口縁部には、斜縄文（LR）施文後に横位の波状沈線・弧状沈線・横位沈線が施文されている。頸部には、隆起線を有し、隆起線には刻み・三角形印刻文が施文されている。胴上半部には、斜縄文（LR）施文後に縦位沈線・

連続する縦位弧状沈線・波状沈線・弧状沈線を有している。胴下半部には、斜縄文(LR)を有し、胴上半部と胴下半部は横位沈線と横位波状沈線によって区画されている。

24は、口縁部から底部にかけてのものである。口縁部は平線をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇に山形突起を有し、内外面に「の」の字状の貼付文が付く。口唇部は無文である。口縁部には、波状沈線・横位沈線・刺突文列・刻みを有する貼付文と、刻みを有する隆起線によって区画された無文部を有し、隆起線は頸部に横位に展開し、胴部と区画している。胴上半部には、刺突文列・波状沈線・横位沈線・縦位の波状貼付文と、刻みを有する隆起線によって縁取られた波頭文を有し、波頭文の内面は無文となっている。胴下半部は無文となっており、胴上半部と胴下半部は、横位の波状貼付文によって区画されている。

205は頸部から胴部資料で、203・204・206～208は口縁部から胴部にかけてのものである。口縁部は、203・206～208は平線、204は山形口縁をなす。口縁部の断面形は、203・204・208は内反、206は外反、207は外傾である。文様は、203は口唇を厚く作り出し、口縁部には斜縄文(LR)施文後に幅の広い半截竹管による横位沈線が、頸部には半截竹管による横位沈線と貼付文が、胴部には半截竹管による斜め沈線と横位沈線が施文されている。204は口唇内面に隆起線を有し、口縁部には弧状沈線と集合沈線文が、頸部には縦位の集合沈線文を有する隆起線が、胴部には集合沈線文と三角形印刻文が施文される。205は、頸部には横位沈線と三角形印刻文・刻みが、胴部には弧状沈線・波状沈線・三角形印刻文・刺突を有する横位隆起線が施文されている。206は、口唇の内外面に隆起線を有し、外面の隆起線には刺突文が施文されている。口縁部は貼付文(剥落)と半截竹管による沈線、頸部には原体の側面圧痕文が、胴部には、斜縄文(LR)施文後に半截竹管による「L」字状と渦巻き状の文様を有している。207は、口縁部には幅の広い竹管による円文と、沈線間に半截竹管による刺突文を有する2条単位の縦位沈線と斜め沈線が施される。頸部には、半截竹管による横位沈線と横位刺突文列が、胴部には半截竹管による斜めの集合沈線が施されている。208は、口唇部に突起を有し(欠落)、口縁部には斜縄文(RL)施文後に三角形印刻文・楕円文・弧状沈線・波状沈線・横位沈線・橋状把手が、胴部には沈線を有している。

D. (第29図25～27、第43図209～第46図232、写真図版11～25～27、写真図版16～209～17～232)

長胴形の深鉢で、胴部が膨れ頸部で締まり口縁部が開くもののうち、胴部文様帯をもたないものである。

25は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は波状口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇内外面に隆起線を有し、外面の隆起線には斜縄文(RL)施文後に、三角形印刻文を有している。口縁部には、斜縄文(RL)施文後に、渦巻き文・弧状沈線が施文される。頸部には段を有する。胴部には、斜縄文(RL)が施文されている。

26は、口縁部から胴上半部にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。山形口縁の頂部から下端が膨れる縦位貼付文が貼付され、貼付文には刻みを有する。口縁部には、横位沈線・山形沈線・刻みを有する。頸部には段を有し、刻みと三角形印刻文を有している。胴部には、回転羽状縄文が施文され、貼付文下にはボタン状貼付文を有している。

27は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は平線をなし、口縁の断面形



は外傾である。口唇に突起を有し、突起の外面には横位貼付文と、横位貼付文に接続し、頸部まで垂下する縦位貼付文を有する。縦位貼付文には刻みが施される。口縁部には、斜縄文(LR)が施文される。頸部には段を有し、胴部は無文である。

209～220は、口縁部に縦位の貼付文を有するものである。口縁部は、209は山形口縁、210・211は波状口縁、212は双頭口縁、213～220は平縁をなし、口縁部の断面形は、209・210・213・215・216・218は内反、211・220は外反、212・214・217・219は外傾である。胴部には、209・212・219は結節羽状縄文、213～218は結節回転縄文、210・211は単節斜縄文、220は綾絡文である。

文様は、209では口唇外面に幅の広い隆起線を有し、口縁部には横位沈線・弧状沈線・集合沈線文が施文され、その後山形口縁の頂部より縦位貼付文が施文されている。頸部には、刻みを有する隆起線が施文されている。210は波頂部に突起を有している。口唇部には口唇の形状に沿って隆起線を有し、隆起線上には斜縄文が施文されている。口縁部には、斜縄文(LR)を施文後に両端が瘤状に膨れる縦位の貼付文が貼付され、貼付文上には斜縄文が施文されている。211は、折り返し口縁によって口縁部は肥厚する。口縁部には、波頂部下からの縦位貼付文(剥落)と横位沈線・ボタン状貼付文を有する。212は、縦位貼付文と集合沈線文を有する。213は口唇部に突起を有し、口唇部外面には横位の隆起線を有し、横位隆起線上には集合沈線文が施文されている。口唇部と口縁部は横位沈線によって区画される。口縁部には、縦位の集合沈線文施文後に半截竹管による波状沈線と、突起下には縦位貼付文を有し、貼付文上には横位の刻みが施される。頸部には、刻みを有する隆起線と横位沈線が施文されている。214は、口唇部は無文で、刺突文によって口縁部と区画される。口縁部には、縦位の結節回転縄文と刻みを有する縦位貼付文が施文される。頸部には、刺突文を有する隆起線を有する。215は、口縁部は折り返し口縁をなす。口縁部には、横位沈線・刺突文列・刻みを有する縦位貼付文が、頸部には刻みを有する横位隆起線を有する。216は、口縁部には横位沈線・刻み・刻みを有する縦位貼付文が、頸部には刻みを有する隆起線が施文される。217は、口縁部には横位の結節回転縄文を施文後に横位の側面原体圧痕文を有する縦位貼付文が、頸部には段を設け胴部と区画する。218は、口縁部には横位沈線・山形沈線・刺突文列施文後に縦位貼付文が施文されている。219は、口縁部には横位の結節羽状縄文施文後に、両端に横位の槽円形貼付文を有する縦位貼付文が貼付される。縦位貼付文には、横位の刻みを有する。頸部は若干の段を有し、胴部と区画する。220は、口唇内面に隆起線(剥落)を有する。口縁部には、綾絡文施文後に、縦位の貼付文が施文される。

221～224は、口縁部に「ノ」の字状あるいは弧状の貼付文を有するものである。口縁部は、すべて平縁で、断面形は、221は外反、222～224は内反である。文様は、221は沈線と沈線間に刻み、刺突を有する弧状の貼付文が2段施文されている。胴部は無文である。222は口唇内面に隆起線を有し、口縁部には、斜縄文(RL)施文後に横位沈線・波状沈線が施文され、さらに「ノ」の字状・「の」の字状の貼付文が貼付される。頸部には段を有し、段の上位には、刻みを有する隆起線がある。胴部には、斜縄文(摩滅)が施文される。223は、口唇内面に隆起線を有する。口縁部には、斜縄文(RL)施文後に、横位沈線・波状沈線・「ノ」の字状貼付文が施文される。頸部には段を有し、胴部には斜縄文(RL)が施文される。224は口唇に突起を有し、口唇外面には集合沈線文と三角形印刻文を有する隆起線、口縁部には集合沈線文と刻みを有する「ノ」の字状貼付文を有している。頸部には段により胴部と区画し、胴部に

は結節羽状縄文が施文されている。

225・226は、口縁部に橋状の貼付文を有するものである。口縁部は、225は波状口縁、226は平縁で、断面形は225・226とも内反である。文様は、225は波頂部に突起、口唇内面には隆起線を有する。口縁部には斜縄文(LR)施文後に、横位沈線・円文・三角形印刻文と、波頂部下に橋状の貼付文を有している。頸部には段を有し、胴部には斜縄文(LR)が施文される。226は、口唇部に、頂部に縦孔を有する楕円形の貼付文を有し、貼付文には横位沈線と刺突が施される。口縁部には、弧状沈線・刻み・橋状の貼付文を有する。胴部は無文である。

227～229は、口縁部にボタン状貼付文を有するものである。口縁部は、すべて平縁、断面形は内反である。文様は、227は口縁部にはボタン状貼付文を貼付後に横位沈線・縦位の弧状沈線を施文している。頸部には段を有し、胴部には横位の結節羽状縄文が施文される。228は、上下2個のボタン状貼付文、横位・斜めの竹管による刺突文列を有する。胴部には木目状の燃糸文が施文される。229は、口唇内面に隆起線を有し、口縁部には横位・斜め沈線と集合沈線を施文後にボタン状貼付文を貼付している。胴部には斜縄文(LR)が施文される。

230～231は、口縁部文様態の施文が沈線によるものである。口縁部は、平縁で、口縁部の断面形は、230は外傾、231は内反、232は外反である。文様は、230は口縁部には平行沈線と波状沈線が、頸部には刻みを有する隆起線が、胴部には結節羽状縄文が施文されている。231は、口唇部内面は肥厚し、口縁部には半截竹管による縦位・横位の沈線が施文される。頸部には、横位の隆起線を有し、隆起線上には三角形印刻文と刻みが施されている。胴部には、結節回転縄文が施文される。232は、口縁部は折り返し口縁をもち、三角形印刻文が施される。口縁部には、沈線と刻みによる楕円文を有している。胴部には、櫛引文を有している。

E. (第30図28～32、第46図233～239、写真図版11-28～32、写真図版17-233～239)

長胴形の深鉢で、器形が口縁部から胴部にかけて直線的に立ち上がるもの、あるいは胴部が直線的に立ち上がり、頸部で屈折し口縁部が開くもので、区画された口縁部文様帯を有するものである。

28は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は、頸部で「く」の字状に屈折し内反している。口唇の内外面に隆起線が付く。口唇に、3個単位と思われる突起を有し、中央の突起は円形と思われ、貫通孔と刻みが付く。両側の突起は、内面と外面の隆起線が中央の突起に向かって弧状に付き、弧状突起の下部の口縁部には橋状の貼付文が貼付されている。橋状貼付文には回転羽状縄文が施文されている。口縁部には、先の細い工具による格子状の文様を有している。胴部には縦位の結節羽状縄文が施文される。

29は、口縁部から胴部中央にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口縁部には横位沈線と2条の横位山形文、頸部には刺突を有する隆起線、胴部に木目状燃糸文が施文されている。

30は、口縁部から胴部中央にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口縁部には、横位沈線と刺突文列が施文され、左右対称の刻みを有する縦位の弧状貼付文が貼付され、頸部の刻みを有する隆起線と接続している。胴部には、綾格文を有している。

31は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形

は、頸部で屈折し外傾している。口唇には刻みを有する。口縁部には、横位沈線と刻みを有し、胴部には縦位の結節回転縄文(RL)を有している。

32は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は平線をなし、口縁の断面形は内反である。口唇内面に隆起線を有し、口唇に突起を有している。口縁部には、横位沈線・横位山形沈線・刺突文列と、突起下には刻みの施された弧状沈線が垂下し、頸部の刻みを有する隆起線と接続している。胴部には、縦位の結節回転縄文(RL)が施文されている。

233～239は口縁部片である。口縁部は、235～237・239は平線、233は山形口縁、238は一部小波状口縁をなし、口縁部の断面形は、235・236・238・239は内反、233・237は外傾、234は外反である。文様は、233は山形口縁の頂部下にボタン状貼付文を有し、頸部には刺突の施された隆起線が胴部と区画している。胴部には斜縄文(RL)が施文される。234は口縁部には弧状の貼付文と、二条単位の横位沈線が施文され、沈線間には集合沈線文を有している。頸部には、横位の波状沈線を有し胴部と区画し、波状沈線の端部は縦位に胴部に垂下している。235は口唇から胴部にかけて斜縄文(LR)が施文され、縄文施文後に口縁部に横位沈線・波状沈線・ボタン状貼付文が施文されている。236は口縁部には波状沈線を有し、頸部には刻みを有する横位隆起線が施文される。胴部には綾線文を有する。237は折り返し口縁を持ち、外面には斜縄文(RL)が施文されている。口縁部には半截竹管による横位沈線・刺突・横位隆起線を有している。胴部には斜縄文(RL)が施文される。238は口唇から胴部にかけて斜縄文(LR)施文後、口縁部に刻みを有する貼付文・横位沈線・波状沈線が施文されている。239は半截竹管による横位沈線文と斜め沈線・刺突文・貼付文を有する。胴部には斜縄文(LR)が施文される。

#### F、(第46図240～第47図242、写真図版17-240～242)

長胴形の深鉢で、器形が、口縁部から胴部にかけて直線的に立ち上がるもので、区画された口縁部文様帯をもたないものである。

口縁部は、240は平線、241・242は山形口縁をなし、口縁部の断面形は、240は外反、241は内反、242は外傾である。文様は、240は口唇に刻みを有し、地文(原体不明)施文後に半截竹管による山形沈線が施文されている。241は山形口縁頂部に貼付文(剥落)を、口唇内面には隆起線を有する。斜縄文(LR)施文後に縦位の貼付文が垂下している。胎土に金雲母を多量に含んでいる。242は口唇に波状・弧状の貼付文、内面には横位の隆起線を有している。刺突を有する波状・直線状の貼付文が、垂下している。240は、本類に分類したが大木5式の可能性もある。

#### G、(第31図33～35、第47図243～第49図269、写真図版11-33～12-35、写真図版17-243～269)

長胴形の深鉢で、胴部が欠損し、器形が不明のものを一括した。

33～35は、口縁部資料である。33は、口縁部は平線をなし、口縁の断面形は外傾である。口縁部には、先端の尖った工具による細い縦位の沈線を施文後に、口唇部から頸部に至り、頸部の横位隆起線と連結する左右対称の弧状貼付文が貼付される。貼付文及び頸部の隆起線には刻みが施される。

34は、口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外反である。頂部下に横位の弧状貼付文

を有する。口縁部には、横位沈線と刻みが施され、頂部下には横位の弧状沈線を有している。

35は、口縁部は平線をなし、口縁の断面形は外反である。口唇外面に刻みの施された隆起線を有する。口縁部には、波状沈線・横位沈線と上端が突る縦位貼付文を有し、貼付文には刺突が施される。

243～269は、口縁部片である。243～250は、口縁部に縦位の貼付文を有するものである。口縁部は、243～245・247・248・250は平線、249は波状口縁、246は山形口縁で、口縁部の断面は、243・246・248～250は内反、244・245・247は外反である。文様は、243では口縁部に横位沈線・刺突文列・刻みを有する縦位貼付文、頸部には横位刺突文列を有する。244は、口縁部に横位沈線施文後に、縦位沈線が施文される縦位貼付文が貼付される。245は、口縁部に横位沈線・波状沈線施文後に、刻みを有する二条の縦位貼付文が貼付され、両端には橋状の貼付文が付く。246は口唇内面が肥厚する。山形口縁の頂部は膨れ、楕円形・円形の貼付文がつく。口縁部には斜縄文(RL)施文後に弧状沈線・渦巻状沈線・横位沈線が施文され、山形口縁の頂部より縦位の貼付文が貼付される。247は、口縁部に弧状・縦位貼付文が貼付される。頸部には半截竹管による横位沈線を有する。248は、口唇内面には折り返し口縁を有する。口縁部には、刻みを有する縦位貼付文と渦巻き状沈線・集合沈線文・三角形印刻文を有している。頸部には横位の隆起線を有し、隆起線上には三角形印刻文が施文される。249は、口縁部に縦位の弧状の沈線と、波状口縁の波頂部下にボタン状貼付文と刻みを有する縦位の貼付文を有している。250は、口唇には山形の突起を有し、突起には格子状の貼付文がつく。口縁部には、横位の結節回転縄文施文後に、突起下に刺突を有する縦位の波状貼付文がつく。頸部には、横位隆起線を有し、隆起線上には刺突が施される。

251～253は、口縁部に「ノ」の字状の貼付文を有するものである。口縁部は、全て平線をなし、252では山形状の突起を有しており刺突が施される。口縁部の断面形は、すべて内反である。文様は、251では、斜縄文(LR)施文後に、「ノ」の字状貼付文が貼付され、横位沈線と刺突文が施文されている。胎土に金雲母を多く含んでいる。252は、沈線による網目状の文様を施文後に、突起下に、刻みを有する縦位の「ノ」の字状貼付文が2条単位で貼付され、その間は無文となっている。253は、口縁部に半截竹管による横位沈線・山形沈線・集合沈線を施文後に、「ノ」の字状貼付文を貼付している。頸部には、隆起線を有し、隆起線には刻みが施される。

254～256は、口縁部にボタン状貼付文が貼付されるものである。口縁部は、254・255は平線、256は山形口縁をなし、口縁部の断面形はすべて内反である。文様は、254は口唇が内面に折り返され、口縁部には横位沈線・鉤状の沈線・波状沈線・曲線状の沈線とボタン状の沈線が施文される。頸部には、横位の刺突文列を有する。255は、口唇部に突起を有し、内面には貼付文を有している。口縁部には、ボタン状貼付文(剥落)・横位沈線・縦位弧状沈線が施文される。頸部には、刺突文列・横位沈線が施文される。256は、口縁部にボタン状貼付文・横位沈線・斜め沈線・刺突文列が施文される。頸部には、横位沈線が施文されている。

257～259は、上記以外の貼付文を有するものである。口縁部は、257・258は平線、259は波状口縁で、口縁部の断面形は、257・259は外反、258は内反である。文様は、257は口唇に山形状の突起があり、口縁部には、斜縄文(RL)施文後に、山形沈線と、山形状の突起の下に橋状の貼付文を有する。258は口縁部上半には刻みを有する横位の隆起線と、円形の貼付文・部分的に山形に屈折する刺突が施された横位貼付文を有する。口縁部下半には半截沈

線による横位の波状沈線を有している。259は口唇に突起を有し、口縁部には斜め沈線・刺突文列と、刻みを有する渦巻状の貼付文と、その周りを囲む菱形の貼付文を有している。頸部には、ボタン状の貼付文と、それに繋がる刻みを有する横位の貼付文が施文される。

260～266は、口縁部に沈線により文様を施文するものである。口縁部は、261～266は平縁、260は波状口縁をなし、口縁部の断面形は、264は内反、260・263・266は外反、261・262・265は外傾である。文様は、260は波頂部直下に横位の弧状沈線を、他には横位沈線・刺突文列を有している。261・262は口縁部に横位沈線と波状沈線が、頸部には261は刺突を有する隆起線が、262は隆起線を有している。263は、口唇外面に隆起線を有する。口縁部には、横位沈線と集合沈線文を有している。264は、口唇部の外側に折り返し口縁を有し、三角形印刻文が施される。口縁部には、縦位沈線・横位沈線・山形沈線が施されている。265は、口縁部には横位沈線・縦位沈線が施文される。頸部には、隆起線を有し、隆起線には刻みが施されている。266は、口縁部には横位沈線・斜め沈線・縦位沈線と、斜め刺突文列・縦位刺突文列による区画文を有している。頸部には、隆起線と横位沈線を有し、隆起線には刻みが施されている。

267～269は、突起あるいは大型の突起を有する口縁部片である。口縁の断面形は、すべて内反である。269は、口唇の一部が斜めにせり出し、先端が円形に膨らむ。突起部より口縁部にかけて、斜縄文（原体不明）が施文されている。268は、突起は大きく膨れ、内外面の周縁は隆起線で縁取られ、外面の隆起線には刻みを有している。突起の口唇には刻みを有する円形の貼付文が貼付される。269は口縁部に大型の突起を有している。突起の裏面には「の」の字状の貼付文が付き、裏面の貼付文の中心は大きく窪んでいる。突起の口唇には、盲孔を有する円形の貼付文がつく。口縁部には、表面の「の」の字状の貼付文を中心に、弧状に、集合沈線文・弧状沈線・山形沈線・三角形印刻文が施文されている。

#### H. (第31図36、写真図版12-36)

上記以外のものである。31は、深鉢の胴下半部から底部にかけてのものである。斜縄文(LR)施文後に、底部直上まで幅の狭い半截竹管による縦位沈線・弧状沈線・縦位の渦巻き文と、半截竹管によって縁取られた縦長で幅の広い「∩」状の凹みを4単位有しており、底部の外周も抉れている。胎土には、粗砂は見られず、胎土は緻密である。焼成は硬い。搬入品の可能性がある。

#### 第3類 (第31図37～第33図44、第49図270～第50図285、写真図版12-37～44、写真図版17-270～18-285)

大木7b式に相当すると思われるものである。器種は、球胴形深鉢・長胴形深鉢がある。

#### A. (第31図37、第49図270、写真図版12-37、写真図版17-270)

球胴形の深鉢である。

37は、口縁部から胴下半部にかけてのもので、口縁部と胴部の境が不明瞭なものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は口唇直下で若干締まり外反している。口唇外面に隆起線を有し、隆起線には斜縄文(RL)が施文される。口唇の2箇所に突起を有している。突起下には「の」の字状の貼付文、突起間には「W」状の貼付文が付き、貼付文には斜縄文(RL)

が施文されている。口唇部の隆起線から胴中央部にかけて斜縄文 (RL) が施文されている。

270 は、口縁部から胴上半部にかけてのもので、口縁部は平縁をなし、断面形は頸部で若干締まり外傾である。文様は、口唇に斜縄文 (LR) が施文され、口縁部には斜縄文 (LR・RL) 施文後に、曲線状の貼付文と、胴部に斜めに垂下する貼付文と、それに接する橋状の貼付文がつく。頸部には段が付き、胴部と区画する。胴部には、斜縄文 (RL) が施文される。胎土に、金雲母を多く含む。

**B. (第 49 図 271 ~ 273、写真図版 17 - 271 ~ 273)**

長胴形の深鉢で、器形が頸部で締まり口縁部が開くものうち、口縁部文様帯・胴部文様帯を持つものである。271 ~ 273 は同一固体である。口縁部は平縁、断面形は外傾をなし、口唇部内面は膨れる。口唇には双頭口縁状の突起を有している。文様は、口縁部には、沈線による円文と区画文を有し、区画文内には鉤状の沈線を有している。頸部には、段を有し胴部と区画する。胴部には、口縁部同様の文様を有している。

**C. (第 31 図 38 ~ 第 32 図 41、第 49 図 274 ~ 第 50 図 282、写真図版 12 - 38 ~ 41、写真図版 17 - 274 ~ 18 - 282)**

長胴形の深鉢で、器形が頸部で締まり口縁部が開くもので、口縁部に縦位の貼付文を有し、胴部文様帯を持たないものである。

38 は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。山形口縁頂部下に縦位の貼付文を有し、口唇部から胴下半部に斜縄文 (LR) が施文される。頸部には段を有し、二個一対のボタン状貼付文を有する。

39 は、口縁部から胴上半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外反である。口唇外面に隆起線が付く。口唇の隆起線、口縁部、胴部に斜縄文 (LR) が施文され、口縁部には斜縄文施文後に縦位の弧状貼付文が貼付されている。貼付文にも斜縄文 (LR) が施文されている。胴部とは段によって区画している。

40 は、口縁部から胴中央にかけてのものである。口縁部は山形口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇外面に幅の広い隆起線を有し、山形口縁の頂部より頸部隆起線に接続する貼付文 (剥落) を有している。口縁部には、横位結節縄文 (RL)、胴部には縦位の回転羽状縄文 (RL・LR) が施文される。

41 は、口縁部から胴中央にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇外面に隆起線を有し、隆起線から頸部隆起線に接続する「U」字状の貼付文を有し、貼付文には刻みを有している。頸部には、横位の隆起線を有し刻みが施される。口縁部・胴部には、回転羽状縄文を有する。

274 ~ 282 は、口縁部片である。口縁部は、274 ~ 280 は平縁、281・282 は山形口縁で、口縁部の断面形は、274 ~ 279・281 は内反、280・282 は外傾である。文様は、274 は口唇部に斜縄文 (LR) を有し、口縁部には斜縄文 (LR) 施文後に縦位の下部の膨れる貼付文を有している。275 は、斜縄文 (LR) 施文後、原体の側面圧痕が施され、縦位の楕円形状の貼付文が貼付される。頸部には、横位の隆起線が有し、隆起線には刺突が施されている。胎土に、金雲母を多く含む。276 は、口縁部には斜縄文 (RL) が施文される。頸部には段を有し、胴部と区画する。胴部には、斜縄文 (RL) 施文後に、頸部から胴部にかけて「Y」字状の貼付

文を有する。277 は、口唇に山形突起を有している。口縁部から胴部にかけて、斜縄文 (LR・RL) が菱状に施文され、山形突起下に口縁部に「Y」字状の貼付文が貼付される。貼付文には斜縄文 (LR) が施文される。278 は、口唇部は無文で、口縁部との境には刺突文列を有している。口縁部には、原体の側面圧痕文を施文後に縦位の貼付文が貼付され、貼付文には原体側面圧痕文を有している。279 は、折り返し口縁を有し、口縁部には結節を有する横位の斜縄文 (RL) 施文後に、折り返し口縁より「U」字状の貼付文が垂下する。貼付文には刺突が施されている。口縁部と胴部は若干の段によって区画され、胴部に結節を有する横位の斜縄文 (RL) が施文される。280 は、口縁部に撚糸文施文後に「∩」状の貼付文を有する。胴部とは、巻貝の殻頂部を施文具としたと思われる三角形印刻文によって区画されている。胴部には、撚糸文が施文される。281 は、山形口縁の頂部に横位の弧状の貼付文を、口唇内面には、隆起線を有する。口縁部から胴部にかけて、縦位の結節回転縄文を有し、山形部と山形部の中間の口唇より口縁部に縦位の貼付文が付き、頸部で弧状の貼付文と連結している。貼付文には刻みを有する。282 は、山形口縁の頂部の口唇の両側縁に瘤状の貼付文を有している。口縁部には、斜縄文 (RL) 施文後に、頂部下から貼付文が垂下しているが、剥落のため形状は不明である。

#### D. (第32図 42・43、写真図版 12 - 42・43)

長胴形の深鉢で、器形が、口縁部から胴部にかけて直線的に立ち上がるものである。

42・43 は、口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は、42 は外傾、43 は外反である。口唇外面には幅の広い隆起線を有し、42 では隆起線に斜縄文 (RL) が施文され、43 は無文である。口縁部には、横位の回転羽状縄文 (RL・LR) 施文後に、42 は両端の膨れる縦位の貼付文が貼付され、貼付文には刺突が施される。43 は弧状貼付文が貼付され頸部の隆起線と接続している。頸部には、42 は段を有し刺突が施され、43 には横位の隆起線を有し刺突が施されている。胴部には、42 は横位の、43 は縦位の回転羽状縄文 (RL・LR) が施文される。

#### E. (第33図 44、写真図版 12 - 44)

長胴形の深鉢で、器形が、胴部が直線的に立ち上がり、頸部で屈折し、口縁部が大きく開くものである。44 は、口縁部から胴上半にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇内面に隆起線を有し、口唇には沈線を有し、半截竹管による刺突が施されている。口縁部と胴部には、縦位の結節回転縄文 (LR) を有する。頸部には、横位の隆起線を有し、隆起線には等間隔に橋状の貼付文が貼付されている。

#### F. (第50図 283～285、写真図版 18 - 283～285)

長胴形の深鉢で、原体側面圧痕による文様を有するものである。口縁部は、273 は平縁、284 は波状口縁、285 は山形口縁をなし、口縁部の断面形は、283 は外傾、284・285 は内反である。文様は、283 は、口唇部の一部に突起を有し、口縁部には原体側面圧痕による三角形・菱形の文様を有し、頸部には隆起線が巡る。胴部には、横位の結節羽状縄文を有する。284 は、波頂部内面に円形の貼付文が付く。口縁部には、原体側面圧痕文を施文後に弧状の貼付文を貼付し、貼付文は頸部の横位隆起線と連結している。胴部には、横位の側面原体圧痕

を有している。285は、口唇部には原体側面圧痕文による刻みを有する。口縁部には、原体側面圧痕文を施文後に円形の貼付文を貼付し、貼付文には原体側面圧痕文による刻みを有している。

### 第III群

縄文時代中期中葉から中期後葉の、大木8a式から大木9式に相当すると思われるものを一括した。出土点数は少ない。

#### 第1類（第33図45、第50図286～294、写真図版12-45、写真図版18-286～294）

大木8a式に相当すると思われるものである。

45は、深鉢の口縁部から胴部中央にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇部は無文である。口縁部には、斜縄文（RL）施文後に、隆起線による大きな波状文による区画を有し、区画の内側には沈線による渦巻き文を有している。波状文は、口唇部との境の2条の横位沈線と、胴部との境の横位の隆起線に接し、横位沈線との交点には有する横位貼付文が貼付され、隆起線との交点には刺突文を有している。胴部には、斜縄文（RL）が施文される。

286～294は深鉢の破片資料である。口縁部は、286・289・290は平縁をなし、287・288は大型突起を有している。口縁部の断面形は、286・287・289は内反、288・290は外傾をなす。文様は、286では、口唇部・口縁部とも、斜縄文（LR）施文後に隆起線を施文され、口唇部では横位隆起線、口縁部では横位隆起線と波状の隆起線を有している。287は、突起の表裏に隆起線による文様を有し、口縁部には縦位の原体側面圧痕文を、胴部には斜縄文（RL）施文後に横位沈線を有している。288は、山形突起に径2cm程の貫通孔を有し、口縁部には斜縄文（RL）施文後に隆起線を有する。隆起線の一部には、沈線による縁取りを有している。289は、口唇部は膨れ、口唇部には、口縁部と区画する隆起線と、隆起線に接続する縦位のX字状の貼付文によって、横位の長楕円形区画文を有し、区画文内には刺突文列を有している。口縁部には、口縁部から胴部にかけて斜縄文施文後に、隆起線による三角形の区画文、渦巻き文を有する。隆起線の全てではないが、隆起線の両側縁が沈線によって縁取られている。290は、口唇内面は膨れ、口唇部にはX字状の貼付文と刺突文列を有する。口縁部から胴部にかけて、連続する斜縄文（RL）を施文後に、口縁部には沈線による縁取りを有する隆起線が、胴部に連続する横位弧状沈線が施文されている。291・293・294は、口縁部から胴部にかけてのものであるが、口唇部を欠損する。291は、口縁部から胴部にかけて、連続する斜縄文（LR）施文後に、口縁部には、隆起線による三角形の区画文を有し、区画文内には沈線による三角形・滴状の文様が、頸部には2条の横位沈線と沈線内には波状の隆起線が施文される。293は、口縁部から胴部にかけて斜縄文施文後に、口縁部には隆起線、胴部には隆起線と沈線による文様を有する。294は横位・縦位の斜縄文（LR）施文後に、口縁部には沈線による縁取りを有する隆起線によって、区画文が施文される。292は胴部片である。斜縄文施文後に縦位沈線・縦位波状沈線・縦位に連続する弧状文が施文されている。

#### 第2類（第52図295～297、写真図版18-295～297）

大木8b式に相当すると思われるものである。295～297は深鉢の破片資料である。出土



点数は少ない。口縁部は、すべて内反し、断面形は内反である。文様は、295では、口唇部は、二条の横位隆起線と、隆起線に接続する「ノ」の字状の貼付文によって区画されている。口縁部には、斜縄文(LR)が施文される。296は、口縁部に横位斜縄文(LR)施文後に、二条の隆起線と「ノ」の字状の貼付文を有する。胴部には、縦位の斜縄文(LR)が施文される。297は、口唇部には二条の横位隆起線が、口縁部には斜縄文(LR)施文後に隆起線による渦巻き状の文様を有している。

### 第3類 (第52図298、写真図版18-298)

大木9式に相当するものである。出土点数は1点のみである。

298は深鉢の胴部下半から底部にかけてのもので、縄文(RL)施文後に、底部直上まで三本単位の縦位沈線が施文されている。

### 第IV群

縄文時代後期中葉から後期後葉と思われるものを一括した。出土点数は少ない。

### 第1類 (第52図299～303、写真図版18-299～303)

文様が、磨消縄文によるものである。299は深鉢の口縁部片、300～302は深鉢の胴部片である。299は、口縁部は弱い波状口縁をなし、口縁部の断面形は内反である。口唇部には斜縄文(RL)が施文され、口縁部には沈線と磨消縄文による曲線文を有している。300は、斜縄文(RL)を施文後に、横位沈線と磨消縄文に曲線文が描かれ、横位沈線には刻みを有している。301は、胴部上半には磨消縄文による入り組み文が、下半には曲線文を有する。胴部文様帯の上半と下半の境には、二条の横位沈線を有し、沈線間は磨り消されている。302は、斜縄文(LR)施文後に、横位沈線・磨消縄文・刺突が施されている。303は注口土器の口頸部から胴部にかけてのものである。口頸部には、磨消縄文による曲線文を有し、胴部には隆起線と突起を有し、隆起線には刻みが施されている。

### 第2類 (第33図46、第52図304～306、写真図版13-46、写真図版18-304～306)

充填縄文を有するものである。

46は、口縁部から胴上半部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は垂直に立ち上がっている。口唇部には、充填縄文を施文後に二個一對の貼付文を有している。口縁部は横位沈線によって区画され、内部は無文である。胴部には、横位沈線と充填縄文が施され、二個一對の貼付文を有している。

304～306は破片資料で、304は鉢の口縁部突起、306・306は鉢の口縁部片である。口縁部は、306は波状口縁、307は平縁をなし、口縁部の断面形は、304～306は内反である。

文様は、304は突起の頂部は窪み、両側縁にボタン状の貼付文を有し、表面には、充填縄文による曲線文を有する。305は口唇部に弧状の文様帯を持ち斜縄文(RL)が充填され、頸部には横位沈線による区画文を持ち、区画文には斜縄文(RL)が施文されている。306は、口唇部に斜縄文(RL)が施文され、口縁部には沈線と充填縄文による円文・曲線文が施文されている。

### 第3類 (第33図47、第52図307～317、写真図版13-47、写真図版18-307～317)

#### 入組文を有するものである。

47は、口縁部から胴中央部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は内反である。口唇部は無文で、口縁部には横位沈線によって区画された文様帯に、沈線による入組文を有している。胴部には、斜縄文(LR)が施文される。

307～317は破片資料で、308～310・312～317は鉢の口縁部片、307・311は鉢の胴部片である。口縁部は、308～310・312・313・315～317は平縁、314は山形口縁をなす。口縁部の断面形は、312～317は内反、308～310は、口縁部は内反し口唇部がL字状に外側に折れ曲がっている。

文様は、307は入組文と横位沈線を有し、入組文の交点には瘤状の貼付文を有し、横位沈線間には刻みが施される。308～310は、口唇部には刻みを有し、入組文内に瘤状の貼付文を有している。308では、入組文は、沈線と磨消縄文により、入組文内には斜縄文(RL)を残している。311～317は入組文内に刻みが充填されるものである。312・313では、胴部に斜縄文(LR)が施文され、口縁部・胴部の境には中心に盲孔を有するボタン状貼付文が貼付され、312では口唇部に刻みと突起、313は横位沈線と刻みを有している。314は、山形口縁の頂部は窪んでおり、胴部との境にはボタン状の貼付文を有している。315は、口唇部には横方向からの刺突を有している。316は、口唇に突起と刻みを有し、口縁部の上位には斜縄文(LR)が施文されている。317は、口唇部に盲孔のある突起を有している。

### 第4類 (第52図318～第53図325、写真図版18-318～325)

口縁部に数条の横位平行沈線を有し、平行沈線間に瘤状貼付文や刺突文・刻みが充填されるものである。

318～325は、鉢の口縁部片である。口縁部は、318～323は平縁、324は山形口縁、325は小波状口縁をなす。口縁部の断面形は、319～321・324は内反、325は外反、322・323は外傾、318は内反し口唇部が外側にL字状に折れ曲がっている。

文様は、318では口唇に刻みを有し、口縁部には斜縄文(LR)施文後に、横位沈線が施文され、沈線間の磨消縄文と瘤状貼付文の貼付が行われている。319～321は、沈線間に刺突文が充填されるもので、319・321は口唇部から口縁部にかけて横位沈線が施文されている。319・320は、口唇に突起を有し、319では突起に刻みが施されている。320は、胴部に斜縄文(LR)が施文されている。322～325は、沈線間に刻みが充填されるもの、322・323は口唇部から口縁部にかけて横位沈線を有している。322は口唇に突起を、323は口唇に突起と刻みを、324では口唇に刻みが施され、口縁部上半に斜縄文(LR)が施文され、横位沈線間の刻みの磨消しも見られる。325では、胴部に沈線による文様が施文されている。

### 第5類 (第53図326～328、写真図版18-326～328)

口縁部に横位の弧状沈線を有するものである。

326～328は、鉢の口縁部片である。口縁部は、326は山形口縁をなし、327・328は小波状口縁をなす。口縁部の断面形は、326は内反、327・328は頸部で縮まり、327は外反、328は内反する。

文様は、326では、山形口縁の頂部に2つの窪みを有し、口縁部の弧状沈線内には刻みが充

填されている。327・328は、口縁部は、横位の弧状沈線のみで、胴部を区画する横位沈線を有する。胴部には、327は斜縄文(LR)が、328は斜縄文(摩滅)が施文されている。

#### 第V群(第53図329～331、写真図版18-329～331)

縄文時代晩期のもと思われるものである。出土点数は3点と少ない。329は、鉢の口縁部片である。口縁部は小波状口縁をなし、断面形は内反する。文様は、波頂部下に沈線による渦巻き状の文様を有し、頸部には横位の三叉文、口縁部には横位沈線、胴部には斜縄文(LR)が施文されるが摩滅が著しい。330は、注口土器の頸部から胴部にかけてのものである。頸部には刻みが施され、胴部には雲形文・横位沈線が施文されている。331は、浅鉢の口縁部から胴部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、断面形は内反気味に立ち上がり、口唇部が外反している。文様は、口唇部内面に一条の横位沈線を有し、口縁部には横位沈線と変形工字文、胴部は無文である。

329が大洞B式、330が大洞C1式、331が大洞A'式である。

#### 第VI群(第34図48～51、第53図332～338、写真図版13-48～51、写真図版18-332～338)

粗製の土器、あるいは無文のため時期不明のものを一括した。

48は、注口土器の頸部から底部にかけてのものである。無文で、底部は丸みを帯びている。

49は、深鉢の口縁部から底部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外反である。口縁部は無文で、胴部には無節斜縄文を有している。

50は、深鉢の口縁部から底部にかけてのものである。口縁部は平縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口縁部・胴部とも無文である。

51は、深鉢の口縁部から胴下半部にかけてのものである。口縁部は波状口縁をなし、口縁の断面形は外傾である。口唇部外面に、隆起線を有している。無文である。

332～338は、破片資料である。332～337は深鉢の口縁部から胴部にかけてのもの、338は浅鉢の口縁部から胴部にかけてのものである。口縁部は、すべて平縁をなす。口縁部の断面形は、338は内反、332・333・335～337は外反、334は外傾である。

文様は、332では口唇に山形突起を有し、口唇部外面に隆起線を有している。頸部には段を有し、胴部には斜縄文(RL)が施文される。333は口唇部にS字状の貼付文を有し、S字状貼付文の箇所のみ山形にせり出している。口唇から胴部にかけて、単節斜縄文(LR)が施文される。334は、口唇は尖り、部分的に竹管による刺突文を有している。口唇から胴部にかけて網目状燃糸文が施文される。胎土に植物繊維を多く含んでいる。335は、口縁部に折り返し口縁を有し無文である。胴部には、櫛引文が施文されている。336は、口縁部は無文で、胴部には撚りの粗い燃糸文が施文されている。337は、口唇に山形突起と中央が窪む突起を有している。口縁部から胴部は無文である。338は、口唇に山形及び波状の突起を有し、山形突起下には横位貼付文、波状突起下には縦位貼付文(一部剥落)を有するが、他は無文である。頸部には段を有し、胴部は無文である。

#### 第VII群(第34図52・53、写真図版13-52・53)

上記以外の、特殊な土器片である。

52は、台付鉢の底部である。内外面にタール上の物質が附着している。

53は、動物意匠突起付土器の破片である。クマあるいはイノシシと思われる動物が意匠される。眼は沈線によって描かれ、鼻は大きく迫り出し刺突による鼻孔を有している。中空である。

## 2 土製品 (第54～57図、第6表、写真図版19)

袖野1遺跡より出土した土製品は、土偶7点・スタンプ形土製品1点・管形土製品1点・器種不明土製品1点・土製円盤75点がある。以下、器種ごとに説明を行う。

### (1) 土偶 (第54図1～7、写真図版19-1～7)

土偶は、7点が出土した。1は、頭部から腹部にかけてのものであるが、頭部の一部と左腕が欠損する。眼は窪みによって、口は幅の狭い沈線によって表現されている。右腕は、三角形に先が尖る。胸部から腹部にかけて縦位沈線による文様が施文されるが、背面は無文である。2は、頭部片である。眼は貫通孔2個によって表現され、細い工具によって施文された鼻と思われる縦位の沈線を有している。表裏側面に2条の縦位沈線を有する。3は、腹部である。臍と思われる貼付文を有し、下端には切れ込みが入っている。粗砂を含み、表面はザラザラしている。4は、脚部である。太く作り出され、横断面は円形である。底面は脚部と比べ大きく作り出され、境には沈線が巡る。裏面は平坦に作り出され、直立が可能である。5～7は、板状土偶の破片で、部位不明のものである。5は、片面には二条単位の沈線による山形文と平行沈線が描かれ、沈線間には刺突文を有している。他の片面には波状文を有している。6は、貫通孔を有している。片面には、細い工具による沈線と刺突文が、他の片面にはペン先状の工具による二条単位の沈線・刺突文を有する。7は、表裏ともに押し引きによる文様を有する。

### (2) スタンプ状土製品 (第54図8、写真図版19-8)

完形のもの1点が出土した。スタンプ面には、沈線による円文が四重描かれている。背面に把手状の柄を有し、先端には切り目が入っている。

### (3) 管形土製品 (第54図9、写真図版19-9)

ほぼ完形のものである。縦断面は楕円形、横断面は円形で、径5mmほどの貫通孔を有している。全体に刺突文が施される。

### (4) 器種不明土製品 (第54図10、写真図版19-10)

1点が出土した。全体の1/4程が欠損する。円錐形状の土製品で、底面は扶れている。頂部から径4mm程の貫通孔を有している。表面の貫通孔から、十字状に沈線を有し、側縁にも一条の沈線が巡っている。

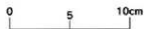
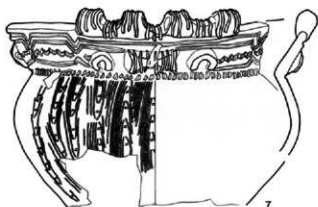
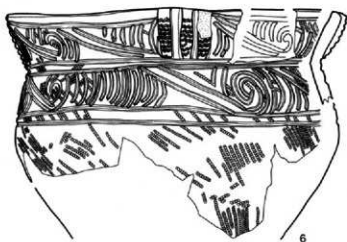
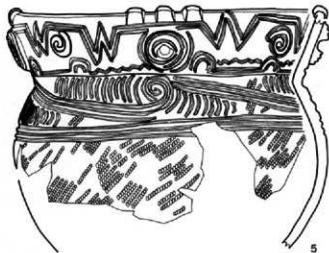
### (5) 土製円盤 (第55図11～第57図85、写真図版19-11～85)

75点が出土した。11～16は、周縁を打ち欠きのみによって整形したものである。17～44は、打ち欠きによって整形した後、部分的に研磨しているものである。45～79は、周縁を研

磨するものである。80～85は、大型の土製円盤である。80・81は打ち欠きのみ、82は一部研磨、83・85はほぼ全周研磨、84は全周を研磨している。81は口縁部片の利用で、83は底部片の利用である。



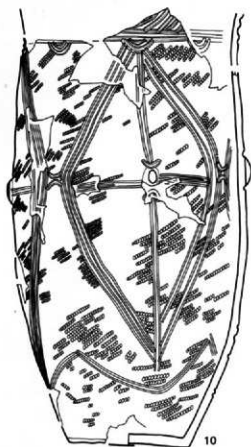
第23図 遺構外出土器



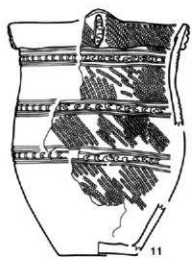
第24図 遺構外出土土器



9

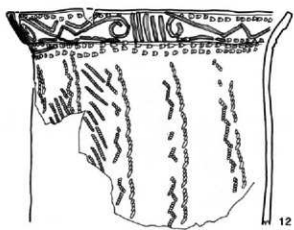


10



11

No. 9 · 11  
0 5 10cm



12

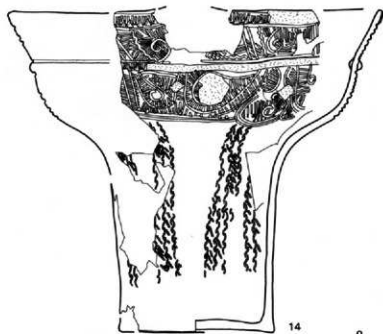
No. 10 · 12  
0 5 10cm

第25図 遺構外出土土器





13



14

0 5 10cm

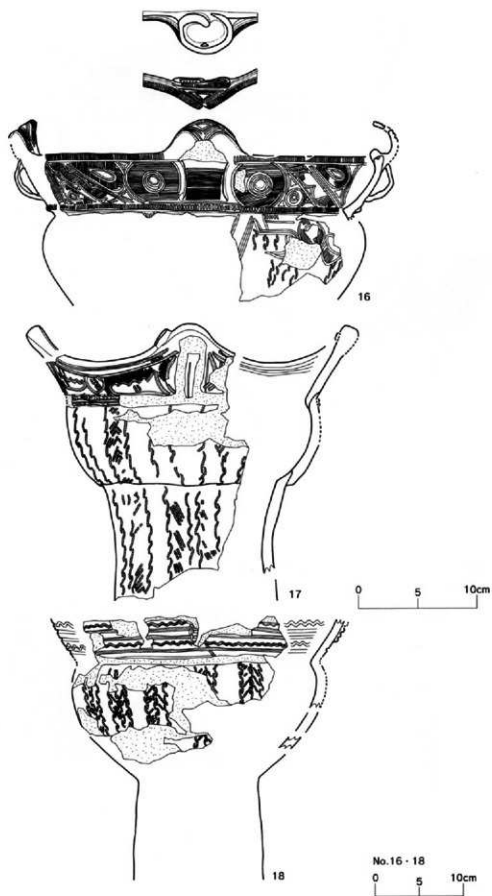


15

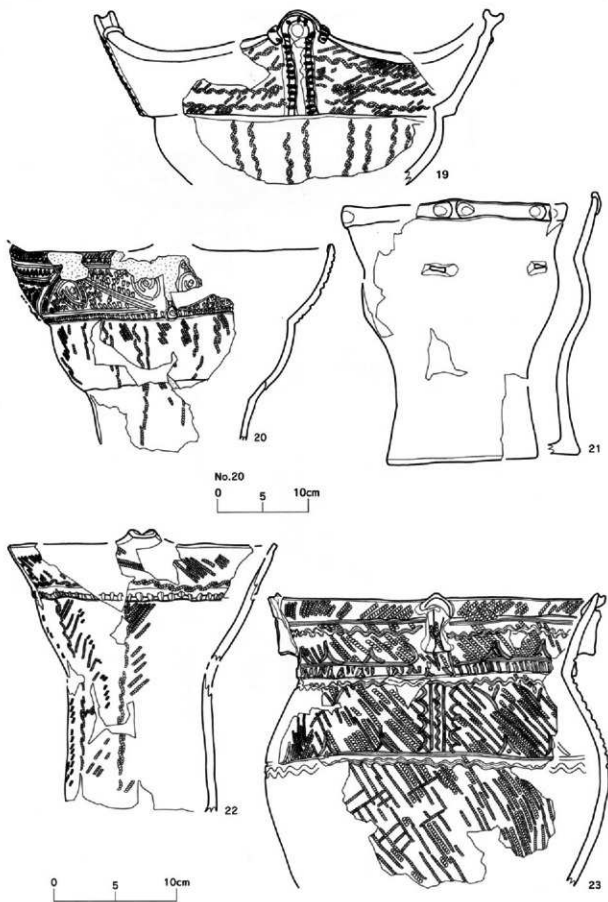
No. 13 - 15

0 5 10cm

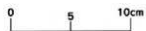
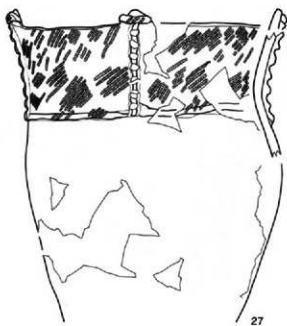
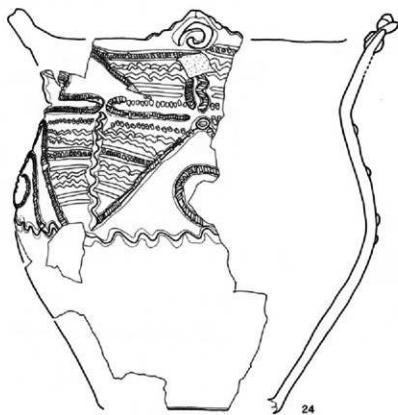
第26図 遺構外出土土器



第27図 遺構外出土器



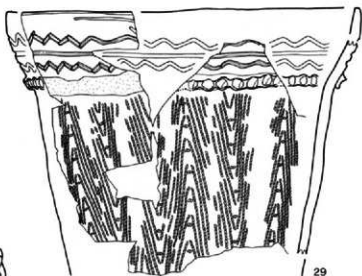
第28圖 遺構外出土土器



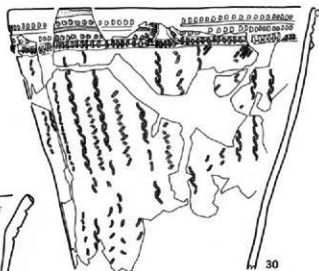
第29圖 遺構外出土器



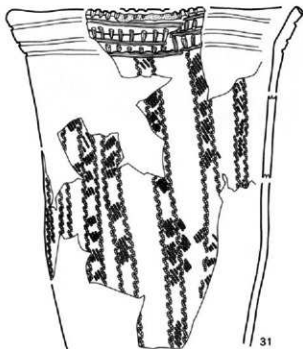
28



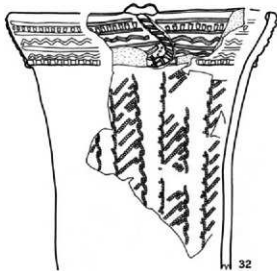
29



30



31

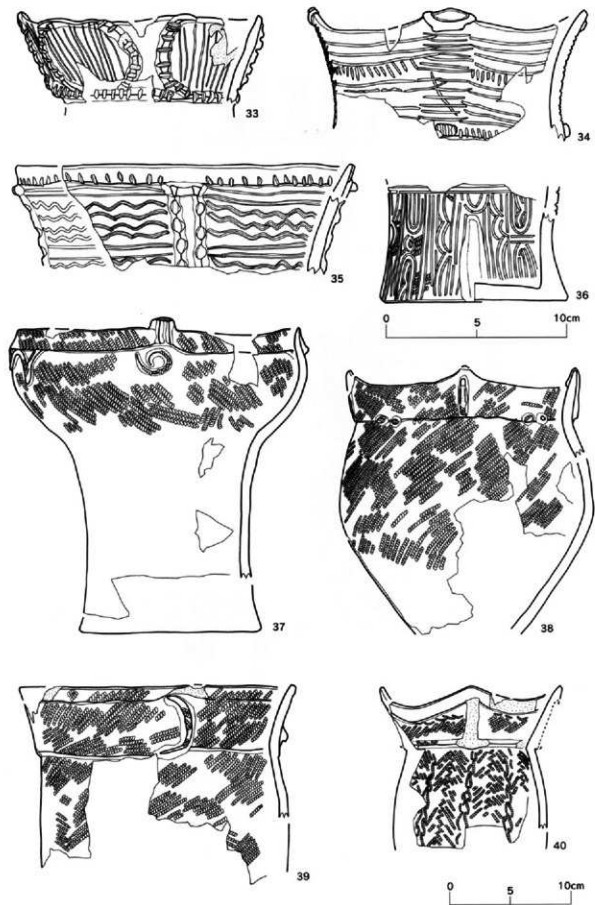


32

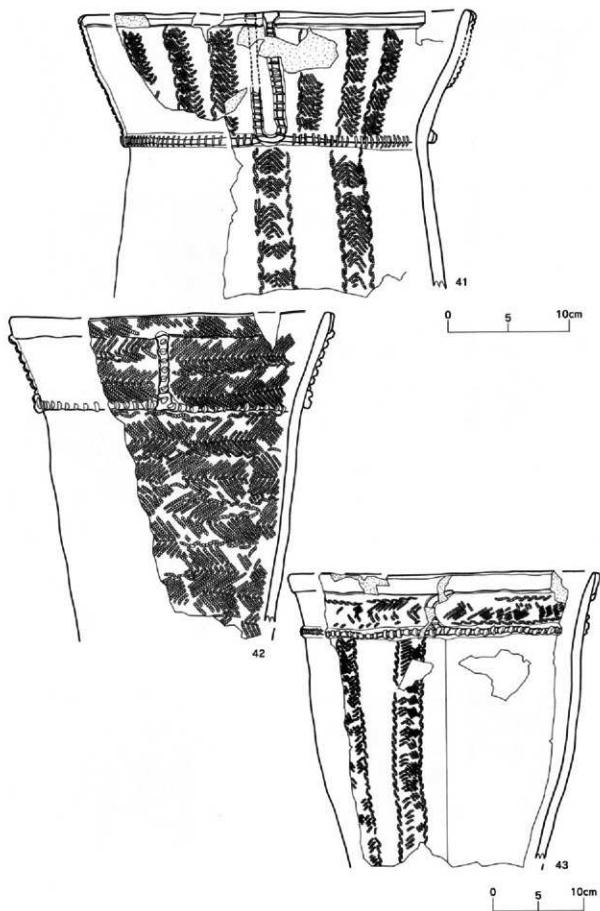
No.30・31  
0 5 10cm

0 5 10cm

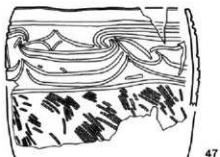
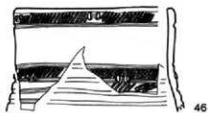
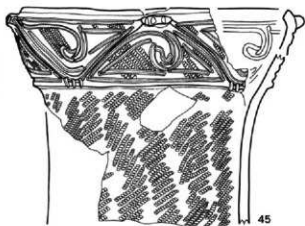
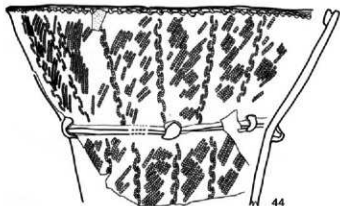
第30図 遺構外出土器



第31圖 遺構外出土土器

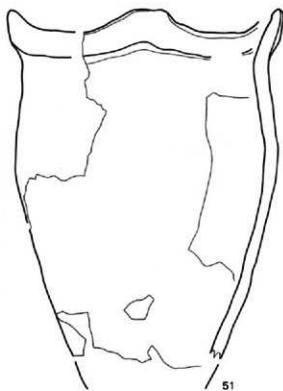
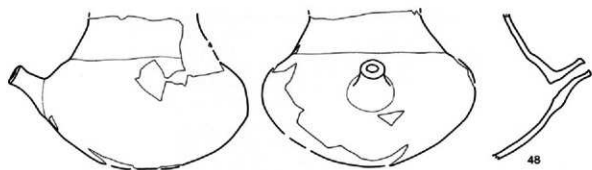


第32図 遺構外出土器

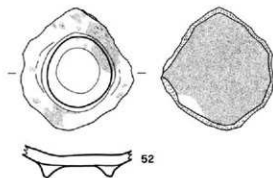


第33图 遼情外出土土器

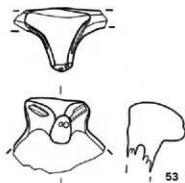




0 5 10cm

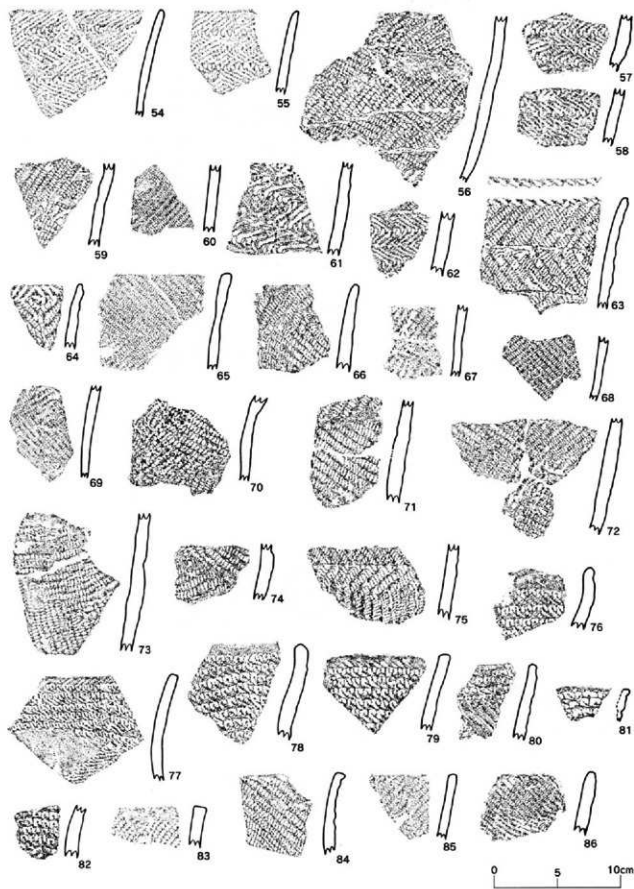


0 5 10cm

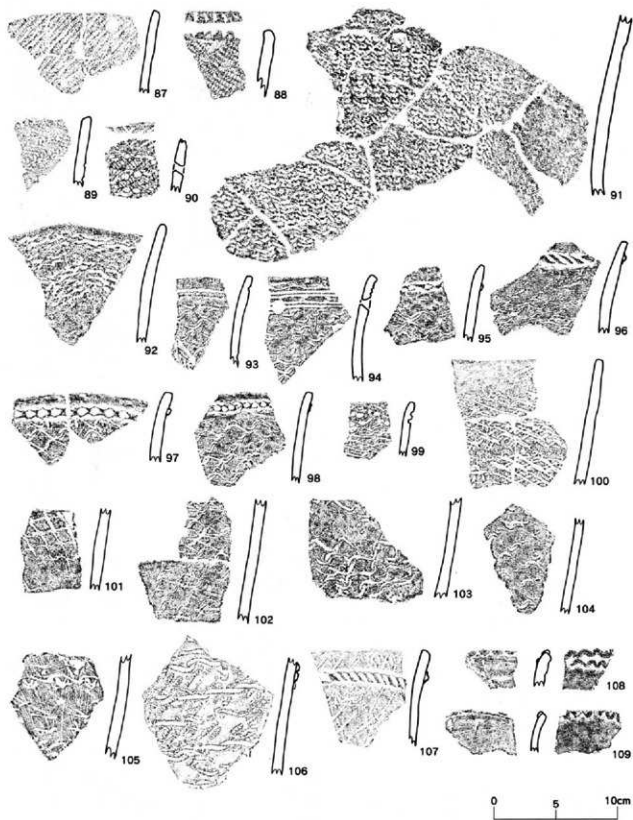


0 5 10cm

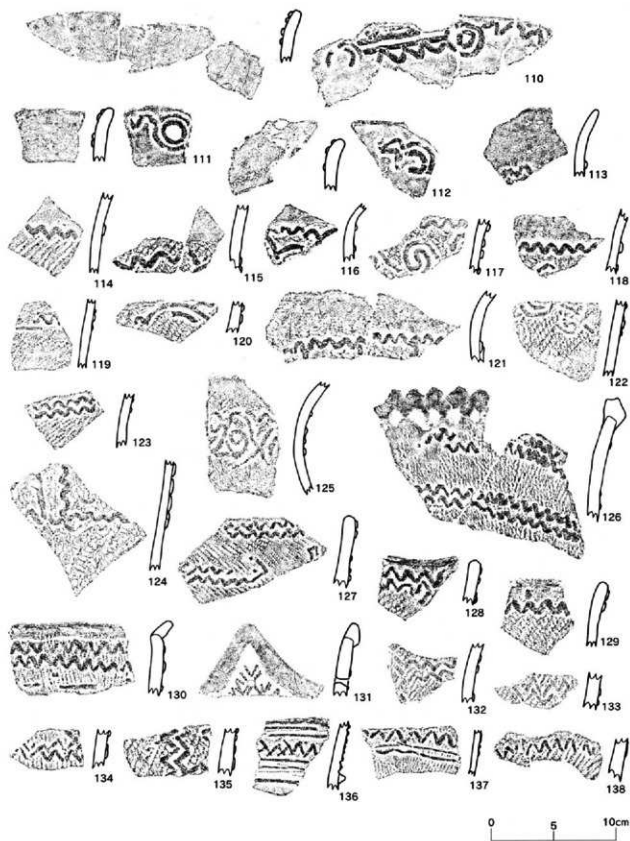
第34図 遺構外出土器



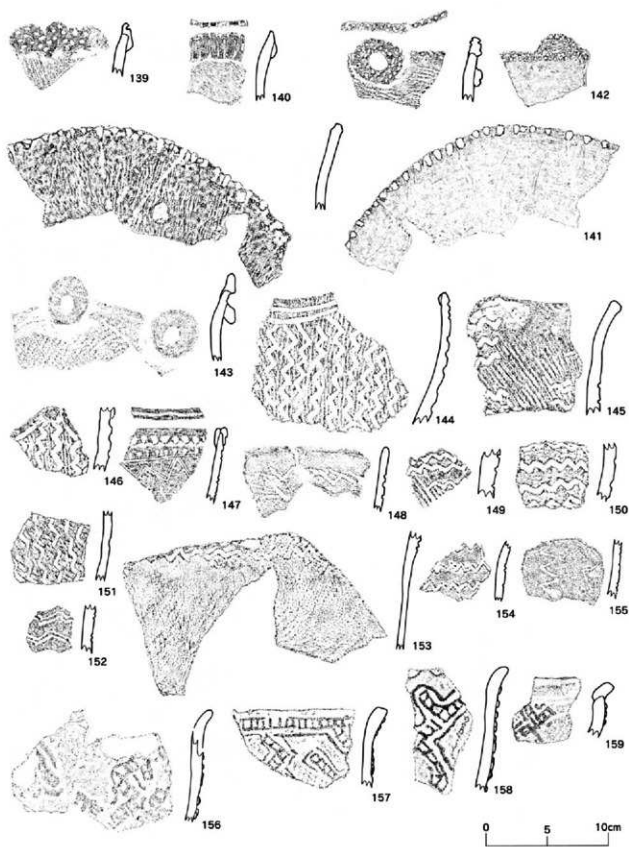
第35図 遺構外出土土器



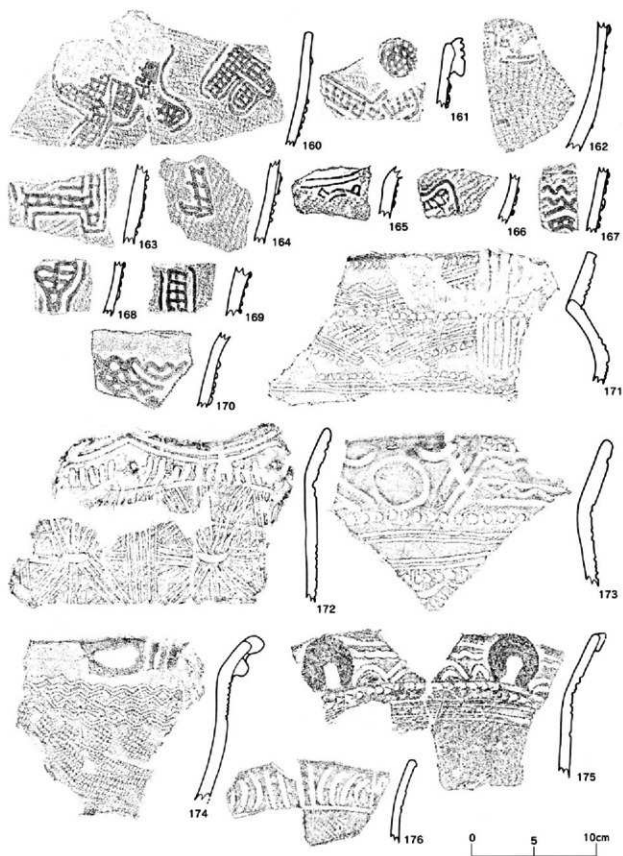
第36圖 遺構外出土器



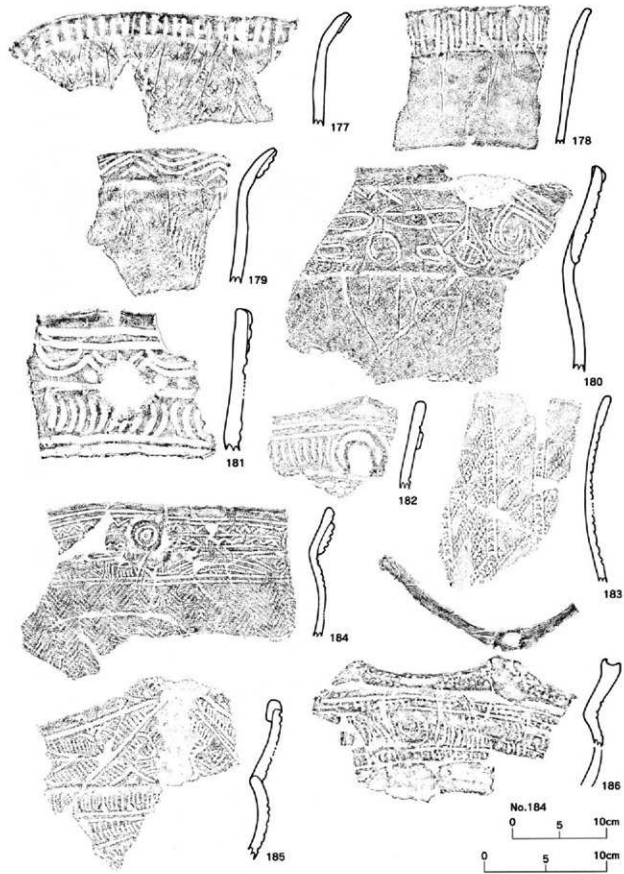
第37图 遺構外出土器



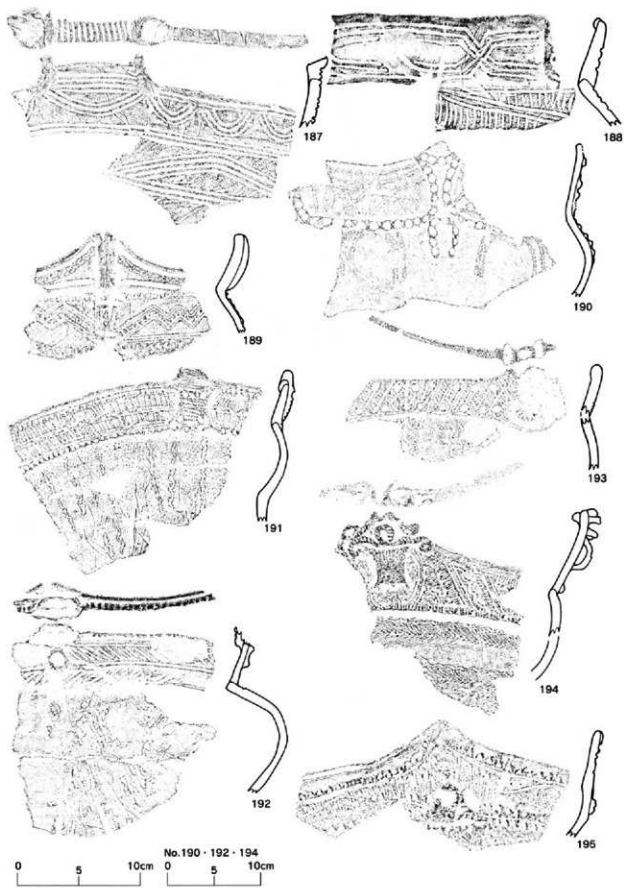
第38圖 遺構外出土器



第39圖 遺構外出土器

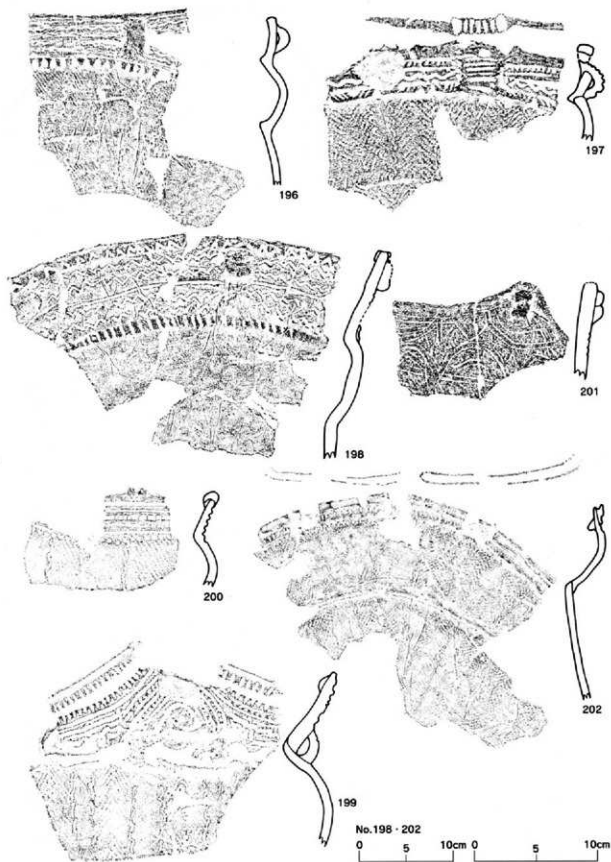


第40図 遺構外出土器

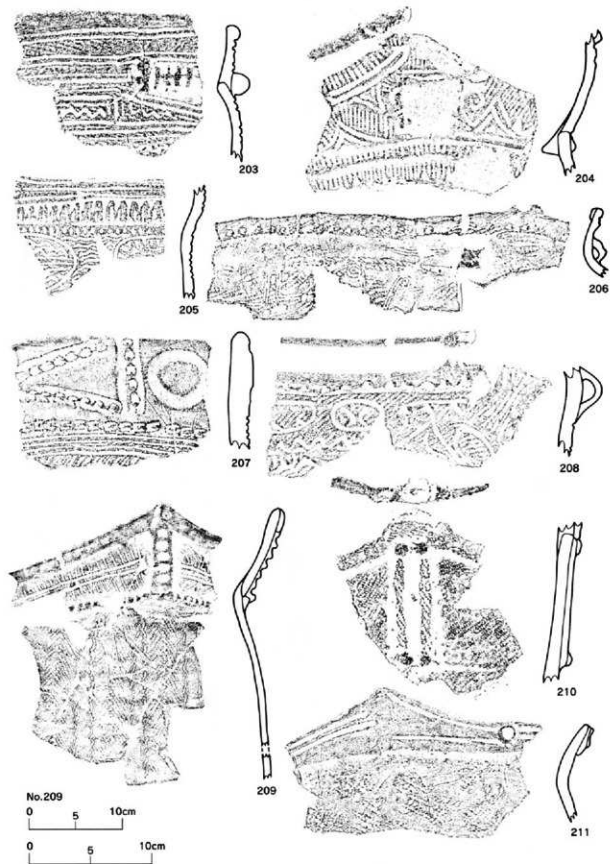


第41図 遺構外出土土器

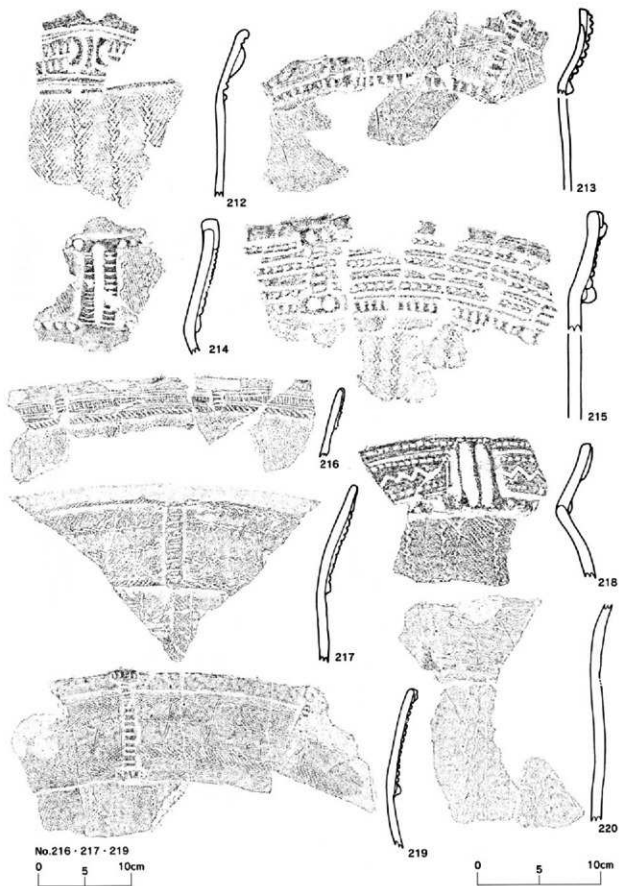




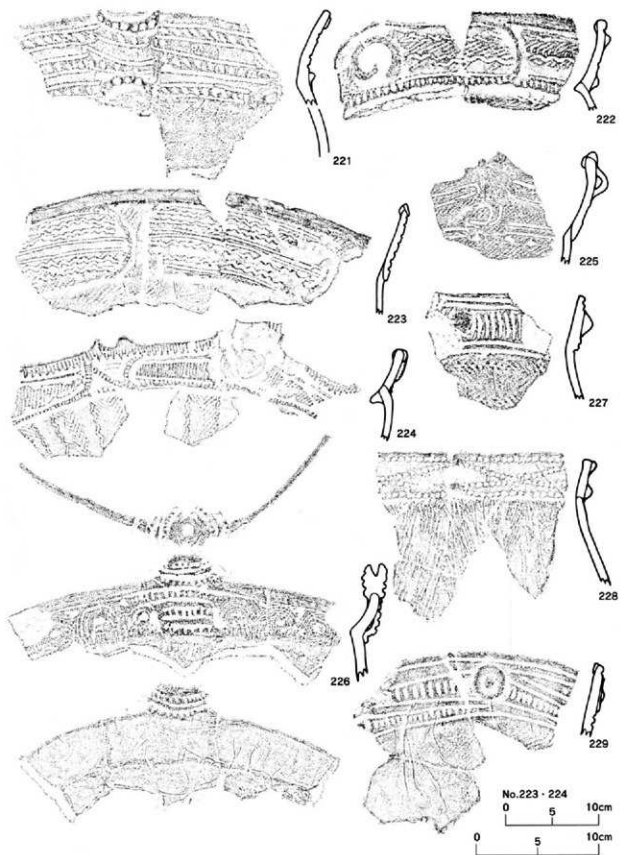
第42図 遺構外出土器



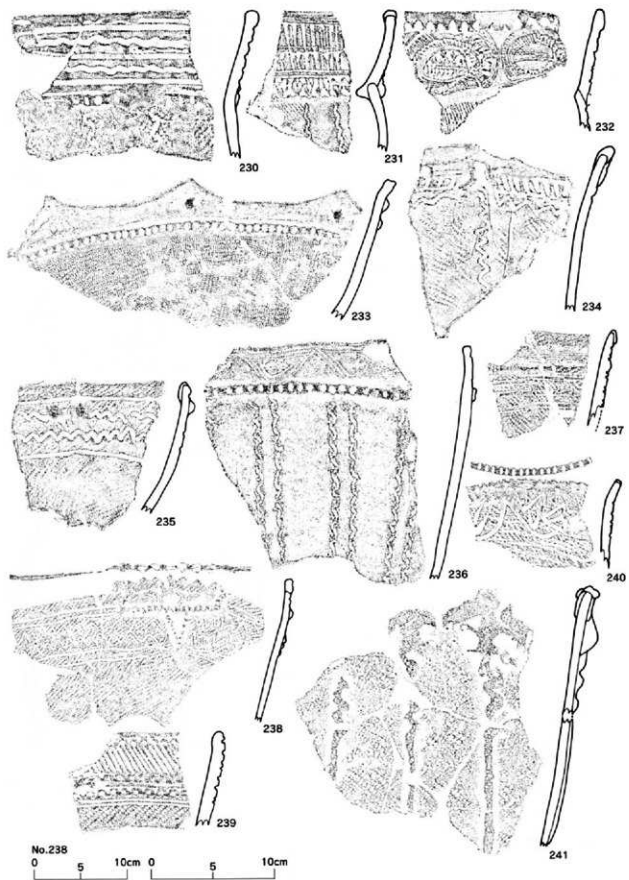
第43図 遺構外出土器



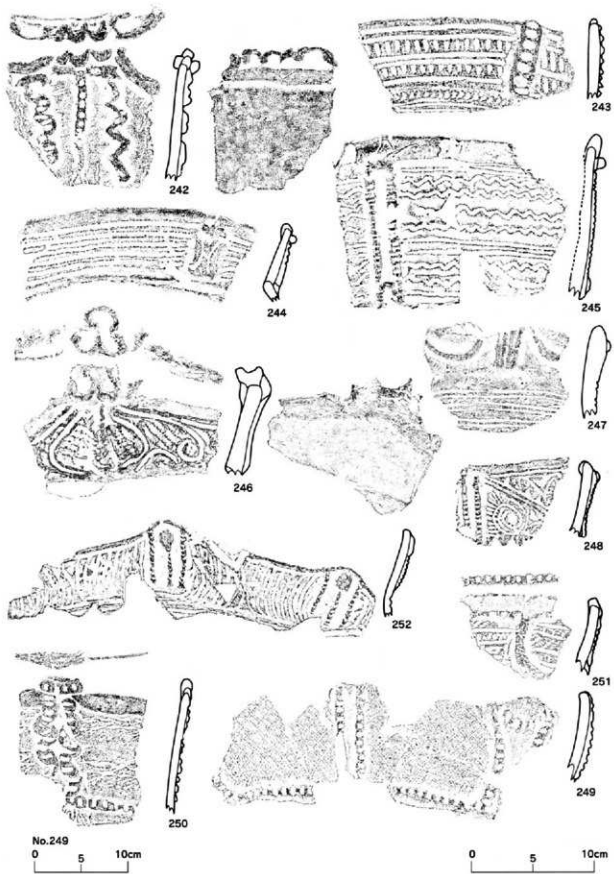
第44図 遺構外出土土器



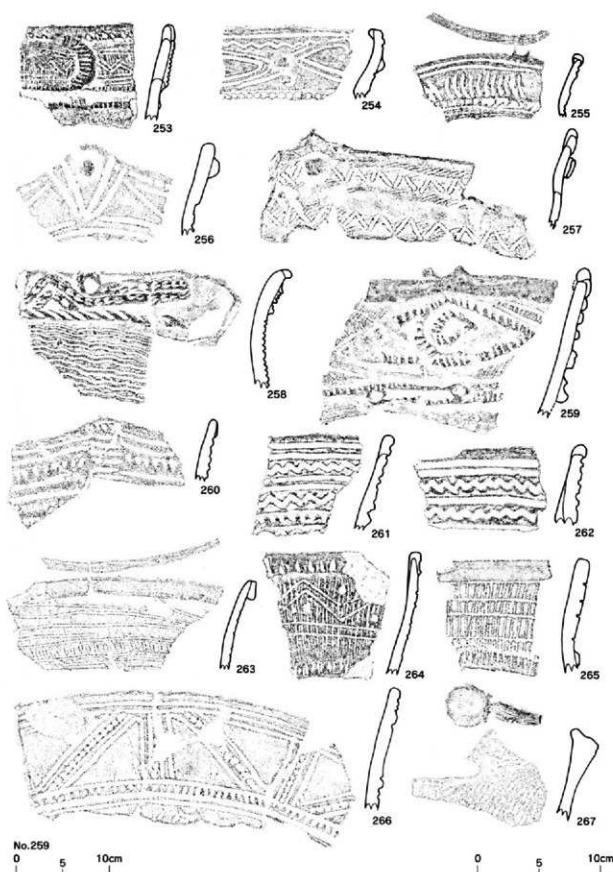
第45図 遺構外出土土器



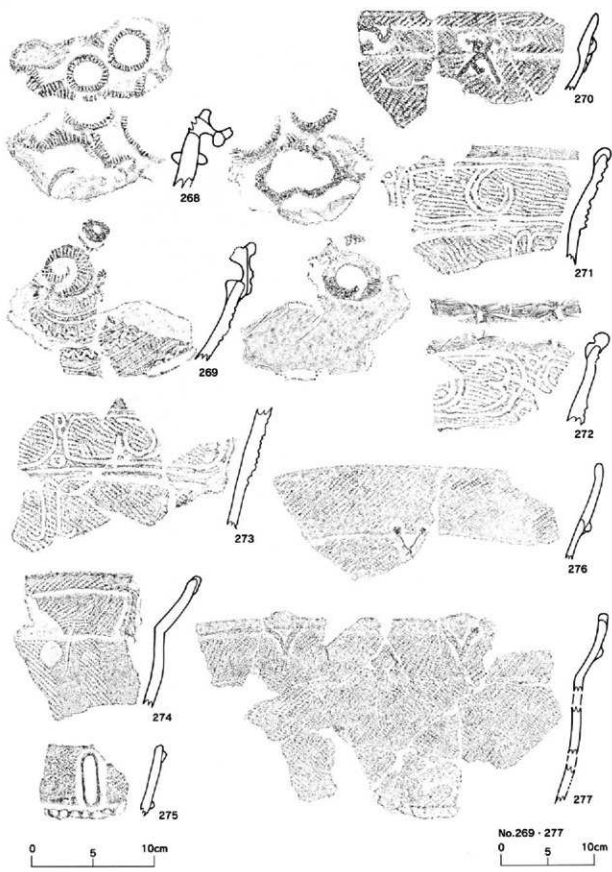
第46図 遺構外出土土器



第47図 遺構外出土土器

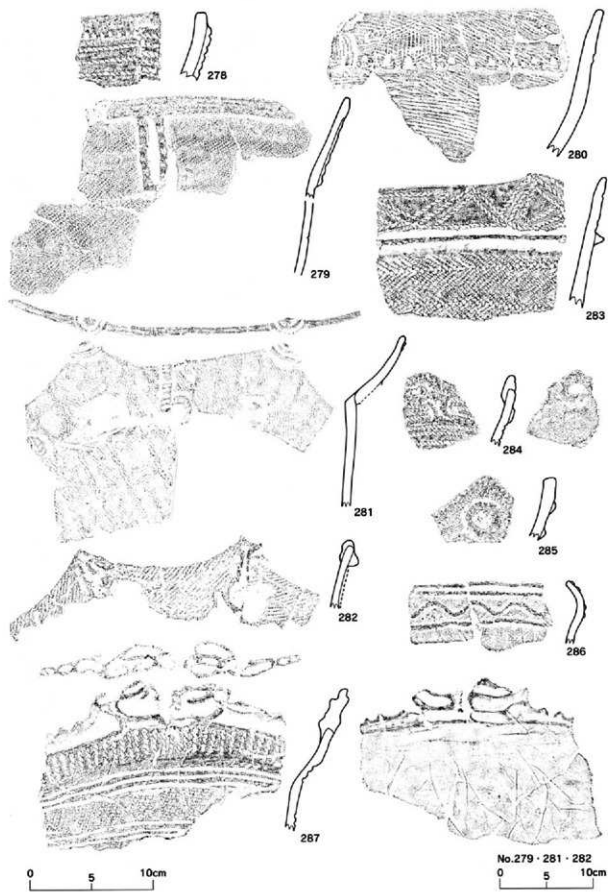


第48図 遺構外出土器

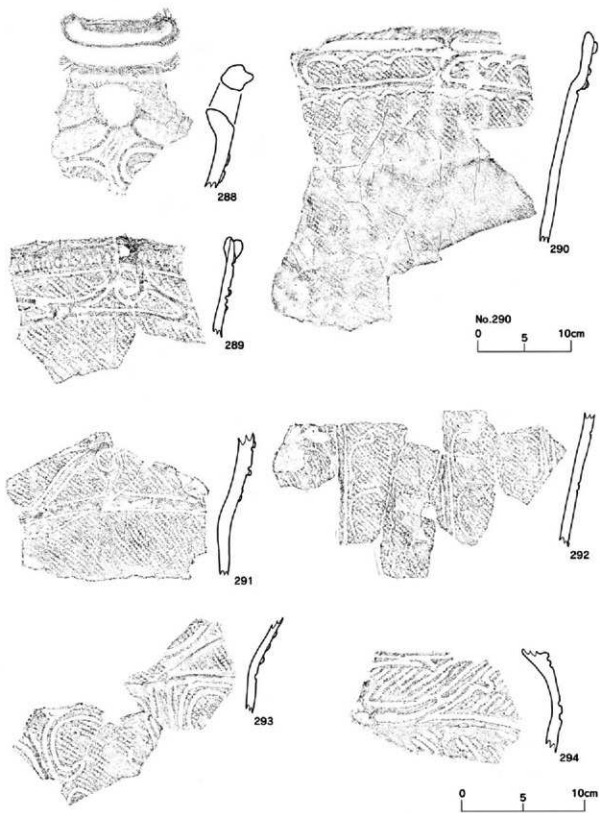


第49図 遺構外出土器

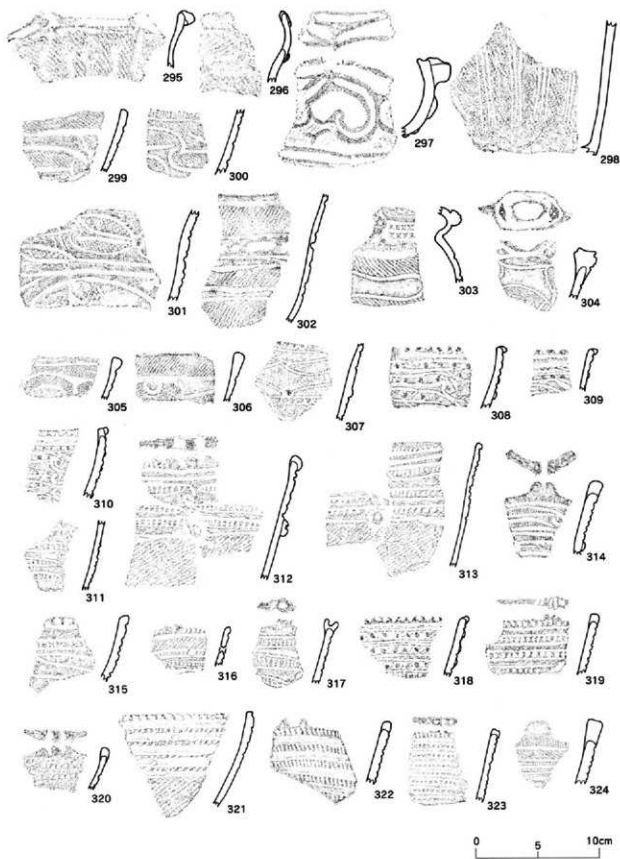




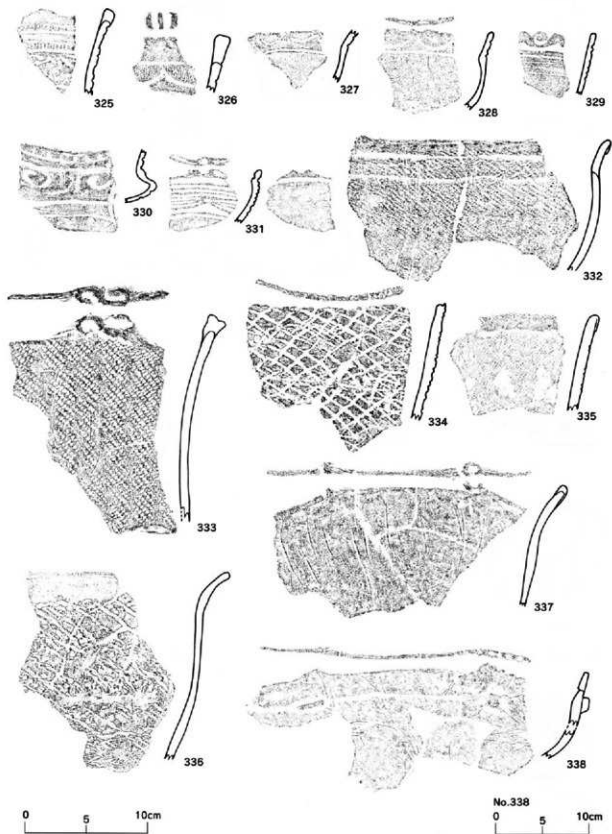
第50圖 遺構外出土器



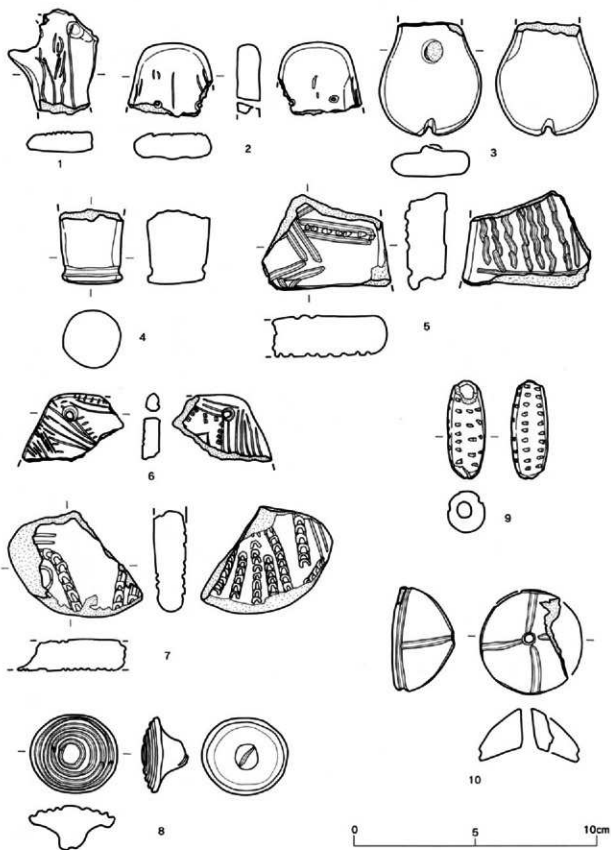
第51図 遺構外出土土器



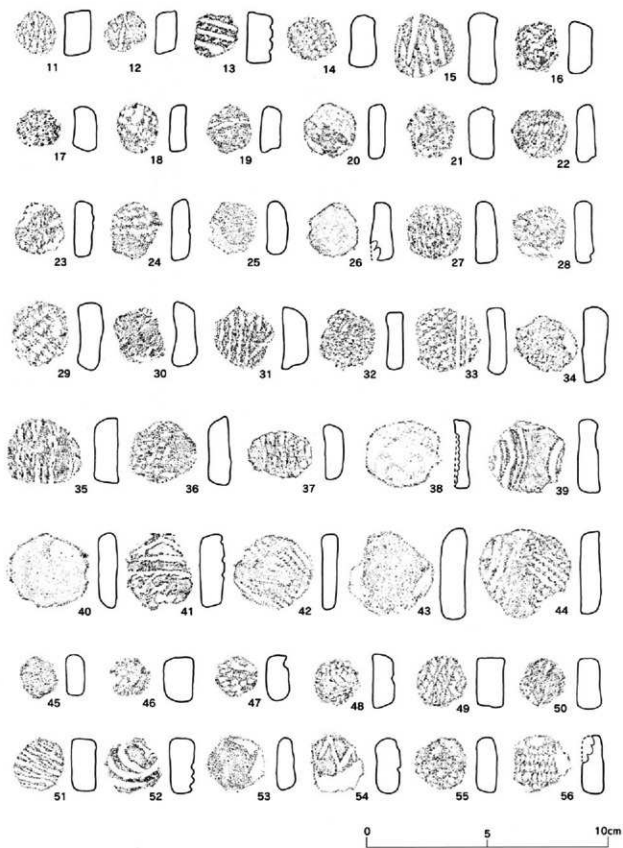
第52図 遺構外出土器



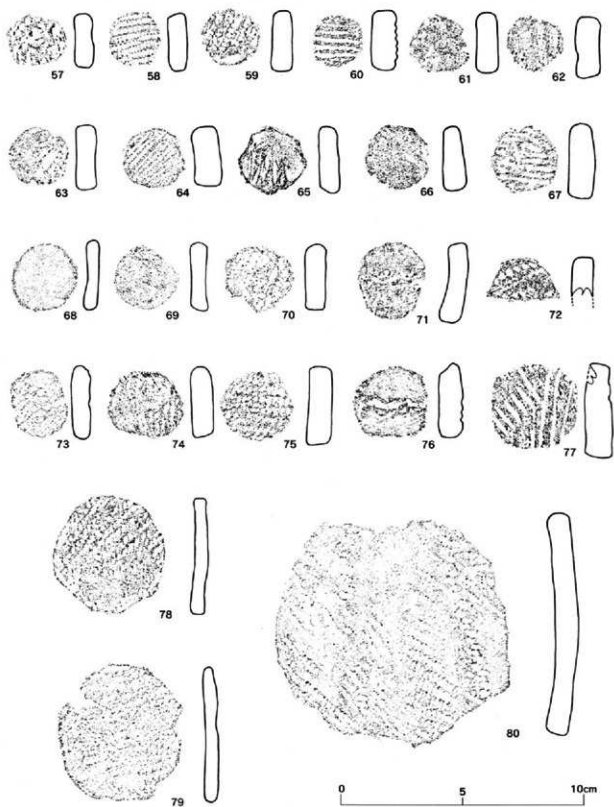
第53図 遺構外出土土器



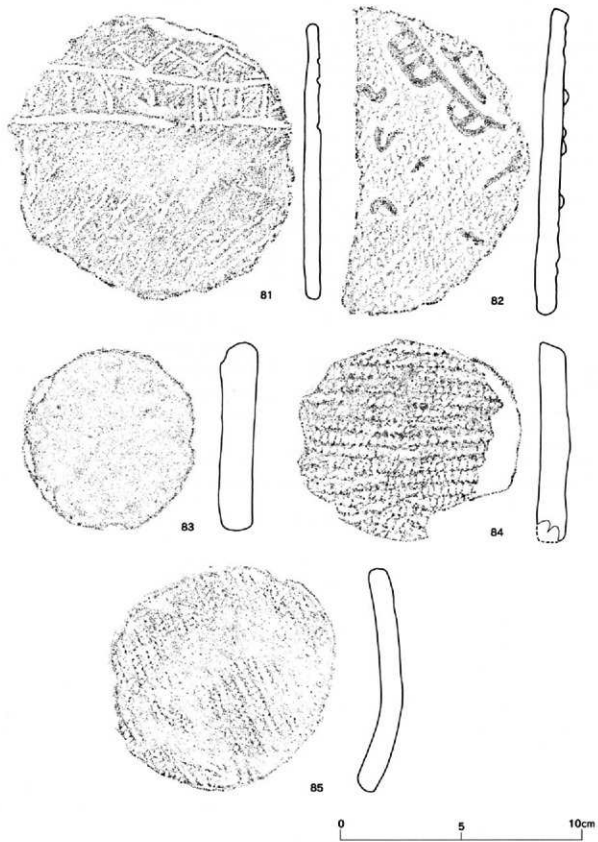
第54図 土製品



第55図 土製品



第56図 土製品



第57図 土製品





題 号	写真図解	グラフ	書体	書形	部位	分類	文 様 の 特 徴 他	内容 調整			
第32図	41	12	41	A1	No35	Ⅱ	深緑	口線→黒部	第Ⅱ群第3種C	口線：平線・内反、口唇内露；発形線、口線部：発形線から黒部発形線に接続する「U」字状の陥付→矢羽→縦位置発形線、黒部：縦位置発形線	ナテ
第32図	42	12	42	B1	No9	Ⅱ	深緑	口線→黒部	第Ⅱ群第3種D	口線：平線・外露、口唇外露；輪の低い発形線→斜線文（RL）、口線部：横位置発形線文（RL）→一段付足付文（横線の発形線）→斜線文、黒部：縦位置発形線文（RL）	ナテ
第32図	43	12	43	A1	No35	Ⅱ	深緑	口線→黒部	第Ⅱ群第3種D	口線：平線・外反、口唇外露；輪の低い発形線→横文、口線部：横位置発形線発形線文（RL）→一段付足付文（横線の発形線と横線）、黒部：横位置発形線→横文、黒部：縦位置発形線発形線文（RL）	ナテ
第33図	44	12	44	B1	No2	Ⅱ	深緑	口線→黒部	第Ⅱ群第3種E	口線：平線・外露、口唇内露；発形線、口唇：発形線と黒部発形線による新反、口線部：横位置発形線文（RL）、黒部：横位置発形線→横位置付文、黒部：横位置発形線文（RL）	ナテ
第33図	45	12	45	E1	西 露	V	深緑	口線→黒部	第Ⅱ群第1種	口線：平線・外反、口唇外露；輪の低い発形線→横文、口線部：横位置発形線発形線文（RL）→一段付足付文（横線の発形線と横線）、黒部：横位置発形線→横文、黒部：横位置発形線発形線文（RL）	ナテ
第33図	46	13	46	F1	2 No4	Ⅱ	黒	口線→黒部	第Ⅳ群第2種	口線：平線・垂線に立ち上がる、口線部：発形線（RL）→2段1対の陥付文、口線部：横位置発形線文、黒部：横位置発形線発形線文（RL）→2段1対の陥付文	ナテ
第33図	47	13	47	F1	2 No4	Ⅱ	黒	口線→黒部	第Ⅳ群第3種	口線：平線・内反、口唇部：横文、口線部：横位置発形線による区画+発形線による入線文、黒部：斜線文（RL）	ナテ
第34図	48	13	48	F1	—	—	注口	黒部→黒部	新設計	黒部：横文、黒部：横文、注口部：横文	ナテ
第34図	49	13	49	C2・3A4	—	—	深緑	口線→黒部	新設計	口線：平線・外反、口線部：横文、黒部：横線横文	ナテ
第34図	50	13	50	C2	—	—	深緑	口線→黒部	新設計	口線：平線・外露、口線部：横文、黒部：横文	ナテ
第34図	51	13	51	A1	—	—	深緑	口線→黒部	新設計	口線：直線口線、口唇部：発形線、黒部：横文	ナテ
第34図	52	13	52	F2	—	—	付足付	黒部	新設計	内露；タークル状の物質付着、外露；タークル状の物質付着	ナテ
第34図	53	13	53	E2	—	—	深緑	動物等正突起	新設計	クマのいばイノシシ、羊、狼、熊、鼻；塗り出し鼻孔を有する	ナテ
第35図	54	14	54	E2	—	—	深緑	口線→黒部	第Ⅰ群第1種A	口線：平線・外反、黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	55	14	55	D2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種A	口線：平線・外露、黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	56	14	56	A2	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種A	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	57	14	57	B1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種A	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量、粗砂を有	ナテ
第35図	58	14	58	F1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種A	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量、粗砂少量	ナテ
第35図	59	14	59	C3	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種A	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	60	14	60	F1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種A	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	61	14	61	F1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	62	14	62	B2	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部を有する発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	63	14	63	C1	ヘルト	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種B	口線：平線・外反、口唇：発形、黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	64	14	64	A2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種B	口線：平線・外反、口唇：発形、黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	65	14	65	A2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種B	口線：平線・外反、黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	66	14	66	C1	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種B	口線：平線・外露、黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	67	14	67	C1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	68	14	68	A1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	69	14	69	B1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	70	14	70	C1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	71	14	71	C1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、厚肌靱い	厚肌
第35図	72	14	72	E1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	73	14	73	C1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	74	14	74	C1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（前々段多条LR1・RL1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	75	14	75	D1	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種B	黒部：総部の無い発形線文（上・前々段多条LR1・RL1、下・前部反発形線）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	76	14	76	E1	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種C	口線：山形口線・内反、黒部：口唇部露下無文・4段のループ文+前々段多条（LR1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	77	14	77	A1	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種C	口線：平線・外反、黒部：口唇部露下斜線文（RL）・5段のループ文+斜線のループ文、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	78	14	78	D2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種C	口線：平線・内反、黒部：口唇部露下無文・8段のループ文、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	79	14	79	F1	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種C	口線：平線・内反、黒部：口唇部露下斜線文（RL）・6段のループ文、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	80	14	80	C2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種C	口線：平線・外露、黒部：6段のループ文+0段多条（LR1）、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	81	14	81	B2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種C	口線：平線・外反、黒部：3段のループ文・黒部露筋	露筋
第35図	82	14	82	B2	—	—	深緑	黒部	第Ⅰ群第1種C	黒部：5段のループ文、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	83	14	83	A2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種D	口線：平線・外反、口唇：平線に作り出し、黒部：口唇部露下斜線文（RL）無文、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	84	14	84	D2	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種D	口線：平線・外反、口唇：平線に作り出し、黒部：口唇部露下斜線文（RL）無文、発土：植物繊維少量	ナテ
第35図	85	14	85	A1	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種D	口線：平線・外露、口唇：内露に作る、黒部：口唇部露下斜線文（RL）無文、植物繊維少量、太い縦筋	ナテ
第35図	86	14	86	E1	—	—	深緑	口線部	第Ⅰ群第1種D	口線：平線・外露、口唇：丸み、黒部：口唇部露下斜線文（RL）無文、発土：植物繊維少量	ナテ

図 番	写真図版	メソド	巻位	部所	部位	分類	文 様 の 特 徴 他	内 容 講 義		
第36図	87	14	87	A2	V	深緑	口縁部	第1群第1種D	口縁：平縁・外反、口唇：尖る、唇部：口唇直下まで斜り段多条（LR1）無文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	88	14	88	A3	V	深緑	口縁部	第1群第1種D	口縁：筋みにより小波状口縁状・外縁、唇部：口唇直下まで斜線文（LR1）無文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	89	14	89	E1	VI	深緑	口縁部	第1群第1種D	口縁：平縁・外縁、口唇：筋み、唇部：口唇直下まで斜り段多条（LR1）+斜向き+穿孔、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	90	14	90	B2	V	深緑	口縁部	第1群第1種D	口縁：平縁・外縁、口唇：筋み、唇部：短縁？無文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	91	14	91	D2	V	深緑	唇部	第1群第1種D	唇部：短縁？による胎土、胎土：植物繊維少量	ナテ
第36図	92	14	92	B1 No56	III	深緑	口縁部	第1群第1種E	口縁：波状口縁・外縁、口縁部：横位筋文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	93	14	93	B2	V	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：唇位の垂直筋文、唇部：S字状波線状文、植物繊維微量	ナテ
第36図	94	14	94	E1	IV	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：波状文+平縁竹管による4条の波線一穿孔、唇部：S字状波線状文、植物繊維微量	ナテ
第36図	95	14	95	C1	V	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：筋みを有する一条の胎付文、唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	96	14	96	C・3	V	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：筋みを有する一条の胎付文、唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	97	14	97	A1	V	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：筋みを有する一条の胎付文、唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	98	14	98	C2	VI	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：筋みを有する一条の胎付文、唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維無し	ミガキ
第36図	99	14	99	A1	II	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・外反、口縁部：斜向き、唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維無し	ミガキ
第36図	100	14	100	D2	V	深緑	口縁部	第1群第2種	口縁：平縁・内反、口縁部：無文、唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維無し	ナテ
第36図	101	14	101	B2	V	深緑	唇部	第1群第2種	唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	102	14	102	A1	III	深緑	唇部	第1群第2種	唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維無し	ナテ
第36図	103	14	103	E2	IV	深緑	唇部	第1群第2種	唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	104	14	104	C1	V	深緑	唇部	第1群第2種	唇部：S字状波線状文、胎土：植物繊維無し	ナテ
第36図	105	14	105	E2	VI	深緑	唇部	第1群第2種	唇部：S字状波線状文・短縁有り、胎土：植物繊維無し	ナテ
第36図	106	14	106	D1	V	深緑	唇部	第1群第3種	唇部：横位の線筋文→唇位の筋みを有する胎付文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	107	14	107	F2	V	深緑	口縁部	第1群第3種	口縁：平縁・外反、口縁部：口唇直下より筋文文+筋みを有する横位胎付文、胎土：植物繊維微量	ナテ
第36図	108	14	108	E2	IV	深緑	口縁部	第1群第4種A	口縁：平縁・外反、口唇：平坦・内面に波状胎付文、口縁部内面：波状胎付文	ナテ
第36図	109	14	109	A1	V	深緑	口縁部	第1群第4種A	口縁：平縁・外反、口唇：裏面に波状胎付文	ナテ
第37図	110	14	110	C2	IV	深緑	口縁部	第1群第4種A	口縁：平縁・外反、口縁部内面：波状胎付文+内形胎付文	ナテ
第37図	111	14	111	C1	IV	深緑	口縁部	第1群第4種A	口縁：平縁・外反、口縁部内面：波状胎付文+内形胎付文	ミガキ
第37図	112	14	112	C1	IV	深緑	口縁部	第1群第4種A	口縁：山形突起・外反、口縁部内面：波状胎付文+内形胎付文	ナテ
第37図	113	14	113	E1	VI	深緑	口縁部	第1群第4種A	口縁：平縁・外反、口縁部：無文、唇部：波状胎付文	ナテ
第37図	114	14	114	F2	IV	深緑	唇部→胴部	第1群第4種A	口縁：無文、唇部：波状胎付文、胎土：筋文	ナテ
第37図	115	14	115	C2	IV	深緑	唇部→胴部	第1群第4種A	口縁：無文、唇部：華形斜線文（LR）→波状胎付文	ナテ
第37図	116	14	116	A3	III	深緑	唇部→胴部	第1群第4種A	口縁：無文、唇部：華形斜線文（LR）→波状胎付文	ナテ
第37図	117	14	117	B2	V	深緑	唇部	第1群第4種A	唇部：波りの筋文・帯状→波状胎付文+1の字状胎付文	ナテ
第37図	118	14	118	不明	—	深緑	唇部→胴部	第1群第4種A	口縁：無文、唇部：波状胎付文	ナテ
第37図	119	14	119	F1	VI	深緑	唇部	第1群第4種A	唇部：帯状→横位胎付文+横位波状胎付文	ナテ
第37図	120	14	120	A2	III	深緑	胴部	第1群第4種A	胴部：華形斜線文（LR）→波状胎付文+波状胎付文	ナテ
第37図	121	14	121	C2	VI	深緑	胴部	第1群第4種A	胴部：横位波状胎付文	ナテ
第37図	122	14	122	A2	V	深緑	胴部	第1群第4種A	胴部：華形斜線文（LR）→波状胎付文	ナテ
第37図	123	14	123	E1	IV	深緑	胴部	第1群第4種A	胴部：華形斜線文（不明）→波状胎付文	ナテ
第37図	124	14	124	C2	V	深緑	胴部	第1群第4種A	胴部：華形斜線文（LR）→横位・縦位波状胎付文	ナテ
第37図	125	14	125	F2	VI	深緑	胴部	第1群第4種A	胴部：（の）の字状胎付文+波状胎付文	ナテ
第37図	126	14	126	F1	VI	深緑	口縁部	第1群第4種B	口縁：裏面波状胎付文・外反、胎土文→横位山形波付文	ナテ
第37図	127	14	127	F1	V	深緑	口縁部	第1群第4種B	口縁：平縁・外縁、口縁部：2条の横位波線山形胎付文、胴部：華形斜線文（LR）→横位波線山形文+横位胎付文	ナテ
第37図	128	14	128	A2	V	深緑	口縁部	第1群第4種B	口縁：平縁・外縁、口縁部：華形斜線文（LR）→2条の横位波線山形胎付文	ナテ
第37図	129	14	129	A1	VI	深緑	口縁部	第1群第4種B	口縁：平縁・外反、口縁部：華形斜線文（LR）→2条の横位波線山形胎付文	ミガキ
第37図	130	14	130	C1	II	深緑	口縁部	第1群第4種B	口縁：平縁・帯部で「く」の字状に屈折し外反、口縁部：筋文文→2条の横位波線山形胎付文	ナテ
第37図	131	14	131	A2	II	深緑	口縁部	第1群第4種B	口縁：山形口縁・外縁、口唇：内面には短縁、口縁部：山形胎付文+真珠文	ナテ
第37図	132	14	132	A3	III	深緑	胴部	第1群第4種B	胴部：無筋文→2条の横位波線山形胎付文	ナテ
第37図	133	14	133	F2	V	深緑	胴部	第1群第4種B	胴部：華形斜線文（LR）→2条の横位波線山形胎付文	ナテ

区 画	写真図番	ゾナ	種 別	種 別	分 類	文 章 の 特 長 等	内 容 類 別			
第37区	134	14	134	C2	V	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照本文→2条の横位連山形貼付文	ナテ	
第37区	135	14	135	B1	No14	III	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 単部銅文(凡)→2条の横位連山形貼付文	ナテ
第37区	136	14	136	C1	ノ6	一	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 横位貼付文+横位連山形貼付文	ナテ
第37区	137	14	137	B1	III-IV	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照本文+横位貼付文+横位連山形貼付文	ナテ	
第37区	138	14	138	B1	III	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照本銅文(凡)→1条の横位連山形貼付文	ナテ	
第37区	139	14	139	F1	VI	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照本銅文+外縁、銅部: 照本文	ナテ	
第39区	140	14	140	A1	V	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 平縁、外縁、折り返し口縁→縦位文縁、口縁: 銅部: 照本文、金堂母多し	ナテ	
第39区	141	14	141	B2	II	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 平縁、外反、口縁: 表面に置高社殿階状の組み、銅部: 照本文	ナテ	
第39区	142	15	142	A1	ノ6	一	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 平縁、外反、置高社殿→銅文、横位銅文、銅部: 単部銅文(凡)	ナテ
第39区	143	15	143	E2	M	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 平縁、外反、置高社殿	ナテ	
第39区	144	15	144	A2	V	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 波状口縁、内反、口縁部: 2条の波縁、銅部: 照本文→縦位山形波縁	ナテ	
第39区	145	15	145	B1	III-IV	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 波状口縁、外反、口縁: 照本文、口縁部: 無文、銅部: 照本文→横位山形波縁	ナテ	
第39区	146	15	146	A1	II	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 山形口縁、内反、山形口縁部にボタシ貼付文、銅部: 照本文→縦位山形波縁	ナテ	
第39区	147	15	147	C2	ノ6	一	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 平縁、外縁、内方に貼高社殿→銅文、銅部: 横位銅文(凡)	ナテ
第39区	148	15	148	C1	No09	II	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 平縁、外縁、銅部: 横位山形波縁	ナテ
第39区	149	15	149	不明	一	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照本文→横位山形波縁	ナテ	
第39区	150	15	150	E1	V	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 単部銅文(凡)→横位山形波縁	ナテ	
第39区	151	15	151	C2	ノ6	一	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 地文(不明)→縦位山形波縁	ナテ
第39区	152	15	152	F1	V	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 単部銅文(凡)→横位山形波縁	ナテ	
第39区	153	15	153	C1	V	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照りの強い単部銅文(凡)→横位山形波縁	ナテ	
第39区	154	15	154	A2	II	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 照本文→横位山形波縁、胎土: 金堂母多し	ナテ	
第39区	155	15	155	A2	III	深鉢 銅部	第1群第4種B	銅部: 縦位山形波縁	ナテ	
第39区	156	15	156	E1	No77	N	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 平縁、外反、銅部: 一条の区画貼付文+格子状貼付文、一部割落	ナテ
第39区	157	15	157	A1	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 平縁、外反、銅部: 一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	158	15	158	E1	N	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 平縁、外反、銅部: 一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	159	15	159	B2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 平縁、縁部に「く」の字状に照出し外反、銅部: 一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	160	15	160	B2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 山形口縁、内反、銅部: 単部銅文(凡)→一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	161	15	161	C2	II	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 波状口縁?、外縁、口縁部: ボタシ状貼付文、銅部: 銅文→区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	162	15	162	A2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	163	15	163	C2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	164	15	164	B1	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→格子状貼付文	ナテ	
第39区	165	15	165	F1	西壁	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→二条の横位貼付文+置高貼付文	ナテ
第39区	166	15	166	A1	III	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	167	15	167	B2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 波状貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	168	15	168	D2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	169	15	169	E1	ノ6	一	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 単部銅文(凡)→一条の区画貼付文+格子状貼付文	ナテ
第39区	170	15	170	D2	V	深鉢 銅部	第1群第4種C	銅部: 波状貼付文+格子状貼付文	ナテ	
第39区	171	15	171	B2	V	深鉢 銅部	第1群第1種A	銅部: 平縁、内反、口縁部: 横位貼付文+銅文+波縁、銅部: 銅文(凡)→波縁+銅文	ナテ	
第39区	172	15	172	C2	V	深鉢 銅部	第1群第1種B	銅部: 山形口縁、外反、口縁部: ボタシ状貼付文+置高波縁、銅部: 波縁、銅部: 銅文→縦位波縁、胎土	ナテ	
第39区	173	15	173	A2	V	深鉢 銅部	第1群第1種B	銅部: 平縁、外縁、口縁部: 内反、波状波縁、銅文、銅文、銅部: 銅文、銅部: 銅文→横位波縁+置高波縁+銅文	ナテ	
第39区	174	15	174	F2	IV	深鉢 銅部	第1群第1種B	銅部: 平縁、外反、口縁部: 横位貼付文+横位横内貼付文、銅部: 山形波縁	ナテ	
第39区	175	15	175	B1	No56	III	深鉢 銅部	第1群第1種B	銅部: 平縁、外縁、口縁部: 置高貼付文+波状波縁+置高波縁、銅部: 銅文、銅部: 横位波縁	ナテ
第39区	176	15	176	A	III	深鉢 銅部	第1群第1種C	銅部: 平縁、外縁、口縁部: 縦位波縁、銅部: 単部銅文(凡)	ナテ	
第40区	177	15	177	A2	V	深鉢 銅部	第1群第1種C	銅部: 平縁、外反、口縁部: 隆帯→縦位波縁、銅部: 銅文(胎土を有する点)	ナテ	
第40区	178	15	178	B1	No56	III	深鉢 銅部	第1群第1種C	銅部: 平縁、外反、口縁部: 縦位波縁、銅部: 無文	ナテ
第40区	179	15	179	B2	V	深鉢 銅部	第1群第1種C	銅部: 平縁、外反、口縁部: 隆帯→波状波縁、銅部: 照本文	ナテ	
第40区	180	15	180	B1	No6	III	深鉢 銅部	第1群第1種C	銅部: 山形口縁、内反、口縁部: 隆帯→照本文→山形波縁、置高波縁、内反、銅部: 照本文	ナテ
第40区	181	15	181	A1	III	深鉢 銅部	第1群第1種D	銅部: 平縁、外縁、口縁部: 横位波縁→波状波縁	ナテ	

図 号	写真図番	寸法	単位	形状	部 位	分 類	文 理 の 特 徴 点	内 容 詳 説
第40図	182	15	182 B1	B・II	深鉢	口縁部	第Ⅷ類第1種D 口縁: 波状口縁・外縁、口縁部: 胎付文・縦位置文	ミガキ
第40図	183	15	183 D3	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第1種E 口縁: 平縁・外反、口縁部: 胎動斜線(丸)一押し引き(縦)	ナテ
第40図	184	15	184 A1	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁: 平縁・外縁、口縁部: 平行文縁・山形文縁・内反文縁等(平角形胎付文、朝顔上半・梵書文・鼓状文縁・集合文縁文・横位置文、胎動斜線(丸)・丸)	ナテ
第40図	185	15	185 F2	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁: 山形口縁・内反、口縁部: 内面凹縁等、口縁部: 波状文縁・(丸)の字状胎付文・集合文縁文、胎動: 平行文縁・集合文縁文	ミガキ
第40図	186	15	186 A1	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁: 波状口縁・外反、胎動斜線・口縁部: 横位置文・胎付文、朝顔上半・円形胎付文、朝顔下半・横位置文、胎動: 山形文縁、朝顔下半・胎動斜線(丸)	ナテ
第41図	187	15	187 C1 No64	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁: 平縁・内反・山形胎付文、口縁部: 平行文縁・鼓状文縁、朝顔上半・平行文縁・横位置文縁、朝顔下半: 斜線文(丸)	ナテ
第41図	189	15	189 A2	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁部: 平縁・外縁、口縁部: 胎動胎付文・内反胎付文(胎動)一交線、朝顔: 斜め交線・集合文縁文	ナテ
第41図	189	15	189 E2	M	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁: 山形口縁・内反、口縁部: 縦位置文・斜文列+文縁、胎動: 横位置斜文列、朝顔上半・横位置文縁+山形文縁、斜文列、朝顔下半: 横位置斜文列	ナテ
第41図	190	15	190 A2	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種A 口縁: 山形口縁・内反、口縁部: 斜交(有字の隆縁、赤漆面垂直)による横倫、山形文、胎動: 斜(山)字状胎付文・横位置文	ナテ
第41図	191	15	191 A1	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁・内面に隆縁、口縁部: 横位置文縁一横位置文縁(胎動胎付文(有字・波線有)、胎動: 胎動胎動文	ナテ
第41図	192	15	192 A1 No38	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反・突起、口縁部: 胎動、内面に隆縁等、口縁部: ボタン状胎付文+横位置文+集合文縁文、胎動: 胎動胎動文	ナテ
第41図	193	15	193 C2 No57	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 斜め交線+斜文文、胎動: 胎動胎動文(丸)	ナテ
第41図	194	15	194 A1 No16	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 山形口縁・内反、突起部: ボタン状胎付文・横位置文、胎動: 胎動胎動文(丸)・波状胎付文一胎位置文、鼓状文縁+斜め交線、胎動: 胎動胎動文(丸)	ナテ
第41図	195	15	195 A2	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 山形口縁・外縁、口縁部: 胎付文+斜文文+集合文縁文	ナテ
第42図	196	16	196 A1	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 平角形による横位置文、小波付文、胎動: 横位置縁+三角形胎付文、胎動: 胎動胎動文(丸)	ナテ
第42図	197	16	197 B1 No12	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 突起一貫通縁、口縁部: 横位置文+波状文縁、胎動: 隆縁+斜線・胎動胎動胎動文(丸)	ミガキ
第42図	198	16	198 A2	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁、口縁部内面: 隆縁、口縁部外面: 隆縁+三角形胎付文、口縁部: 山形文縁・横位置文・ボタン状胎付文、胎動: 横位置文縁、胎動: 斜線文(丸)	ナテ
第42図	199	16	199 A1 No47	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 山形口縁・内反、口縁部内面: 隆縁、口縁部外面: 胎動、口縁部: 交線+押し引きによる溝状有字文・山形文縁、胎動: 横位置胎付文、胎動: 胎動胎動文	ナテ
第42図	200	16	200 B1 No28	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁・突起、口縁部内面: 隆縁、口縁部外面: 隆縁、胎動: 横位置文縁・胎動胎動胎動文(丸)、胎動: 胎動胎動胎動文(丸)	ナテ
第42図	201	16	201 B1	II・IV	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 山形口縁・外縁、口縁部: 半鐘文による横位置文、山形文縁・横位置縁+ボタン状胎付文	ナテ
第42図	202	16	202 C2 No34	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 横位置縁+斜文文、胎動: 胎動胎動胎動文(丸)	ミガキ
第43図	203	16	203 C1 No18	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 斜文文(丸)+横位置文縁、胎動: 胎付文、朝顔: 斜め交線+横位置文縁	ミガキ
第43図	204	16	204 F1	VI	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 山形口縁・内反、口縁部: 鼓状文縁・集合文縁文、胎動: 隆縁+横位置文縁、胎動: 集合文縁文+三角形胎付文	ナテ
第43図	205	16	205 A1	III	深鉢	胎動一側部	第Ⅷ類第2種B 胎動: 横位置文縁+三角形胎付文・鼓状胎付文、胎動: 横位置文縁+波状文縁+三角形胎付文・横位置縁	ナテ
第43図	206	16	206 B2	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁、口縁部: 内面に隆縁、口縁部: 胎付文・内文縁、胎動: 赤漆面垂直文文、胎動: 斜文文(丸)+一押し引き	ナテ
第43図	207	16	207 C2	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁、口縁部: 胎動・内文+集合文縁(胎動胎付文・胎動胎付文)、胎動: 横位置文縁+横位置文縁、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第43図	208	16	208 C3	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 突起(交線)、口縁部: 斜線文(丸)+三角形胎付文・横位置文縁・波状文縁・横位置文縁・横位置文縁、胎動: 波状文縁	ミガキ
第43図	209	16	209 C1 No67	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 山形口縁・内反、口縁部: 胎動胎付文、胎動: 横位置文縁・波状文縁・集合文縁文+胎位置文縁	ナテ
第43図	210	16	210 B1 No14	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 波状口縁・内反・波線胎付文、口縁部: 隆縁、口縁部: 斜線文(丸)一胎付胎付文、胎動: 胎動胎動文	ミガキ
第43図	211	16	211 A2	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 波状口縁・外反、口縁部: 新り赤し、横位置文縁+胎付胎付文+ボタン状胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第44図	212	16	212 B2	II・IV	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 双波口縁・外縁、口縁部: 交線+胎付胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第44図	213	16	213 D2	IV	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 突起+隆縁+交線文縁、口縁部: 斜文文+集合文縁文+胎付文+胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第44図	214	16	214 A	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁、口縁部: 胎動胎動胎動文・胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第44図	215	16	215 C1 No67	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 押し引き口縁、横位置文縁+斜文文縁+胎位置文縁+胎位置文縁、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第44図	216	16	216 A 97N/9		深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 横位置文縁+胎付文縁+胎位置文縁、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第44図	217	16	217 B1 No25	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁、口縁部: 横位置胎動胎動文+胎位置文縁、胎動: 胎動胎動胎動文	ミガキ
第44図	218	16	218 B1 No28	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 横位置文縁+山形文縁+斜文文列一胎位置文縁、胎動: 胎動胎動胎動文	ミガキ
第44図	219	16	219 B1 No6	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外縁、口縁部: 押し引き口縁、胎動胎動胎動文+胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第45図	221	16	221 A1	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・外反、口縁部: 波線+波線胎付文・朝顔一横位置胎付文+胎付文+斜文文	ナテ
第45図	222	16	222 A1	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 内面に隆縁、口縁部: 波状文縁+【1/1】字状胎付文+朝顔有字の横位置文縁	ナテ
第45図	223	16	223 B1	II	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反、口縁部: 内面に隆縁、口縁部: 斜文文(丸)+胎位置文縁+波状文縁+【1/1】字状胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第45図	224	16	224 B1	II・IV	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反・突起有り、口縁部: 赤漆面隆縁+横位置文縁文+三角形胎付文、口縁部: 横位置文縁文+文縁一胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ
第45図	225	16	225 A1 No35	III	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 波状口縁・内反・突起、口縁部: 斜線文(丸)一交線+三角形胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文、胎動: 胎動胎動胎動文(丸)	ミガキ
第45図	226	16	226 D2	V	深鉢	口縁一側部	第Ⅷ類第2種B 口縁: 平縁・内反・突起有り、口縁部: 鼓状文縁+横位置胎付文+胎付文、胎動: 胎動胎動胎動文	ナテ

原 題	写真回数	ゲラ分	巻 数	形 式	部 位	分 類	文 様 の 特 徴 他	内 題 位置	
第45巻	227	16	227 B2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種D	口縁：平縁、内反、口縁部：ボタン状貼付文+横位次縁+斜め次縁、裏部：地、裏部：横位刺繍状紋文	ナ字
第45巻	228	16	228 C1	IV	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種D	口縁：平縁、内反、口縁部：ボタン状貼付文2個+横位、斜め刺繍文列、裏部：木目肌唐文	ナ字
第45巻	229	16	229 B1	II-IV	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種D	口縁：平縁、内反、口縁部：ボタン状貼付文、口縁部：横位、斜め刺繍文、裏部：木目肌唐文	ナ字
第46巻	230	17	230 B1	II-IV	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種D	口縁：平縁、外縁、口縁部：平行次縁、波状次縁、裏部：地、裏部：斜め刺繍文	ナ字
第46巻	231	17	231 A2	II	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種D	口縁：平縁、内反、口縁部：半横竹による横位、縦位次縁、裏部：地、裏部：斜め刺繍文+斜め刺繍、斜め刺繍文	ナ字
第46巻	232	17	232 C2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種D	口縁：平縁、外反、口縁部：斜め刺繍文、口縁部：波状と斜めによる横位、裏部：斜め刺繍文	ナ字
第46巻	233	17	233 A1 No5	III	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：山形口縁、外反、口縁部：ボタン状貼付文、裏部：横位刺繍文、裏部：斜め刺繍文 (R)	ナ字
第46巻	234	17	234 F1	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：外反、口縁部：斜め刺繍文+横位次縁+集合次縁文、裏部：横位波状次縁、裏部：斜め波状次縁	ナ字
第46巻	235	17	235 D2	IV	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：平縁、内反、口縁部：内面に横縁口縁部、斜め文 (R) → 横位次縁+波状次縁+ボタン状貼付文、裏部：斜め刺繍文 (R)	ナ字
第46巻	236	17	236 B1	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：平縁、内反、口縁部：波状次縁、裏部：地、裏部：斜め刺繍文	ナ字
第46巻	237	17	237 B2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：平縁、外縁、口縁部：斜め刺繍文 (R)、口縁部：横位次縁+横位+横位刺繍、裏部：斜め刺繍文 (R)	ナ字
第46巻	238	17	238 A2 No7	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：一部小波状口縁、内反、口縁部：内面に横縁、口縁部：斜め文 (R) → 横位次縁+横位+波状次縁、裏部：斜め刺繍文 (R)	ナ字
第46巻	239	17	239 D2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種E	口縁：平縁、内反、口縁部：集合次縁文+斜め文、貼付文、裏部：斜め刺繍文 (R)	ミガキ
第46巻	240	17	240 E1	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種F	口縁：平縁、外反、口縁部：裏部：地文+山形次縁	ナ字
第46巻	241	17	241 C3	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種F	口縁：山形口縁、内反、口縁部：斜め文 (R) → 横位貼付文、地土：金雲母多量	ナ字
第47巻	242	17	242 B2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第2種F	口縁：山形突起、外縁、口縁部：内面に横縁、口縁部→裏部：縦位の波状貼付文	ナ字
第47巻	243	17	243 B1 No8	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：横位波状刺繍文列+縦位貼付文+斜め、裏部：横位刺繍文列	ナ字
第47巻	244	17	244 F2	IV	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外反、口縁部：横位次縁+縦位貼付文+縦位次縁	ナ字
第47巻	245	17	245 A2	IV	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外反、斜め刺繍文、口縁部：横位次縁、波状次縁→縦位貼付文+横位貼付文→斜め	ナ字
第47巻	246	17	246 C3	V	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：山形口縁、内反、口縁部：内面に波状刺繍文→内面に縦位の貼付文、口縁部：斜め文 (R) → 波状次縁+横位次縁+横位次縁+横位貼付文	ナ字
第47巻	247	17	247 A1	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外反、口縁部：縦位貼付文+縦位次縁、裏部：半横竹による横位次縁	ナ字
第47巻	248	17	248 A	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、内面に斜め刺繍文、口縁部：斜め文+有する縦位貼付文+横位次縁+斜め次縁+集合次縁+三角形印文、裏部：地、裏部：斜め刺繍文	ナ字
第47巻	249	17	249 B2 No7	IV	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：波状口縁、内反、口縁部：波状部下に斜めを有する横縁、ボタン状貼付文+斜め刺繍文	ナ字
第47巻	250	17	250 C5	-	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：山形突起→横位貼付文、口縁部：横位刺繍文+縦位波状貼付文→斜め、裏部：横位刺繍文→斜め	ナ字
第47巻	251	17	251 C3	V	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：斜め文 (R) → 縦位貼付文+横位次縁+斜め文、地土：金雲母多量	ナ字
第47巻	252	17	252 A1	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、一部に山形突起→斜め、口縁部：横位波状次縁+縦位貼付文+「ノ」の字状貼付文+貼付文に斜め、裏部：横位刺繍文→斜め	ナ字
第48巻	253	17	253 A1	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：半横竹による横位次縁、山形次縁、集合次縁文、裏部：横位刺繍文→斜め	ナ字
第48巻	254	17	254 B2	V	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：内面に斜め刺繍文、口縁部：ボタン状貼付文+波状次縁+横位次縁、裏部：横位刺繍文列	ミガキ
第48巻	255	17	255 A2	VI	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：突端、口縁部：貼付文 (刺繍)+横位次縁+斜め次縁、裏部：横位刺繍文列+横位次縁	ナ字
第48巻	256	17	256 C3	V	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：山形口縁、内反、口縁部：波状下にボタン状貼付文+横位次縁+斜め次縁+斜め文列	ナ字
第48巻	257	17	257 A2	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外反、口縁部：斜め文 (R) → 横位貼付文+山形次縁	ナ字
第48巻	258	17	258 A2	V	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：波状口縁、外反、口縁部：斜め、斜めを有する貼付文+半横竹による波状次縁	ナ字
第48巻	259	17	259 B1 No29	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：突端、口縁部：横位貼付文+横位刺繍文+斜め文列+斜め次縁、裏部：ボタン状貼付文+横位貼付文	ナ字
第48巻	260	17	260 B1	II-IV	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：波状口縁、外反、口縁部：横位波状次縁+横位次縁+斜め文列	ナ字
第48巻	261	17	261 B2	I	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外縁、口縁部：横位波状次縁+横位次縁+横位刺繍文	ナ字
第48巻	262	17	262 D2	II	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外縁、口縁部：横位次縁+波状次縁+横位刺繍文	ナ字
第48巻	263	17	263 B2	II	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外反、口縁部：外面に波状縁、口縁部：横位次縁、集合次縁文	ナ字
第48巻	264	17	264 A1 No35	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：外面に斜め刺繍文→斜め、口縁部：縦位次縁→山形次縁+横位次縁+斜め	ナ字
第48巻	265	17	265 A/E	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外縁、口縁部：横文、口縁部：横位次縁+横位次縁、裏部：横位次縁→横位次縁	ミガキ
第48巻	266	17	266 A1	西藍	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、外反、口縁部：次縁+押し刺繍	ナ字
第48巻	267	17	267 D2	V	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：平縁、内反、口縁部：斜めにせり出し先刺繍が内面に斜めを有する、口縁部→口縁部：斜め文 (唐文+唐文)	ナ字
第49巻	268	17	268 A/E	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：内反、突起、横位刺繍→斜め	ナ字
第49巻	269	17	269 B1 No29	III	深緑	口縁	第Ⅱ群第2種G	口縁：内反、突起、「の」の字状貼付文+集合次縁文+面孔を有する内面の貼付文、口縁部：集合次縁文+山形次縁+三角形印文	ナ字
第49巻	270	17	270 B2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第3種A	口縁：平縁、外縁、口縁部：横文、口縁部：斜め文 (R) → 斜め文、裏部：斜め文 (R)	ナ字
第49巻	271	17	271 F1	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第3種B	口縁：平縁、外縁、口縁部：小突起、内面に縦縁、口縁部：斜め文 (R) → 平行次縁+波状次縁、裏部：斜め文 (R) → 縦位次縁 (刺繍)	ミガキ
第49巻	272	17	272 F1	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第3種B	口縁：平縁、外縁、口縁部：斜め刺繍文 (R) → 斜め刺繍文 (R)	ナ字
第49巻	273	17	273 F1	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第3種B	口縁：平縁、内反、口縁部：縦位刺繍文 (R) → 内面に斜め文、口縁部：斜め文 (R) → 縦位貼付文、裏部：斜め文 (R)	ナ字
第49巻	274	17	274 B2	V	深緑	口縁→裏面	第Ⅱ群第3種C	口縁：平縁、内反、口縁部：縦位刺繍文 (R) → 内面に斜め文、口縁部：斜め文 (R) → 縦位貼付文、裏部：斜め文 (R)	ナ字

図 番	写真図版	グロウ	単位	形別	部位	分類	文 様 の 特 徴 他	内装 調整
第49図	275	17 275 A底	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種C	口縁：平縁・内反・口縁部：斜縁文（乱）→身体側面直文文→横行形状貼付文、縁部：横位置起縁→斜文	ナテ
第49図	276	17 276 E1	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種C	口縁：平縁・内反・口縁部：斜縁文（乱）、縁部→斜部：斜縁文（乱）→「V」字状貼付文	ナテ
第50図	277	17 277 A2	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種C	口縁：平縁・山形突起、口縁部から縁部：斜縁文（乱・乱・乱）→「V」字状貼付文→斜縁文（乱）	ナテ
第50図	278	17 278 A	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種C	口縁：平縁・内反・口縁部：斜縁文（乱）→身体側面直文文→斜縁文（乱）→貼付文→斜縁文（乱）	ナテ
第50図	279	18 279 B1・2 No.9	Ⅲ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第3種C	口縁：平縁・内反、口唇外周：折り返し、口縁部：縁部を有する斜縁文（乱）→「U」字状貼付文→貼付文に斜文、縁部：段+縁部を有する斜縁文（乱）	ナテ
第50図	280	18 280 A2	Ⅲ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第3種C	口縁：平縁・外縁、口縁部：縁部→貼付文、縁部：斜縁文（乱）、縁部：折文	ナテ
第50図	281	18 281 A1	Ⅲ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第3種C	口縁：内反・山形口縁→風状貼付文、口唇：内面に隆起縁、口縁部→縁部：貼付文+縁部起縁文	ナテ
第50図	282	18 282 B2	V	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種C	口縁：山形口縁・外縁、口唇：内面に隆起縁、口唇部→口縁部：斜縁文（乱）→縁位置起縁+風状貼付文	ミ力キ
第50図	283	18 283 B2	V	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種D	口縁：平縁・外縁、口唇：突起、口縁部：身体側面直文文による三角形状・変形状文様、縁部：縁起縁、縁部：縁位置起縁文	ナテ
第50図	284	18 284 F1	Ⅵ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種D	口縁：波状口縁・内反、口唇内周：内文、口縁部：身体側面直文文→風状貼付文、縁部：縁起縁、縁部：縁位置起縁文	ナテ
第50図	285	18 285 F2	Ⅵ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種D	口縁：山形口縁・内反、口唇部：身体側面直文文による前縁、口縁部：身体側面直文文→内周貼付文→身体側面直文文による前縁	ナテ
第50図	286	18 286 E1	Ⅳ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁：平縁・内反、口唇部：斜縁文（乱）→縁位置起縁、口縁部：斜縁文（乱）→縁位置起縁+波状縁起縁	ナテ
第51図	287	18 287 E2	Ⅵ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁：内反・大型突起、口縁部：縁部の身体側面直文文、縁部：斜縁文（乱）→縁位置起縁	ナテ
第51図	288	18 288 E1	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第1種	口縁：外縁・大型突起→突起・内反、口縁部：斜縁文（乱）→縁起縁→縁起縁に波線による縁部	ナテ
第51図	289	18 288 F1	Ⅵ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁：平縁・外反、口唇：縁位置起縁+X字状貼付文→斜縁文（乱）、口縁部：斜縁文（乱）→三角形状直文文+透書き文	ナテ
第51図	290	18 290 E1	V	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁：平縁・外縁、口唇：X字状貼付文+斜縁文（乱）、口縁部：斜縁文（乱）→縁起縁→縁起縁に波線による縁部、縁部：斜縁文（乱）→縁起縁→縁起縁に波線による縁部	ナテ
第51図	291	18 291 D3	V	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁部：三角形状直文文→U字状縁起縁+波線による縁部、縁部：三角形状文・波状文、縁部：2本の横位置起縁+波状縁起縁、縁部：斜縁文（乱）	ナテ
第51図	292	18 292 F1	Ⅲ	深緑	斜部	第Ⅲ群第1種	縁部：斜縁文（乱）→縁位置起縁+縁位置起縁+縁位置起縁に波線による縁部	ナテ
第51図	293	18 293 E1	Ⅲ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁部：斜縁文（乱）→縁起縁、縁部：斜縁文（乱）→縁起縁	ナテ
第51図	294	18 294 E1	Ⅳ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第1種	口縁部：横位置起縁（乱）、縁部：縁起縁→縁起縁に波線による縁部、縁部：縁位置起縁（乱）	ナテ
第52図	295	18 295 E1	Ⅳ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第2種	口縁：平縁・内反、口唇：2本の縁位置起縁+「J」字状貼付文、縁部：斜縁文（乱）	ナテ
第52図	296	18 296 F1	Ⅵ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第2種	口縁：平縁・内反、口縁部：縁位置起縁（乱）→2本の縁位置起縁+「J」字状貼付文、縁部：縁位置起縁（乱）	ナテ
第52図	297	18 297 F2	V	深緑	口縁	第Ⅲ群第2種	口縁：平縁・内反、口唇：2本の縁位置起縁、口縁部：斜縁文（乱）→透書き文	ナテ
第52図	298	18 298 E2	V	深緑	斜部→底面	第Ⅲ群第3種	斜部：斜縁文（乱）→二本線の縁位置起縁	ナテ
第52図	299	18 299 F1	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第1種	口縁：波状口縁・内反、口唇部：斜縁文（乱）、口縁部：波縁+透書き文	ナテ
第52図	300	18 300 F2	Ⅳ	深緑	斜部	第Ⅲ群第1種	斜部：斜縁文（乱）→縁位置起縁+曲線文→透書き文+斜部	ナテ
第52図	301	18 301 F2	Ⅳ	深緑	斜部	第Ⅲ群第1種	斜部：斜縁文（乱）→入組文+縁位置起縁+曲線文→透書き文	ナテ
第52図	302	18 302 F1	Ⅳ	深緑	斜部	第Ⅲ群第1種	斜部：斜縁文（乱）→縁位置起縁+透書き文→斜縁文	ナテ
第52図	303	18 303 F1	Ⅲ	注口	斜部→斜部	第Ⅲ群第1種	斜部：曲線文→透書き文、縁部：突起、縁起縁→縁起縁に斜部	ナテ
第52図	304	18 304 F1	Ⅲ	深緑	突起	第Ⅲ群第2種	突起：内反、透書き文+ボタン状貼付文、曲線文+透書き文	ミ力キ
第52図	305	18 305 F1	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第2種	口縁：波状口縁・内反、口唇：縁部の文様→斜縁文（乱）透写、縁部：縁位置起縁→斜縁文（乱）	ミ力キ
第52図	306	18 306 F1	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第2種	口縁：平縁・内反、口唇部：斜縁文（乱）、口縁部：波縁+透書き文	ナテ
第52図	307	18 307 F2	Ⅲ	深緑	斜部	第Ⅲ群第3種	斜部：縁位置起縁+入組文+入組文の交点に縁位置起縁文、縁位置起縁に斜部	ナテ
第52図	308	18 308 E2	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・内反しL字状に外側に屈折→斜部、口縁部：斜縁文（乱）→直線縁文による入組文→縁位置起縁	ナテ
第52図	309	18 309 F2	V	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・外反しL字状に外側に屈折→斜部、口縁部：入組文→縁位置起縁	ナテ
第52図	310	18 310 F1	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・内反しL字状に外側に屈折→斜部、口縁部：入組文→縁位置起縁	ナテ
第52図	311	18 311 F1	Ⅲ	深緑	斜部	第Ⅲ群第3種	斜部：入組文→斜部	ナテ
第52図	312	18 312 F1	Ⅲ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・内反、口唇：斜部、口縁部：入組文→斜部、口縁部→斜部：ボタン状貼付文、縁部：斜縁文（乱）	ナテ
第52図	313	18 313 F1	Ⅲ	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・内反、口唇：斜部、口縁部：入組文→斜部、口縁部→斜部：ボタン状貼付文、縁部：斜縁文（乱）	ナテ
第52図	314	18 314 F1	V	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：山形口縁・内反、山形口縁の頂部に突起、口唇：縁位置起縁+斜部、縁部：入組文→斜部+ボタン状貼付文	ナテ
第52図	315	18 315 F2	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：内反・平縁、口唇部：斜縁文（乱）入組文→斜部	ナテ
第52図	316	18 316 F1	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・内反、口唇部：突起+斜部、口縁部上位：斜縁文（乱）、口縁部下位：入組文→斜部	ナテ
第52図	317	18 317 F2	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第3種	口縁：平縁・内反、口唇部：突起+斜部、口縁部：縁位置起縁→斜縁文（乱）	ナテ
第52図	318	18 318 F1	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第4種	口縁：平縁・内反しL字状に外側に屈折→斜部、口縁部：斜縁文（乱）→縁位置起縁→波り消し→縁位置起縁	ナテ
第52図	319	18 319 F1	Ⅲ	深緑	口縁	第Ⅲ群第4種	口縁：平縁・内反、口唇部：突起→斜部、口唇部→口縁部：縁位置起縁→斜縁文（乱）	ナテ
第52図	320	18 320 F1	Ⅳ	深緑	口縁	第Ⅲ群第4種	口縁：平縁・内反、口唇部：突起→斜部、口縁部：縁位置起縁→斜縁文（乱）	ナテ
第52図	321	18 321 F2	V	深緑	口縁→斜部	第Ⅲ群第4種	口縁：平縁・内反、口唇部：斜縁文（乱）、口縁部：縁位置起縁→斜縁文（乱）	ナテ

図 号	写真図番	字外	種 位	部 位	分 類	文 様 の 特 徴 他	内 典 書 名		
第52図	322	18	322	F1-2 No. 1	-	扉 口縁	第IV群第4種	口縁：平縁・外縁。口内：突起。口内側～口縁部：横位沈線→折みが見通	ナナ
第52図	323	18	323	F1	II	扉 口縁	第IV群第4種	口縁：平縁・外縁。口内：突起。口内側～口縁部：横位沈線→折みが見通	ナナ
第52図	324	18	324	F1	V	扉 口縁	第IV群第4種	口縁：山形口縁・内反。口内側：折み。口縁部上位：斜縄文（LR）。口縁部下位：横位沈線→折み→帯引通し	ナナ
第53図	325	18	325	E1	II	扉 口縁→胴部	第IV群第4種	口縁：小波状口縁・外反。口縁部：横位沈線→折み。胴部：沈線による文様	ナナ
第53図	326	18	326	E2	IV	扉 口縁	第IV群第5種	口縁：山形口縁・内反。山形部：折み。口縁部：横位沈線→折みが見通	ナナ
第53図	327	18	327	F1	II	扉 口縁→胴部	第IV群第5種	口縁：小波状口縁・胴部で折まり外反。口縁部：横位沈線。胴部：斜縄文（LR）	ナナ
第53図	328	18	328	F1	II	扉 口縁→胴部	第IV群第5種	口縁：小波状口縁・胴部で折まり外反。口縁部：横位沈線。胴部：斜縄文（不明）	ナナ
第53図	329	18	329	F1	II	扉 口縁→胴部	第V群	口縁：小波状口縁・内反。口内：溝巻き文。胴部：横位三文文。口縁部：横位沈線。胴部：斜縄文（LR）	ナナ
第53図	330	18	330	F1	II	注口 胴部→胴部	第V群	胴部：横位沈線→折み。胴部：溝巻き文+横位沈線	ナナ
第53図	331	18	331	F1	II	透縁 口縁→胴部	第V群	口縁：平縁・外反。口内：突起+内面に沈線。口縁部：横位沈線+変形工字文。胴部：黒文	ナナ
第53図	332	18	332	B2	V	深縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・外反。口内：山形口縁+突起縁。口縁部：縁部を有する斜縄文。胴部：段。胴部：斜縄文（RL）	ナナ
第53図	333	18	333	E1	II	深縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・外反。口内：S字状斜行文。口内～胴部：斜縄文（LR）	ナナ
第53図	334	18	334	D2	V	深縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・外縁。口内：尖毛・部分的に斜縄文。口内～胴部：網目状黒文。胴部：横帯縁縁多	ナナ
第53図	335	18	335	E2	V	深縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・外反。口縁部：折り返し口縁・黒文。胴部：帯引文	ナナ
第53図	336	18	336	C3	V	深縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・外反。口縁部：黒文。胴部：帯引の粗い黒文	ナナ
第53図	337	18	337	E2	V	深縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・外反。口内：山形突起・中央に窪む突起。口縁部→胴部：黒文	ナナ
第53図	338	18	338	B2	V	透縁 口縁→胴部	第VI群	口縁：平縁・内反。口内：山形突起・波状突起。口縁部：突起下に斜行文。胴部：段。胴部：黒文	ナナ



第6表 土製品一覧表

品名	写真図録	出土地点	層	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	分類・備考	登録 No.
					長さ	幅	厚さ			
第54品 1 19-1 E1			Ⅱ	土塊	5.67	3.10	1.42	3.5	底面不明 欠陥品	1715
第54品 2 19-2 E1			Ⅱ	土塊	(4.29)	(5.48)	1.08	29.8	底面不明 断面 欠陥品 両面縁有 (半截竹筴)	1718
第54品 3 19-3 B1			Ⅱ・Ⅲ	土塊	(4.34)	3.74	0.82	11.5	断面不明 欠陥品 両面縁有 (半截竹筴)	1717
第54品 4 19-4 C2			Ⅱ・Ⅲ	土塊	(3.16)	(3.76)	0.69	7.9	断面不明 断面 欠陥品 両面縁有 穿孔1箇有	1718
第54品 5 19-5 B2			V	土塊	(2.94)	3.37	0.96	12.6	断面? 欠陥品 穿孔2箇有 (1箇所1部欠陥)	1719
第54品 6 19-6 A1			Ⅱ	土塊	(4.69)	4.23	1.25	26.3	断面 土製品 断面中央に突起 (ハネ?) 有	1720
第54品 7 19-7 F1			Ⅱ	土塊	(2.98)	2.96	2.34	24.5	断面	1695
第54品 8 19-8 E2			N	コップ型土製品	2.49	2.00	0.88	6.6	断面 土製品 断面中央に突起 (ハネ?) 有	1721
第54品 9 19-9 E2			Ⅱ	管玉土製品 (彫刻土製品)	3.77	1.59	1.39		一部欠陥	1697
第54品 10 19-10 F2			Ⅱ	管玉土製品 (彫刻土製品)	4.19	3.26	1.57	24.7	一部欠陥	1698
第55品 11 19-11 A1 No 55			Ⅱ	土製内器	1.75	1.66	1.00	4.2	内底, 打凸欠	1703
第55品 12 19-12 C1			Ⅳ	土製内器	1.75	1.80	0.89	3.6	内底, 打凸欠	1691
第55品 13 19-13 D			V	土製内器	2.15	2.12	0.90	5.2	内底, 打凸欠	1668
第55品 14 19-14 B1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	2.16	3.37	1.01	6.3	内底, 打凸欠	1678
第55品 15 19-15 E2			N	土製内器	2.41	2.76	1.13	19.5	内底, (一部欠陥?), 打凸欠	1665
第55品 16 19-16 A1			Ⅱ	土製内器	2.49	2.00	0.88	6.6	内底, (一部欠陥?), 打凸欠	1663
第55品 17 19-17 A1			Ⅱ	土製内器	1.73	2.04	1.03	4.8	内底, (一部欠陥), 断面縁有	1705
第55品 18 19-18 C2			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	1.94	1.84	0.68	3.6	内底, (一部欠陥)	1679
第55品 19 19-19 A1			Ⅱ	土製内器	1.95	1.85	0.71	3.5	内底, (一部欠陥)	1680
第55品 20 19-20 C1			Ⅳ	土製内器	2.04	2.22	0.72	4.2	内底, (一部欠陥)	1672
第55品 21 19-21 A1			Ⅱ	土製内器	2.13	1.95	0.91	5.5	内底, (一部欠陥), 一部欠陥	1690
第55品 22 19-22 B1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	2.23	2.48	0.80	6.4	内底, (一部欠陥)	1679
第55品 23 19-23 A1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	2.26	2.06	0.77	4.4	内底, (一部欠陥)	1681
第55品 24 19-24 F1・2 トレンシ			Ⅱ	土製内器	2.27	2.36	0.61	6.6	内底, (一部欠陥)	1683
第55品 25 19-25 A1 No 36			Ⅲ	土製内器	2.28	2.03	0.87	4.8	内底, (一部欠陥), (一部欠陥), 断面縁有	1667
第55品 26 19-26 B2			V	土製内器	2.31	2.17	0.84	5.9	内底, (一部欠陥)	1677
第55品 27 19-27 B1			V	土製内器	2.34	2.63	0.85	7.4	内底, (一部欠陥)	1650
第55品 28 19-28 F1			Ⅳ	土製内器	2.43	2.40	0.81	6.1	内底, (一部欠陥)	1633
第55品 29 19-29 A1			N	土製内器	2.59	2.75	0.95	8.7	内底, (一部欠陥)	1649
第55品 30 19-30 A1			V	土製内器	2.62	2.45	1.00	7.3	内底, (一部欠陥)	1652
第55品 31 19-31 C2			Ⅱ	土製内器	2.65	2.82	0.87	6.4	内底, (一部欠陥)	1684
第55品 32 19-32 A1			Ⅱ	土製内器	2.69	2.31	0.72	6.4	内底, (一部欠陥)	1659
第55品 33 19-33 B1			Ⅲ	土製内器	2.72	2.92	0.75	6.3	内底, (一部欠陥)	1642
第55品 34 19-34 A2			V	土製内器	2.78	3.11	0.91	10.3	内底, (一部欠陥)	1671
第55品 35 19-35 C2			V	土製内器	2.78	3.12	1.07	12.2	内底, (一部欠陥)	1700
第55品 36 19-36 A1			Ⅱ	土製内器	2.79	2.86	0.93	10.2	内底, (一部欠陥)	1674
第55品 37 19-37 A1			Ⅱ	土製内器	2.80	2.23	0.74	6.6	内底, (一部欠陥)	1685
第55品 38 19-38 B2			V	土製内器	2.85	3.03	0.83	6.5	内底, (一部欠陥), 表面縁有	1655
第55品 39 19-39 B2			V	土製内器	2.92	3.36	0.96	11.5	内底, (一部欠陥), 表面縁有	1654
第55品 40 19-40 B1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	3.11	3.19	0.57	9.8	内底, (一部欠陥)	1674
第55品 41 19-41 C2			V	土製内器	3.13	2.95	0.86	9.9	内底, (一部欠陥)	1676
第55品 42 19-42 F1			Ⅱ	土製内器	3.21	3.35	0.60	8.9	内底, (一部欠陥)	1686
第55品 43 19-43 E2			Ⅱ	土製内器	3.37	3.58	0.87	12.3	内底, (一部欠陥), 表面, 両縁縁有, (一部欠陥)	1666
第55品 44 19-44 A2			V	土製内器	3.70	3.61	0.89	15.6	内底, (一部欠陥)	1699
第55品 45 19-45 A1			Ⅱ	土製内器	1.75	1.74	0.95	3.1	内底, 全周縁有	1638
第55品 46 19-46 C1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	1.76	1.89	1.19	5.9	内底, (一部欠陥), 表面縁有	1705
第55品 47 19-47 E2			N	土製内器	1.84	1.92	0.83	3.0	内底, 全周縁有	1645
第55品 48 19-48 B1 No 21			Ⅱ	土製内器	1.96	2.07	0.92	4.9	内底, 全周縁有	1709
第55品 49 19-49 A1			Ⅱ	土製内器	2.04	2.07	1.18	7.1	内底, 全周縁有	1661
第55品 50 19-50 A1			Ⅱ	土製内器	2.09	2.10	1.02	5.1	内底, 全周縁有	1635
第55品 51 19-51 F1			Ⅱ	土製内器	2.18	2.30	1.09	7.4	内底, 全周縁有	1687
第55品 52 19-52 B1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	2.19	2.28	0.86	7.1	内底, 全周縁有	1705
第55品 53 19-53 A1			Ⅱ	土製内器	2.21	2.24	0.57	4.4	内底, 全周縁有	1654
第55品 54 19-54 C2・3 ベルト			Ⅱ	土製内器	2.24	2.26	0.56	6.8	内底, 全周縁有	1704
第55品 55 19-55 B1			Ⅳ	土製内器	2.32	2.25	0.81	5.5	内底, 全周縁有	1653
第55品 56 19-56 D3			V	土製内器	(2.32)	2.39	0.90	5.1	内底, 全周縁有, 断面一部割落	1702
第55品 57 19-57 No 13			V	土製内器	2.33	2.54	0.72	6.7	内底, 全周縁有	1692
第55品 58 19-58 A1			Ⅱ	土製内器	2.36	2.36	0.75	5.1	内底, 全周縁有	1644
第55品 59 19-59 A2			V	土製内器	2.40	2.52	0.91	7.4	内底, 全周縁有	1651
第55品 60 19-60 B1			Ⅱ	土製内器	2.40	2.54	0.72	5.1	内底, 全周縁有	1634
第55品 61 19-61 E1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	2.55	2.51	0.80	6.5	内底, (一部欠陥)	1646
第55品 62 19-62 B2			V	土製内器	2.56	2.48	0.91	8.3	内底, 全周縁有	1643
第55品 63 19-63 C1			Ⅱ・Ⅲ	土製内器	2.61	2.62	0.93	8.2	内底, 全周縁有, 表面一部割落	1636
第55品 64 19-64 A1			Ⅱ	土製内器	2.69	2.63	1.17	10.1	内底, 全周縁有, 表面一部割落	1660
第55品 65 19-65 D1			Ⅱ	土製内器	2.72	2.57	0.81	6.9	内底, 全周縁有	2846
第55品 66 19-66 A1			V	土製内器	2.72	2.79	0.86	8.9	内底, 全周縁有	1648
第55品 67 19-67 E1			Ⅱ	土製内器	2.73	2.92	0.98	11.5	内底, (一部欠陥)	1662
第55品 68 19-68 B2			V	土製内器	2.74	2.87	0.55	6.3	内底, 全周縁有	1693
第55品 69 19-69 A1			Ⅱ	土製内器	2.76	2.81	0.70	5.9	一部欠陥, 全周縁有, 表面, 両縁縁有	1539
第55品 70 19-70 B1			4	土製内器	2.80	2.88	0.90	9.4	内底, (一部欠陥), 全周縁有, 中央部縁有	1692
第55品 71 19-71 B1			Ⅱ	土製内器	2.85	2.52	0.86	12.0	内底, 全周縁有	1647
第55品 72 19-72 C1			Ⅳ	土製内器	(3.03)	1.85	0.90	5.7	非分欠陥, 全周縁有	1701
第55品 73 19-73 A2			V	土製内器	3.03	2.33	0.61	6.7	小割落, 全周縁有	1680
第55品 74 19-74 A1			Ⅱ	土製内器	3.19	2.73	0.71	12.0	内底, (一部欠陥)	1663
第55品 75 19-75 A1			Ⅱ	土製内器	3.25	3.09	1.06	14.2	内底, 全周縁有	1683
第55品 76 19-76 C1			Ⅱ	土製内器	3.25	3.30	0.83	10.9	中央部縁有, 全周縁有	1675
第55品 77 19-77 C2			V	土製内器	3.96	3.87	1.14	23.7	縁丸有, 全周縁有, 表面一部割落	1655
第55品 78 19-78 E1			V	土製内器	4.80	4.43	0.46	18.5	内底, 全周縁有	1667
第55品 79 19-79 C3			V	土製内器	5.05	5.69	0.58	22.4	内底, (一部欠陥), 全周縁有, 一部欠陥	1711
第56品 80 19-80 A1			Ⅱ	土製内器	8.96	8.60	0.91	119.0	大型, 内底, 打凸欠	1714
第57品 81 19-81 A1 ベルト			Ⅱ	土製内器	11.64	10.71	0.71	125.0	大型, 内底, 打凸欠, 口縁縁有	1712
第57品 82 19-82 E2			V	土製内器	12.87	(8.79)	0.84	106.0	大型, 非分欠陥	1718
第57品 83 19-83 F1			V	土製内器	7.80	7.69	1.45	111.4	大型, 内底, 打凸欠縁有, 断面縁有	1710
第57品 84 19-84 E2			Ⅳ	土製内器	8.21	9.23	1.21	123.7	大型, 内底, (一部欠陥), 全周縁有	1669
第57品 85 19-85 E1			Ⅳ	土製内器	9.24	9.33	0.91	116.4	大型, 内底, 打凸欠全周縁有	1658

### 3 石器 (第58-59図、第7表、写真図版20～25)

出土した石器は、石鏃228点・尖頭器6点・石錐12点・石匙42点・不定形石器214点・磨製石斧25点・石皿1点・敲石22点・磨石20点・特殊磨石39点・打製石斧2点・打製石斧未成品型スクレイパー35点・敲磨器類3点・礫器2点・礫石器1点・凹石6点・石棒5点・石刀・石剣4点・石製品類4点・けつ状耳飾り6点・垂飾品4点の総計681点である。なお、総計には含めてないが石核類は26点出土している。

石材は、珪質頁岩が約22%をしめる。以下、分類ごとに各器種を紹介し、さらに細分をおこなったものについてはその基準を示す。個々の遺物についての詳細は一覧表を参照していただきたい。

なお、原稿中の番号は写真図版番号を用いている。

#### (1) 石鏃 (第58図1～6、写真図版20-1～21-218)

石鏃は未製品・欠損品を含めて228点出土した。遺構内からは10点出土している。石材は、珪質頁岩63点(28%)が多く、ついで珪質砂岩が59点(26%)である。茎部の有無・基部の形状・側縁の形状によって分類した。圧倒的に凹基無茎鏃が多い。

##### 第I群

**有茎の石鏃である。**16点出土した。

##### 第1類

基部が尖基をなすもの。8点出土した。2(第58図1)と7(第58図2)は基部から身部の下端部にアスファルト状の黒色物の付着がある。

##### 第2類

基部が円基をなすもの。6点出土した。

##### 第3類

基部と茎部の境が不明瞭なもの。2点出土した。

##### 第II群

**無茎の石鏃である。**200点出土した。

##### 第1類

基部が平基をなし、身部が二等辺三角形のもの。23点出土した。

##### 第2類

基部が凹基をなし、身部が二等辺三角形のもの。171点出土した。遺構内からは10点出土している。(B1-1土坑から9点、C1-1焼土遺構から1点)

##### 第3類

基部が尖基をなし、身部が二等辺三角形のもの。2点出土した。

##### 第4類

基部が円基をなすもの。4点出土した。

##### 第III群

**異形石鏃である。**2点出土した。208は凹基無茎鏃を呈し、先端に刃部を有する。不定形石器の可能性もある。207は脚部を有し、両側縁が脚部の上で内側に若干くびれる形状のアメリカ式石鏃。

#### 第IV群

欠損により形状不明なもの、未成品を一括した。

##### (2) 石錐 (第58図7～9、写真図版21-219～230)

石錐は12点出土し、約半数が欠損している。頭部と身部が明瞭に区別されるものがほとんどで、228は基部が尖る(第58図8)。230は錐部に磨耗痕を確認できた。

##### (3) 尖頭器 (第58図10～12、写真図版21-231～236)

尖頭器は6点出土した。うち、欠損品が3点。ほとんどが珪質頁岩を石材として使用している。柳葉型で両端が尖る形状をしており、両面調整が丁寧に行われている。

長さが6.4～7.4cmで、幅2.2～2.4cm、厚さ1.2～1.5cmで完形のもの全点が同様な形状と大きさになっている。

##### (4) 石匙 (第58図13～17、写真図版21-237～278)

石匙は未成品と欠損品も含めて42点出土した。形状では縦長のもものが多く、珪質頁岩が主な石材として使用されている。

身部の形状は、横長のもの(I)と縦長のもの(II)がある。刃は、片刃のもの(A)・両刃のもの(B)・片刃と両刃をもつもの(C)がある。刃を一辺に有するもの(a)・二辺に刃を有するもの(b)・三辺に刃を有するもの(c)がある。

欠損品であっても、形状が特定できるものについては分類している。

##### (5) 不定形石器 (写真図版22-279～484)

不定形石器は214点出土した。遺構内からは8点出土している。刃の数・形状によって細分した。また、定形石器の未成品や欠損品の可能性があるものも含まれている。石材は、珪質頁岩が73点(34%)と多く、ついで珪質砂岩が52点(24%)である。302と332は瑪瑙を石材にしている。

###### 第I群 (写真図版22-279～378)

一辺に刃を有するもの。102点出土した。刃には、片刃のもの(1)・両刃のもの(2)がある。刃の形状は、丸みを帯びるもの(A)・直線的なもの(B)・ノッチを有するもの(C)がある。297は石核片を使用しており、339は研磨痕があった。

###### 第II群 (写真図版22-379～23-427)

2片に刃を有するもの。53点出土した。刃には、片刃のもの(1)・両刃のもの(2)・1辺が片刃で他は両刃のもの(3)がある。刃の形状は、丸みを帯びるもの(A)・直線的なもの(B)・1辺が丸みを帯び、他は直線的なもの(C)・1辺が丸みを帯び、他はノッチ状のもの(D)・1辺が直線的で、他はノッチ状のもの(E)がある。

###### 第III群 (写真図版23-428～448)

3辺に刃を有するもの。22点出土した。刃には、片刃のもの(1)・両刃のもの(2)・2辺が片刃で1辺が両刃のもの(3)・2辺が両刃で1辺が片刃のもの(4)がある。刃の形状は、直線的なもの(A)・2辺が丸みを帯び、1辺が直線的なもの(B)・2辺が直線的で、1辺が丸みを帯びるもの(C)・2辺がノッチ状で、1辺が直線的なもの(D)がある。

**第IV群 (写真図版 23 - 449 ~ 453)**

全周に刃部を有するもの。5点出土した。刃は、すべて片刃と両刃をもつ。形状が方形のもの(A)、楕円形のもの(B)がある。

**第V群 (写真図版 23 - 454 ~ 481)**

マイクロフレーキングを有するもの。29点出土した。1縁辺に使用痕があるものが17点、2縁辺に使用痕があるものが8点、3縁辺に使用痕のあるものが2点、4縁辺に使用痕のあるものが1点。

**第VI群 (写真図版 23 - 482)**

一縁辺に打撃痕を有し、対になる辺にマイクロフレーキングを有するもの。1点出土した。2縁辺にマイクロフレーキングを有し、うち1縁辺にはアーチ状にノッチが2箇所並んである。

**第VII群 (写真図版 23 - 483・484)**

両極剥離によるもの。2点出土した。483は長方形を呈し、向かいあった2対の縁辺に階段状の剥離痕があり、中央に自然面を残す。

**(6) 打製石斧未成品型スクレイパー (第59図36 ~ 43, 写真図版 23 - 485 ~ 24 - 519)**

片面がほぼ自然面を残す剥片を使用し、周縁に刃部が形成された石器。35点出土した。石筥や打製石斧に類似した形状をしているものの、一定の出土量があったため袖野I遺跡特有の定形石器と判断した。特に、発掘区南側から集中して出土している。(A-Cグリットより約70%)石材は、凝灰岩が12点と最も多い。

全体、基部、刃部の形状で分類した。

**第I群 形状が短冊形を呈するもの。**

**第II群 形状が楕円形を呈するもの。**

**第III群 基部から刃部にかけて広がる形状を呈するもの。**

**第IV群 欠損しているため、形状が特定できないもの。**

1類 基部が丸みを帯びるもの

2類 基部が方形及び直線的なもの

3類 基部が尖っているもの

A: 円刃 B: 直刃 C: 偏刃

**第I群**

全体の形状が短冊形を呈するものである。3点出土した。平均値は長さ11cm程度、幅5cm前後、厚さ2.2~3.4cmである。刃部は円刃が2点、偏刃が1点である。他の分類のものに比べて大型である。487は刃部が両刃(第59図37)。485は両側縁両刃(第59図36)。486は1側縁両刃、刃部に使用痕があり、基部にも若干の使用痕。

**第II群**

全体の形状が楕円形を呈するものである。10点出土した。平均値は長さ6~13cm、幅3~5cm、厚さ1.2~3cmである。最も小型のもの(488)も含まれている。

刃部は円刃が8点、直刃が1点である。1点のみ基部が尖っているものがあるが、その他は丸みを帯びている。495は1側縁使用痕・1側縁剥離有(第59図39)。490は2頂端使用痕・1側縁刃つぶし(?)がされており、厚みもあって握りやすい。493は2側縁両刃。496は

2 頂端剥離有・使用痕有 (第 59 図 40)。492 は 2 側縁使用痕。491 は 2 頂端剥離有・使用痕有、496 と類似する形状で使用痕剥離がある (第 59 図 38)。

### 第 III 群

全体の形状が基部から刃部にかけて広がる形状を呈するもの。11 点出土した。平均値は長さ 6 ~ 12cm、幅 3 ~ 6 cm、厚さ 1.4 ~ 3 cm。

刃部は円刃が 6 点、直刃が 5 点である。約半数が凝灰岩製である。506 は 2 側縁両刃。502 は刃部に使用痕。508 は基部欠損・1 側縁剥離・刃部に使用痕有。全体の形状が判断できたため第 III 群に分類している。507 は 2 側縁両刃 (第 59 図 43)。501 は 2 側縁・刃部に使用痕有。500 は 1 側縁両刃。503 は刃部に使用痕有。498 は 2 側縁磨滅痕、刃部・基部使用痕有。499 は 2 側縁使用剥離痕 (第 59 図 41)。504 は刃部が両刃 (第 59 図 42)。

### 第 IV 群

欠損しているため、形状が特定できないもの。11 点出土した。ただし、基部及び刃部が判別できるものについては分類している。510 は刃部欠損。511 は刃部欠損、両側縁の刃部が顕著に作られ、使用痕がある。513・514・515 は基部欠損。518・519 は中央部からの欠損のため基部か刃部か判断できない。517 は粗い剥離で基部の欠損と思われる。509 は刃部の欠損で 1 側縁両刃。516 は基部か刃部か判断がつかない。

## (7) 磨製石斧 (第 58 図 18 ~ 21、写真図版 24 - 520 ~ 543)

磨製石斧は 25 点出土し、ほとんどが欠損しており、うち 1 点は未成品。

石材は粗粒砂岩が 6 点と最も多い。長さが 5 cm に満たないミニチュアが 2 点出土しており、直刃。521 は片面が研磨整形されているが、片面が刃部と基部の 1 部に研磨痕が見られるだけで、破片を再加工したものである (第 58 図 19)。533 は、長方形で刃部は偏刃に作り出されているものの、側縁と前面に敲打剥離痕が残っており、雑に研磨されているだけで整形までは至っていない。整形途中の可能性もある。540 は刃部のみの欠損品ではあるが、大型のものと思われる。542 は敲打剥離痕が全体に残っており、その後、一部研磨が施されていることから整形途中で欠損したものである。

## (8) 磨石 (第 59 図 47、写真図版 24 - 544 ~ 563)

20 点出土した。特殊磨石と呼ばれるものは含まない。石材の約 8 割を花崗岩が占めている。ほとんどが円・楕円礫を使用し、表裏面または側縁に磨面を有している。特殊磨石と同じ形状のものもあるが、稜線部及び側縁に使用痕が確認できなかったため、磨石に分類した。また、磨石の中には自然礫が含まれている可能性がある。

562 は棒状の粗粒砂岩礫を使用し、両端を四方から擦っているため、擦り面があり両端の中心が鈍角に加工されている。(第 59 図 47)

## (9) 特殊磨石 (写真図版 24 - 564 ~ 25 - 602)

断面が三角形あるいは台形で長楕円形を呈した自然礫を使用し、鋭角な稜線部または側縁に使用痕を有する磨石。39 点出土し、ほとんどが花崗岩製である。発掘区北側の E1、F1 グリットから約半数が出土している。

礫の断面形状、稜線部または側縁の使用痕、稜線部または側縁以外の使用痕、欠損状況で

分類した。

第Ⅰ群 断面が三角形あるいは台形状

第Ⅱ群 断面に丸みや膨らみがある

第Ⅲ群 断面が扁平状あるいは楕円形状

A類 稜線または側縁に一定幅の擦り面を有する

B類 稜線または側縁に敲打剥離を有する

C類 稜線または側縁に一定幅の擦り面と敲打剥離を有する

D類 稜線または側縁に不規則な擦り面と敲打剥離を有する

1 磨面を有する

2 磨面と敲打痕を有する

3 磨面と凹部を有する

4 磨面と敲打痕と凹部を有する

a: 中央付近で欠損 b: 一端が欠損 c: 両端部が欠損 d: 半分以上が欠損

e: 片面が欠損など

擦り面の幅は最大3.3cm、平均値は1.7cmである。出土した39点の内、約半数が欠損品である。そのほとんどが中央付近で欠損したものの(a)、一端が欠損したものの(b)であった。完形品の擦り面の幅が平均値であるのに対して、欠損品の平均が約2cmと平均値より厚くなっている。稜線部または側縁の使用頻度の高いものが欠損していることがうかがえる。また、高い欠損割合と状況から、意図的に破壊された可能性も考えられる。完形品の平均値から、当遺跡では断面が三角形(丸みや膨らみをもつものも含む)で、長さが15cm、幅が8cm、厚さが6cm程度の礫を選択し、特殊磨石として使用したことがうかがえる。花崗岩製の中には、風化が著しく使用痕が確定できないものもあった。

#### (10) 敲石(写真図版25-603~624)

22点出土した。ほとんどが欠損品である。分類した中には、自然礫も含まれている可能性がある。2点が、磨製石斧からの転用と思われる。611は基端の欠損部に使用痕がある。621は研磨痕が基端と側縁・基部の一部にみられ、両側縁に敲打剥離痕がある。

618は扁平な楕円礫を使用し、側縁のほぼ周りに敲打剥離痕がある。616はA2 3層(V層)とA1 2層(Ⅲ層)から出土したものが結合した。

#### (11) 打製石斧(写真図版25-625・626)

2点出土した。2点とも粗粒砂岩の長方形を呈する礫を使用している。625は直刃で刃部のみ加工となっている。2稜線が敲打剥離されており、全面にも若干散在している。626も直刃である。基部が剥離されており、片面中央部が研磨され、もう片面の中央稜線が敲打されている。

#### (12) 敲磨器類(写真図版25-627~629)

磨痕、敲打痕、凹痕の使用痕を数有する石器である。使用痕が複合しているものを敲磨器類として一括する。3点出土した。石質は花崗岩2点と安山岩1点である。

627 は安山岩の円礫を使用し、2面に磨面と側縁に敲打痕を有する。628 は、側縁に磨面と1面にあばた状の凹痕を有する。629 は棒状の礫を使用し、1面に磨面ともう1面にあばた状の凹痕を有する。

(13) 凹石 (第59図44・45、写真図版25 - 630 ~ 635)

6点出土した。石材のほとんどが花崗岩であった。円・楕円礫を使用し、両面または片面に1~2ヶ所の凹孔がある。すべて凹孔は浅い。風化のため片面が剥落しているものや欠損しているものがあり、凹孔を有していた可能性もある。

(14) 石皿 (第59図46、写真図版25 - 636)

1点出土した。花崗岩製の欠損品である。使用面は1面で、研磨痕がみられる。

(15) 礫器・礫石器 (写真図版25 - 637 ~ 639)

礫器2点、礫石器1点出土した。

礫器は、2点とも一端が刃部に加工され、刃部に向かって若干広がる棒状の自然礫を使用している。638 は刃部に近い基部両面に研磨面があり、石斧状を呈する。

礫石器はほぼ周縁を両面加工で刃部を形成している。形状は楕円形がほとんどで1部自然面が残存しているものもある。

(16) 石棒 (第58図22・23、写真図版25 - 640 ~ 644)

5点出土した。頭部を作り出したものはない。640 は断面が楕円形で両端が欠損している。敲打剥離と敲打痕によって整形、もしくは整形途中のものと考えられる。644 は研磨が施され、焼成痕がある破片である。磨製石斧の可能性もあるが、残存している断面が円形に近いことから石棒?とした。641 は点紋粘板岩製で全体が風化し欠損している。側面に敲打痕がある。半裁したものは風化が著しいため特定できない。642 は上下端が欠損し、3分の1を半裁したものである。欠損した両端を敲石、2面を凹石として利用している。全体に研磨が施されている(第58図30)。643 は大型石棒の欠損品で、焼成痕がある。

(17) 石刀・石剣 (第59図48、写真図版25 - 645 ~ 648)

石刀1点、石剣2点、石刀未成品1点出土した。すべて破損品のため、断面の形状により分類したものの、全体の形状・形態が推定できるものはない。

645 は先端を鋭角状につくりだした研磨痕がみられる(第59図48)。646 は全体が剥離されており、1面・先端部・側縁の一部が研磨されている。研磨整形途中と考えたが、2次加工の途中の可能性もある。647 はほぼ片面が剥離しており、1部残存している部分から断面を推測して石剣に分類している。648 は両側縁が剥離しており、研磨痕はみられない。自然礫の可能性も考えられる。

(18) 石製品類 (第58図24・25、写真図版25 - 649 ~ 652)

4点出土した。651 は円形で中央部に貫通孔を有する粗粒砂岩製の有孔石製品である。半分欠損しているものの、両面に研磨整形が施されている(第58図24)。

652 は軽石製の石製品である。欠損しているものの、全体に研磨されており、扁平な板状を呈し、擦り面が形成されている(第58図25)。

650 は自然礫を利用し、1部擦痕がみられることから石製未成品に分類している。頂端と1側縁に敲打刻痕がある。649 は丸みを帯びるように敲打整形された石器の破片である。石棒もしくは石斧の可能性が考えられるものの特定できない。整形途中とも考えられることから石製未成品?とした。

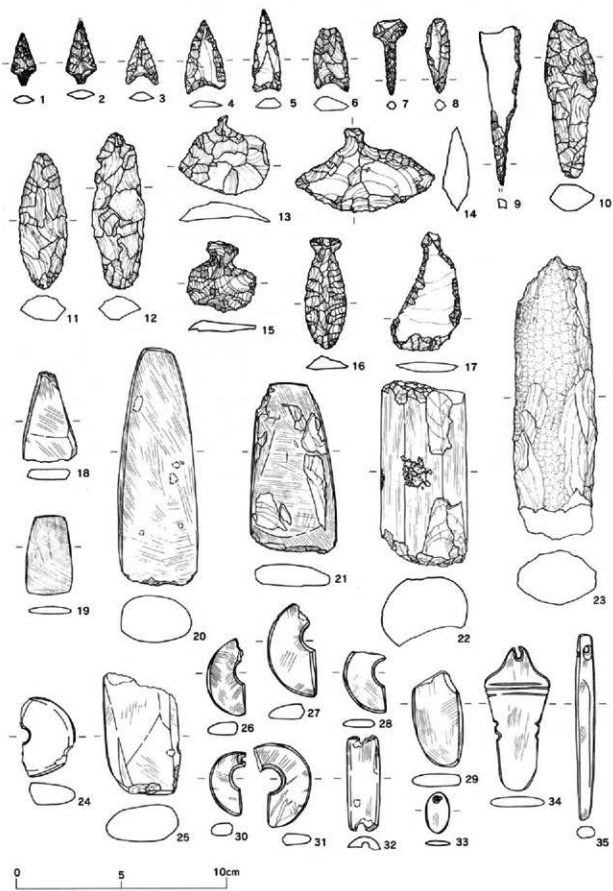
(19) けつ状耳飾り(第58図26～31、写真図版25-653～658)

6点出土した。うち4点がE1・2からの出土であった。全点が欠損品で、657のみ補修孔を有する(第58図30)。形状は、円形が4点・楕円形と隅丸方形が各1点となっている。石材は、滑石が2点出土しているが、蛇紋岩、結晶片岩も各1点出土している。

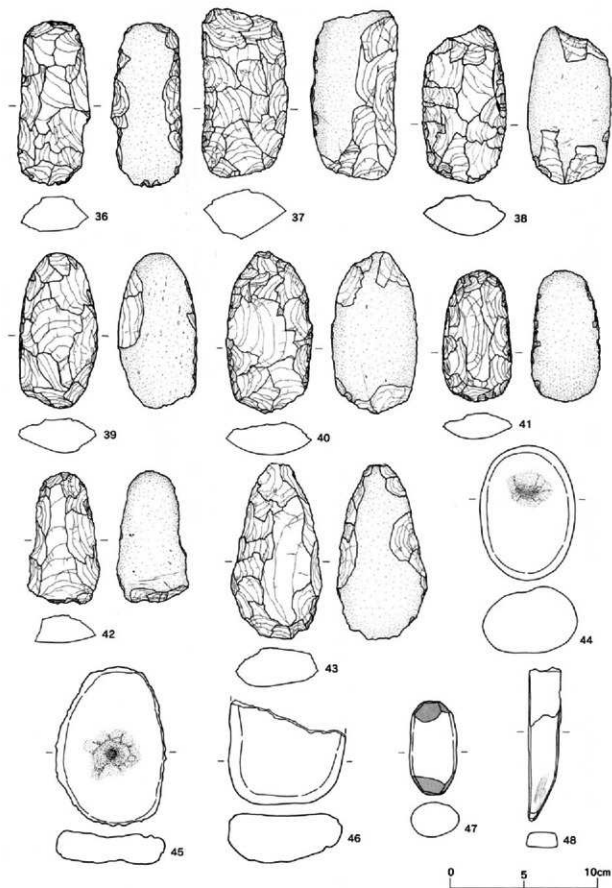
(20) 垂飾品(第58図32～35、写真図版25-659～662)

4点出土した。659は扁平な楕円形状を呈し、全体に研磨されて光沢がある。上部部に約1mmの貫通孔があり、表側の孔部脇にはごく浅い未貫通孔が残る(第58図32)。661は線刻による文様がある、蛇紋岩製の垂飾品である。形状は、扁平な隅丸逆二等辺三角形で両側縁の中央が内側にくびれ、上端中央に丸い突起が作られている。突起には約4mm貫通孔があり、2回の穿孔工程によって孔を広げた痕跡があるが、上端の1部が欠けている。表面の上部の最大幅部分には、3本の沈線が平行に刻まれ、約2mm幅の2本の隆線が浮き彫りになっている。両側縁の中央には2つの刻みが対になるようにつけられ、全体に研磨されて光沢が強い(第58図34)。662は針状を呈し、全体に研磨されて光沢がある。上部部に約3mmの貫通孔がある(第58図35)。660は半裁されているものの管玉状に全体が研磨整形されている。中央に約5mmの孔が両側から穿たれている(第58図33)。





第58圖 石器



第59圖 石器

第7表 遺構外出土石器一覧表

図番	写真図番	出土地点	層	品名	分類・備考	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	発祥No
						長さ	幅	厚さ			
第56図1	20-1 F2	I	石鏃	1-1		2.20	0.81	1.14	石質	18052	
	20-2 E1		石鏃	1-1	2.39	1.11	0.39	0.6	榊原砂岩	18048	
	20-3 F1		石鏃	1-1	3.39	1.53	0.30	1.0	榊原砂岩	18047	
	20-4 F1		II-M	石鏃	1-1	2.63	1.40	0.35	0.94	チャート	18049
	20-5 E1		M	石鏃	1-1	3.00	0.71	3.30	1.6	榊原砂岩	18055
第56図2	20-6 F1	I	石鏃	1-1	2.23	1.17	0.40	1.3	チャート	18068	
	20-7 F1		石鏃	1-1	2.95	1.38	0.34	1.0	榊原砂岩	18046	
	20-8 F1		石鏃	1-1	2.50	1.27	0.61	1.3	チャート	18053	
	20-9 B1		II-M	石鏃	1-2	2.40	1.17	0.42	1.3	榊原砂岩	18043
	20-10 F1		II	石鏃	1-2	2.02	0.94	0.44	0.8	榊原砂岩	18048
	20-11 F1		II	石鏃	1-2	2.66	0.59	0.30	1.1	榊原砂岩	18066
	20-12 F1		II	石鏃	1-2	1.81	0.84	0.70	0.9	榊原砂岩	18051
	20-13 E1		II	石鏃	1-2	2.99	1.31	0.24	0.7	チャート	18060
	20-14 AB		III	石鏃	1-2	1.96	0.65	0.40	0.7	榊原砂岩	18057
	20-15 F1		V	石鏃	1-3	3.04	1.03	1.40	2.1	榊原砂岩	18054
	20-16 F1		I	石鏃	1-3	(2.92)	1.51	0.72	2.7	榊原砂岩	18044
	20-17 A1		V	石鏃	III	(2.23)	1.30	0.40	1.2	榊原砂岩	18079
	20-18 A3		III	石鏃	III	1.92	1.56	0.40	1.2	榊原砂岩	18085
	20-19 C2 トレンチ		III	石鏃	III	(4.26)	1.27	0.47	2.8	榊原砂岩	18162
	20-20 D3		V	石鏃	III	(2.53)	1.47	0.34	1.1	榊原砂岩	18168
	20-21 A1		III	石鏃	III	2.43	1.28	0.44	1.5	榊原砂岩	18210
	20-22 E2		III	石鏃	III	1.78	1.39	0.41	1.1	榊原砂岩	18223
	20-23 D2		III	石鏃	III	2.53	2.36	0.45	2.8	榊原砂岩	18227
	20-24 AB		III	石鏃	III	3.17	1.20	0.31	1.4	榊原砂岩	18232
	20-25 D2		V	石鏃	III	3.67	2.42	0.82	7.2	榊原砂岩	18249
	20-26 D1		II	石鏃	III	3.91	2.95	1.02	10.7	榊原砂岩	18296
	20-27 B1		II-M	石鏃	III	2.71	1.37	0.38	1.1	榊原砂岩	18107
	20-28 B1		II-M	石鏃	III	(1.83)	1.50	0.37	0.9	榊原砂岩	18109
	20-29 D1		II	石鏃	III	(1.97)	1.69	0.53	1.4	榊原砂岩	18228
	20-30 E1		V	石鏃	III	4.11	2.56	1.06	9.2	榊原砂岩	18257
	20-31 B1		II-M	石鏃	III	1.99	1.03	0.37	0.9	榊原砂岩	18110
	20-32 AB		III	石鏃	III	(0.44)	1.31	0.39	1.3	榊原砂岩	18145
	20-33 B1		III	石鏃	III	3.27	2.53	0.75	5.7	榊原砂岩	18239
	20-34 B1		II-M	石鏃	III	1.39	1.72	0.78	4.4	榊原砂岩	18247
20-35 E2	IV	石鏃	III	3.57	1.76	0.63	4.2	榊原砂岩	18248		
20-36 F1	II	石鏃	III	3.34	2.21	0.55	2.9	榊原砂岩	18254		
20-37 E2	II	石鏃	III	(3.16)	2.50	0.73	5.9	榊原砂岩	18417		
20-38 B1	III	石鏃	III	(4.58)	2.77	1.02	12.4	榊原砂岩	18418		
20-39 F1	V	石鏃	III	4.01	2.62	0.76	8.3	榊原砂岩	18478		
20-40 B1	II	石鏃	III	3.33	1.64	0.46	3.0	榊原砂岩	18051		
20-41 C2	IV	石鏃	III	(1.86)	2.28	0.50	2.2	榊原砂岩	18063		
20-42 E2	II	石鏃	III	3.64	1.95	0.64	3.4	榊原砂岩	18066		
20-43 B1	II-M	石鏃	III	2.58	1.22	0.27	1.0	榊原砂岩	18059		
20-44 AB	III	石鏃	III	2.41	1.55	0.31	1.3	榊原砂岩	18072		
20-45 B1 NO12	III	石鏃	III	(2.24)	1.66	0.41	1.3	榊原砂岩	18074		
20-46 D1 ヘルムト	III	石鏃	III	2.89	1.19	0.58	1.9	榊原砂岩	18078		
20-47 D2	II	石鏃	III	2.36	1.58	0.33	1.3	榊原砂岩	18081		
20-48 F1	III	石鏃	III	1.91	1.49	0.38	1.1	榊原砂岩	18091		
20-49 B1 藪壁	III	石鏃	III	(2.21)	1.54	0.24	0.9	榊原砂岩	18101		
20-50 D2	V	石鏃	III	2.76	1.87	0.45	1.7	榊原砂岩	18119		
20-51 B1	II-M	石鏃	III	2.30	1.63	0.27	1.0	榊原砂岩	18126		
20-52 B1	II-M	石鏃	III	3.70	1.37	0.44	1.9	榊原砂岩	18129		
20-53 E1	V	石鏃	III	2.62	1.48	0.53	1.7	榊原砂岩	18130		
20-54 B1	II-M	石鏃	III	3.12	1.96	0.57	3.7	榊原砂岩	18143		
20-55	II	石鏃	III	2.10	1.49	0.26	0.6	榊原砂岩	18155		
20-56 B2	II	石鏃	III	2.69	1.68	0.56	2.4	榊原砂岩	18156		
20-57 A1	III	石鏃	III	2.24	1.28	0.24	0.7	榊原砂岩	18159		
20-58 E2	V	石鏃	III	3.18	2.07	0.42	2.2	榊原砂岩	18161		
20-59 F2	II	石鏃	III	2.13	1.79	0.49	1.6	チャート	18169		
20-60 B1	II-M	石鏃	III	(0.01)	1.42	0.43	1.4	雲山片	18172		
20-61 C2	V	石鏃	III	2.36	1.43	0.36	1.1	榊原砂岩	18174		
20-62 A1	III	石鏃	III	2.19	1.99	0.36	1.2	榊原砂岩	18177		
20-63 A2	II	石鏃	III	2.55	1.92	0.37	1.6	榊原砂岩	18182		
20-64 B1	II-M	石鏃	III	1.77	1.52	0.36	0.7	榊原砂岩	18185		
20-65 C1	III	石鏃	III	2.66	1.49	0.28	0.8	榊原砂岩	18187		
20-66 B1	II-M	石鏃	III	2.90	1.96	0.68	3.5	榊原砂岩	18200		
20-67 C2 トレンチ	III	石鏃	III	2.60	1.32	0.26	0.7	榊原砂岩	18212		
20-68 表層	II	石鏃	III	2.09	1.32	0.78	1.8	榊原砂岩	18229		
20-69 F1	II	石鏃	III	2.67	1.38	0.32	1.4	榊原砂岩	18233		
20-70 E2	V	石鏃	III	2.31	1.84	0.40	2.4	榊原砂岩	18065		
20-71 C1 ヘルムト	III	石鏃	III	2.63	1.89	0.46	1.7	榊原砂岩	18060		
20-72 B1 NO26	III	石鏃	III	3.35	1.67	0.41	1.7	榊原砂岩	18062		
20-73 A	III	石鏃	III	2.52	1.65	0.46	1.5	榊原砂岩	18064		
20-74 C2 ヘルムト	III	石鏃	III	(2.35)	1.26	0.44	1.1	榊原砂岩	18065		
20-75 B1	III	石鏃	III	2.67	1.57	0.32	1.2	榊原砂岩	18068		
20-76 F2	V	石鏃	III	3.17	2.01	0.39	1.9	榊原砂岩	18071		
20-77 A2 トレンチ	III	石鏃	III	5.12	1.83	0.58	2.3	榊原砂岩	18073		
20-78 A	III	石鏃	III	(0.65)	1.77	0.47	1.5	榊原砂岩	18080		
20-79 A2	V	石鏃	III	2.43	1.62	0.42	1.3	榊原砂岩	18082		
20-80 D1	II	石鏃	III	2.85	1.96	0.41	2.5	榊原砂岩	18084		
20-81 F1	II	石鏃	III	3.18	2.00	0.67	3.9	榊原砂岩	18086		
20-82 A	III	石鏃	III	(1.76)	1.22	0.38	0.6	榊原砂岩	18089		
20-83 F1	III	石鏃	III	2.63	1.86	0.61	1.9	榊原砂岩	18093		
20-84 B1	III	石鏃	III	3.24	1.64	0.37	1.5	榊原砂岩	18092		
20-85 A	III	石鏃	III	2.34	1.20	0.35	0.7	榊原砂岩	18104		
20-86 F1	III	石鏃	III	2.74	1.60	0.53	1.9	榊原砂岩	18106		
20-87 A	III	石鏃	III	(2.79)	1.86	0.68	2.9	榊原砂岩	18111		

図号	写真箇所	出土地点	層	層種	分期・備考	計量値 (cm)			質	石	資料 No
						長さ	幅	厚さ			
20-86 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2						
20-89 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.68	1.76	0.31	1.5	粘質土	18112
20-90 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.31)	1.58	0.53	1.3	粘質砂	18113
20-91 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.81)	1.58	0.59	2.0	粘質砂	18122
20-92 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.24	1.56	0.45	1.0	粘質砂	18123
20-93 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.42	1.45	0.46	1.1	粘質砂	18124
20-94 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(1.90)	1.33	0.39	0.8	凝灰岩	18124
20-95 E2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.30)	1.60	0.70	2.0	粘質砂	18125
20-96 C1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.16	1.35	0.30	0.8	凝灰岩	18126
20-97 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.13	1.51	0.67	1.2	粘質砂	18136
20-98 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.34	2.21	0.42	0.8	凝灰岩	18140
20-99 C2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.73	1.72	0.40	1.6	粘質砂	18140
20-100 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.36)	1.43	0.45	1.2	粘質砂	18141
20-101 E2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.77	2.00	0.36	1.6	粘質砂	18144
20-102 F1	2 トレンチ		Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.67)	2.16	0.87	4.4	粘質砂	18146
20-103 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.82)	1.69	0.49	2.2	粘質砂	18148
20-104 表層			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.11)	1.48	0.34	1.0	粘質砂	18152
20-105 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.62)	2.00	0.52	2.3	粘質砂	18156
20-106 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.91	1.86	0.56	3.1	凝灰砂	18163
20-107 E1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(1.95)	1.50	0.35	1.0	凝灰砂	18175
20-108 C2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.66	1.67	0.43	1.8	粘質砂	18176
20-109 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.50	1.72	0.36	1.3	粘質砂	18178
20-110 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.50	1.35	0.33	1.0	粘質砂	18184
20-111 E1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.02	1.25	0.44	1.3	粘質砂	18186
20-112 C2	ペルト		Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.11)	1.50	0.31	1.1	粘質砂	18188
20-113 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.54	1.55	0.42	1.3	チャート	18191
20-114 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.50)	1.79	0.57	2.1	粘質砂	18197
20-115 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.70)	1.80	0.58	2.5	凝灰質砂	18201
20-116 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.34	1.49	0.38	0.9	凝灰砂	18202
20-117 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.40)	1.69	0.34	1.7	凝灰質砂	18204
20-118 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.04	1.26	0.31	0.7	粘質砂	18205
20-119 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.16)	1.72	0.31	1.3	粘質砂	18206
220-120 C2	トレンチ		Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.84	1.76	0.51	2.1	粘質砂	18207
20-121 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.32	1.46	0.37	1.0	粘質砂	18213
20-122 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.30	1.52	0.59	1.6	凝灰質砂	18214
20-123 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.11	1.45	0.56	1.4	凝灰砂	18216
20-124 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.20	1.66	0.56	2.1	粘質砂	18217
20-125 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	1.82	1.27	0.44	1.0	凝灰質砂	18220
20-126 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.37	1.60	0.25	0.9	凝灰砂	18222
20-126 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(1.81)	1.39	0.56	1.0	粘質砂	18225
20-127 A3			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.27	1.71	0.44	2.1	粘質砂	18244
20-128 F2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	1.57	1.15	0.36	0.7	粘質砂	18221
20-129 E2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(1.63)	1.31	0.25	0.6	凝灰土	18076
20-130 E1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	1.98	1.19	0.42	0.8	粘質砂	18083
20-131 C2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.31	1.60	0.34	0.9	凝灰質砂	18087
20-132 E1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.89	1.91	0.70	5.1	粘質砂	18088
20-133 C1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.54	2.05	0.62	2.4	粘質砂	18092
20-134 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.69	2.10	0.70	2.6	粘質砂	18094
20-135 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.31	1.31	0.42	1.5	凝灰土	18116
20-136 E1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.55	2.06	0.53	3.3	粘質砂	18134
20-137 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.48	1.66	0.47	1.8	粘質砂	18153
20-138 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.20	1.78	0.23	1.4	粘質砂	18167
20-139 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.78	1.85	0.57	2.1	粘質砂	18171
20-140 E1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.44	1.53	0.54	2.1	凝灰土	18179
20-141 C2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.68	1.76	0.54	2.0	凝灰砂	18211
20-142 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.14)	2.05	0.72	2.7	粘質砂	18234
20-143 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.04	1.52	0.46	1.2	粘質砂	18235
20-144 A2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.75)	2.16	0.54	2.4	ホルンフェルス	18236
20-145 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.58	1.62	0.48	1.8	粘質砂	18239
20-146 C1	ペルト		Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.81	1.69	0.44	1.6	粘質砂	18240
20-147 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.38	1.22	0.49	1.1	粘質砂	18245
20-148 D1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	4.92	2.82	1.05	12.6	粘質砂	18255
20-149 E1	ペルト		Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.68	1.65	0.56	1.9	粘質砂	18070
20-150 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.29)	1.72	0.42	1.4	粘質砂	18075
20-151 A			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(3.34)	1.75	0.57	2.2	粘質砂	18090
20-152 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.28	1.38	0.40	1.1	粘質砂	18095
20-153 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.91	1.50	0.36	0.7	凝灰土	18096
20-154 A			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.39	1.20	0.24	0.7	粘質砂	18098
20-155 E1	ペルト		Ⅱ	石	Ⅱ-2	1.81	1.00	0.30	0.4	粘質砂	18103
20-156 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.62)	1.89	0.42	1.6	粘質砂	18115
20-157 F1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.65	1.58	0.64	2.1	粘質砂	18137
20-158 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.32	1.78	0.57	1.7	粘質砂	18150
20-159 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.78	1.61	0.55	2.0	凝灰土	18157
20-160 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.53)	1.68	0.49	2.2	粘質砂	18160
21-161 C2	3 ペルト		Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.07)	1.22	0.50	0.9	粘質砂	18165
21-162 E2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.43)	2.15	0.61	2.1	粘質砂	18173
21-163 C2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	3.05	1.81	0.49	1.9	粘質砂	18180
21-164 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.00	1.46	0.25	0.5	粘質砂	18185
21-165 C2	ペルト		Ⅱ	石	Ⅱ-2	(1.88)	1.61	0.53	1.3	粘質砂	18190
21-166 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(3.08)	1.85	0.59	2.3	粘質砂	18194
21-167 D2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.74)	1.66	0.38	1.1	凝灰質砂	18195
21-168 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.85)	1.70	0.36	1.5	粘質砂	18198
21-169 C2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(2.87)	1.64	0.52	1.6	粘質砂	18208
21-170 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	4.23	1.73	0.54	2.7	粘質砂	18224
21-171 A1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.69	1.74	0.43	1.7	粘質砂	18237
21-172 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.58	1.27	0.47	1.1	粘質砂	18242
21-173 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.34	1.56	0.38	1.0	チャート	18108
21-174 D1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.33	1.71	0.29	1.3	凝灰砂	18215
21-175 B1			Ⅱ	石	Ⅱ-2	(1.95)	1.40	0.42	1.1	粘質砂	18105
21-176 B2			Ⅱ	石	Ⅱ-2	2.39	1.55	0.49	1.2	粘質砂	18241

図 号	写真図番	出土地点	層 級	器 種	分類・備考	計測値 (cm)			重量 (g)	石 材	登録 No
						長さ	幅	厚さ			
21-177	D3	V	石鏝	Ⅱ-2		2.62	1.56	0.52	1.6	埴貫貫	18099
21-178	D1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.13	1.48	0.54	1.7	埴貫貫	18127
21-179	A	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.48	1.54	0.63	2.4	埴貫貫	18132
21-180	E2	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		(2.36)	1.58	0.48	1.8	埴貫貫	18170
21-181	B2	Ⅲ・N	石鏝	Ⅱ-2		2.16	1.29	0.34	1.2	埴貫貫	18192
21-182	E2	N	石鏝	Ⅱ-2		3.47	1.83	0.28	2.0	埴貫貫	18203
21-183	F1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.65	1.32	0.34	1.3	埴貫貫	18216
21-184	B1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.89	1.84	0.63	3.9	埴貫貫	18219
21-185	A2	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		(2.12)	1.70	0.48	1.6	埴貫貫	18226
21-186	C2	トレンチ	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2	3.36	2.75	1.12	2.0	埴貫貫	18247
21-187	D1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.66	1.84	0.43	2.0	埴貫貫	18297
21-188	B1	Ⅲ・N	石鏝	Ⅱ-2		2.16	1.64	0.38	1.1	埴貫貫	18114
21-189	E1	V	石鏝	Ⅱ-2		2.39	1.49	0.40	1.4	埴貫貫	18121
21-190	B1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.25	1.73	0.58	1.8	埴貫貫	18131
21-191	A8	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		3.00	1.49	0.37	1.5	埴貫貫	18135
21-192	C2	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		(3.23)	1.58	0.38	2.0	埴貫貫	18142
21-193	B1	Ⅲ・N	石鏝	Ⅱ-2		2.14	1.49	0.47	1.2	埴貫貫	18149
21-194	A2	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.29	1.64	0.44	1.5	埴貫貫	18151
21-195	E1 ヘルト	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		3.85	1.62	0.43	2.3	埴貫貫	18164
21-196	B1	V	石鏝	Ⅱ-2		2.15	1.84	0.37	1.6	埴貫貫	18166
21-197	A1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.07	1.32	0.46	1.0	埴貫貫	18181
21-198	F2	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.50	1.49	0.56	2.1	埴貫貫	18195
21-199	E1	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		2.30	1.53	0.32	1.1	埴貫貫	18213
21-200	A8	Ⅲ	石鏝	Ⅱ-2		(1.79)	1.47	0.40	1.3	埴貫貫	18243
21-201	F1	Ⅲ	石鏝	Ⅲ-3		2.50	1.76	0.52	2.1	埴貫貫	18246
21-202	表層	Ⅲ	石鏝	Ⅲ-3		2.94	1.76	0.74	2.8	埴貫貫	18133
21-203	B1	Ⅲ・N	石鏝	Ⅲ-4		(2.41)	1.69	0.58	2.3	埴貫貫	18498
21-204	B1	Ⅲ・N	石鏝	Ⅲ-4		2.61	1.93	0.44	2.3	チヤート	18067
21-205	B1	Ⅲ	石鏝	Ⅲ-4		2.51	1.75	0.54	2.5	埴貫貫	18117
21-206	F2	Ⅲ	石鏝	Ⅲ-4		3.43	2.62	0.61	6.1	埴貫貫	18417
21-207	A1	Ⅲ	黄粘土	Ⅲ		3.95	1.37	0.46	2.2	埴貫貫	18627
21-208	B1	V	黄粘土	Ⅲ		3.04	1.69	0.60	3.6	埴貫貫	18483
21-209	A8	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		2.57	2.22	0.47	3.2	埴貫貫	18250
21-210	B2	V	石鏝	Ⅲ		2.54	1.90	0.66	3.2	チヤート	18203
21-211	A8	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		2.54	1.59	0.38	1.2	埴貫貫	18470
21-212	A1	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		3.46	1.92	0.63	3.4	埴貫貫	18479
21-213	A1	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		2.45	1.69	0.58	2.4	埴貫貫	18480
21-214	F2	N	石鏝	Ⅲ		4.87	2.53	0.64	12.6	埴貫貫	18489
21-215	B1	Ⅲ・V	石鏝	Ⅲ		(1.36)	(0.91)	0.19	0.2	黄粘土	18251
21-216	F1	N	石鏝	Ⅲ		(2.82)	1.53	0.57	2.2	埴貫貫	18252
21-217	B2	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		(2.51)	1.36	0.29	1.0	埴貫貫	18102
21-218	E2	V	石鏝	Ⅲ		(2.33)	2.37	0.74	3.9	埴貫貫	18482
21-219	C3	V	石鏝	Ⅲ		3.11	1.05	0.38	1.0	埴貫貫	18256
21-220	F1	V	石鏝	Ⅲ		(2.55)	2.35	0.45	1.8	埴貫貫	18259
21-221	B1	V	石鏝	Ⅲ		3.83	1.11	0.87	2.9	チヤート	18260
21-222	F1	Ⅲ・N	石鏝	Ⅲ		(2.73)	1.98	0.60	2.1	埴貫貫	18262
21-223	A1	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		(2.00)	2.27	0.57	2.1	チヤート	18263
21-224	E2	V	石鏝	Ⅲ		3.51	1.58	0.52	1.7	埴貫貫	18264
21-225	C1	V	石鏝	Ⅲ		2.73	1.72	0.69	2.4	埴貫貫	18265
21-226	A1	V	石鏝	Ⅲ		2.48	1.94	1.14	8.9	埴貫貫	18266
21-227	A8	Ⅲ・N	石鏝	Ⅲ		(3.52)	1.26	0.52	2.0	埴貫貫	18484
21-228	A2	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		3.49	1.13	0.41	1.9	埴貫貫	18419
21-229	B1	Ⅲ	石鏝	Ⅲ		(1.45)	0.65	0.36	0.4	埴貫貫	18267
21-230	B2	V	石鏝	Ⅲ		(2.52)	0.88	0.38	0.8	埴貫貫	18261
21-231	E2	N	火鉢	Ⅲ	器部中や筒	6.47	2.59	1.25	19.3	埴貫貫	18302
21-232	E2	N	火鉢	Ⅲ		7.46	2.48	1.34	21.5	埴貫貫	18303
21-233	D2	N	火鉢	Ⅲ		7.30	2.47	1.50	28.0	埴貫貫	18304
21-234	B1	V	火鉢	Ⅲ		(2.82)	1.98	0.92	4.7	埴貫貫	18300
21-235	E2 ヘルト	Ⅲ・N	火鉢	Ⅲ		(5.34)	2.42	1.10	15.4	埴貫貫	18301
21-236	F2	V	火鉢	Ⅲ		(3.42)	2.97	1.16	9.6	埴貫貫	18334
21-237	F1	N	石鏝	Ⅰ-A-a		3.75	4.58	0.76	9.5	埴貫貫	18268
21-238	A1 NO44	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-B-b		4.44	4.23	0.87	11.3	トレンチフェルス	18273
21-239	A1 NO37	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-B-c		3.63	4.75	0.64	10.4	埴貫貫	18272
21-240	B2 NO59	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-B-c		3.86	6.47	1.14	20.1	埴貫貫	18287
21-241	A6	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-B-c		5.07	6.27	1.11	29.3	埴貫貫	18291
21-242	A7	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-C-c		3.27	3.17	0.50	5.5	埴貫貫	18270
21-243	A7	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-C-c		4.81	5.69	0.83	17.2	埴貫貫	18289
21-244	A8	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-C-c		2.78	(2.98)	0.53	3.0	埴貫貫	18278
21-245	B1	Ⅲ・N	石鏝	Ⅰ-A-a		4.60	3.57	0.61	9.3	埴貫貫	18281
21-246	D2	V	石鏝	Ⅰ-A-b		2.24	5.97	0.82	9.8	埴貫貫	18286
21-247	A8	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-A-b		7.51	4.42	0.92	30.1	埴貫貫	18333
21-248	F1	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-A-b		3.45	2.92	0.59	6.5	埴貫貫	18485
21-249	E2	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-B-a		(6.37)	2.92	1.03	14.2	埴貫貫	18277
21-250	F2	N	石鏝	Ⅰ-B-b		3.32	1.64	0.56	3.3	埴貫貫	18274
21-251	E1	V	石鏝	Ⅰ-B-b		5.22	1.97	0.62	7.1	埴貫貫	18276
21-252	E1	V	石鏝	Ⅰ-B-b		(3.82)	1.82	0.45	3.2	埴貫貫	18279
21-253	C2	V	石鏝	Ⅰ-B-b		9.40	1.68	0.96	14.9	埴貫貫	18292
21-254	E1	V	石鏝	Ⅰ-B-b		(3.05)	1.55	0.36	1.7	埴貫貫	18297
21-255	F1	V	石鏝	Ⅰ-C-b		(5.79)	2.71	0.94	12.0	埴貫貫	18486
21-256	D2	V	石鏝	Ⅰ-C-b		(3.45)	2.11	0.57	4.2	埴貫貫	18299
21-257	C2	V	石鏝	Ⅰ-C-b		5.52	2.54	0.65	9.2	埴貫貫	18332
21-258	A2	V	石鏝	Ⅰ-C-c		4.18	3.02	0.68	8.6	埴貫貫	18290
21-259	E1	V	石鏝	Ⅰ-C-c		5.44	2.77	0.43	8.1	埴貫貫	18285
21-260	E1	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-C-c		6.29	2.09	0.64	8.2	埴貫貫	18288
21-261	A1	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-C-c		7.58	3.14	0.69	18.0	埴貫貫	18290
21-262	D1 トレンチ	Ⅲ	石鏝	Ⅰ-C-c		5.25	3.95	0.66	17.6	埴貫貫	18487
21-263	F2	N	石鏝	Ⅰ-C-c		(3.87)	2.44	0.99	7.4	埴貫貫	18268
21-264	B2	V	石鏝	Ⅰ-C-c		(4.43)	2.43	0.63	5.4	埴貫貫	18271
21-265	C1	N	石鏝	Ⅰ-C-c		(2.56)	1.59	0.32	1.8	埴貫貫	18275

図号	写真図面	出土地点	層	墓種	分類・備考	計測値 (cm)			石材	登録No	
						長さ	幅	高さ			
21-266 A1			Ⅱ	石室	Ⅱ	(4.24)	3.07	0.37	4.7	埴輪	18262
21-267 A1			Ⅱ	石室	Ⅱ	(3.09)	2.62	0.81	7.3	子午一ト	18263
21-268 F1			V	石室	Ⅱ	(4.01)	2.12	0.96			18263
21-269 D1 N071			Ⅲ	石室	Ⅱ	(2.53)	1.57	0.81	1.7	埴土	18294
21-270 A2			Ⅲ	石室	Ⅱ	(4.95)	4.08	1.08	24.2	輪形砂器	18422
21-271 B2			V	石室	Ⅱ	(4.18)	1.26	0.48	3.7	埴輪	18462
21-272 E1			Ⅱ	石室	Ⅱ	(5.92)	2.27	0.95	14.4	埴輪	18493
21-273 C2			Ⅱ	石室	Ⅱ	(3.94)	2.66	1.14	11.3	埴輪	18675
21-274 A1 西壁			Ⅲ	石室末端部	Ⅱ	6.36	1.84	0.52	6.1	埴輪	18488
21-275 A1			Ⅲ	石室欠損部	Ⅱ	(2.58)	2.19	0.48	3.6	埴輪	18284
21-278 F1 西壁			V	石室欠損部	Ⅱ	(3.31)	2.54	0.56	5.4	埴輪	18295
21-277 B1			V	石室欠損部	Ⅱ	(2.03)	1.79	0.40	1.0	埴輪	18296
21-278 E2			Ⅲ	石室欠損部	Ⅱ	(1.84)	1.39	0.30	1.0	埴輪	18298
22-279 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	6.32	3.82	1.78	39.4	輪形砂器	18499
22-280 B1			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	3.67	2.59	0.76	7.5	埴輪	18500
22-281 B2			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	2.95	2.98	0.92	6.6	埴輪	18501
22-282 E1			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	3.26	5.94	1.21	24.3	埴輪	18502
22-283 D1			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	4.27	3.02	0.60	7.2	輪形砂器	18503
22-284 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	2.85	2.79	0.51	4.5	埴輪	18504
22-285 D2			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	4.01	5.15	1.12	21.7	埴輪	18505
22-286 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	6.07	5.87	2.12	89.0	埴輪	18506
22-287 E1			V	不定形石室	I-1-A	6.65	5.01	1.75	47.8	埴輪	18710
22-288 A2 サブトレンチ			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	3.82	2.96	1.07	11.6	埴輪	18711
22-289 D1			Ⅱ	不定形石室	I-1-A	3.28	4.35	0.90	11.3	埴輪	18918
22-290 B2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	4.88	3.07	1.05	15.9	埴輪	18421
22-291 F2			V	不定形石室	I-1-B	2.15	2.32	0.62	3.1	子午一ト	18507
22-292 F1・2 トレンチ			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.21	3.79	0.26	3.1	埴輪	18508
22-293 F2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.21	1.73	0.93	5.1	埴輪	18509
22-294 D3			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.71	1.73	0.72	3.0	子午一ト	18510
22-295 F1・2 トレンチ			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	5.26	4.08	1.70	37.7	埴輪	18511
22-296 A1			Ⅲ	不定形石室	I-1-B	5.82	4.49	1.94	30.7	埴輪	18512
22-297 D1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.62	7.28	2.13	69.0	埴輪	18513
22-298 D2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	5.69	5.97	1.61	65.4	埴輪	18515
22-299 A1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.94	6.98	1.14	35.4	埴輪	18516
22-300 A2			Ⅲ	不定形石室	I-1-B	6.17	1.35	0.54	5.5	埴輪	18517
22-301 A2			Ⅲ	不定形石室	I-1-B	3.10	1.99	0.44	3.5	埴輪	18518
22-302 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.35	2.97	1.04	12.7	埴輪	18519
22-303 D1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.66	2.67	1.27	14.7	埴輪	18520
22-304 A1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.57	1.74	0.88	5.6	子午一ト	18521
22-305 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.95	5.27	0.97	9.9	埴輪	18522
22-306 B2			V	不定形石室	I-1-B	4.39	3.03	0.90	10.2	埴輪	18523
22-307 A2			Ⅲ	不定形石室	I-1-B	2.23	3.63	1.21	7.9	埴輪	18524
22-308 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.91	3.10	0.80	10.9	埴輪	18525
22-309 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.21	2.99	1.03	10.1	埴輪	18526
22-310 B2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	4.07	2.87	0.92	11.2	埴輪	18527
22-311 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.13	3.21	0.89	8.3	埴輪	18528
22-312 A1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.94	3.90	0.99	16.0	埴輪	18529
22-313 D1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.87	2.44	0.67	14.2	埴輪	18530
22-314 B1			Ⅲ・Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.60	3.17	1.51	4.3	埴輪	18531
22-315 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	4.20	4.30	1.07	16.1	埴輪	18532
22-316 F2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	4.35	4.58	2.14	42.7	埴輪	18535
22-317 E1			V	不定形石室	I-1-B	4.89	5.10	1.32	34.1	埴輪	18536
22-318 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	6.03	5.65	2.46	88.8	埴輪	18637
22-319 A2 サブトレンチ			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.98	2.32	0.98	7.9	埴輪	18678
22-320 F2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	4.00	3.54	1.15	10.5	埴輪	18691
22-321 C2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.97	5.04	1.29	19.0	埴輪	18692
22-322 B1			Ⅲ・Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.26	2.07	0.34	1.9	埴輪	18693
22-323 C1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	5.21	4.34	1.24	31.4	子午一ト	18694
22-324 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.61	2.11	0.50	3.3	埴輪	19095
22-325 A2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.51	2.67	0.31	2.9	埴輪	18696
22-326 A2 サブトレンチ			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	5.32	3.96	0.95	21.8	埴輪	18697
22-327 C1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	3.69	3.41	0.56	7.6	埴輪	19164
22-328 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.61	1.58	0.40	2.1	埴輪	19171
22-329 E2			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	4.17	2.96	1.32	18.7	埴輪	19623
22-330 A1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	1.47	2.54	0.32	2.6	埴輪	19637
22-331 C1			Ⅱ	不定形石室	I-1-B	2.05	3.94	0.71	7.7	埴輪	19643
22-332 A2			Ⅲ	不定形石室	I-1-C	2.28	2.42	0.84	4.9	埴輪	18533
22-333 D2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	2.40	2.76	0.52	3.3	埴輪	18534
22-334 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	2.52	4.70	1.14	12.1	埴輪	18535
22-335 D2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	2.80	6.27	1.32	18.7	埴輪	18536
22-336 B2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	4.06	7.61	2.01	65.4	埴輪	18538
22-337 B2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	6.93	4.87	1.67	48.1	埴輪	18539
22-338 C1			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	5.87	7.06	1.67	76.6	埴輪	18540
22-339 C2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	11.19	3.30	0.86	39.6	埴輪	18631
22-340 E2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	4.73	3.68	1.12	18.7	埴輪	18638
22-341 C2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	2.12	3.96	0.75	7.0	埴輪	18667
22-342 C2			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	5.06	6.97	1.78	46.2	埴輪	18668
22-343 E2			V	不定形石室	I-1-C	5.69	6.21	1.15	30.2	埴輪	18689
22-344 F1			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	10.08	7.91	1.23	118.5	埴輪	18690
22-345 D1			Ⅱ	不定形石室	I-1-C	2.25	2.42	0.42	2.7	埴輪	18945
22-346 A2			Ⅲ	不定形石室	I-2-A	4.04	2.28	1.06	10.3	埴輪	18841
22-347 E2			V	不定形石室	I-2-A	5.65	3.04	1.04	18.6	埴輪	18842
22-348 B1			Ⅲ・Ⅱ	不定形石室	I-2-A	6.38	4.25	1.24	28.1	埴輪	18843
22-349 F1			Ⅱ	不定形石室	I-2-A	6.05	10.26	2.48	175.8	埴輪	18844
22-350 A2			Ⅲ	不定形石室	I-2-A	4.26	2.88	1.51	19.4	埴輪	18639
22-351 B1			Ⅲ・Ⅱ	不定形石室	I-2-A	2.97	2.17	0.60	4.9	埴輪	18716
22-352 C2			V	不定形石室	I-2-A	2.89	5.30	0.62	9.4	埴輪	19066
22-353 E2			V	不定形石室	I-2-B	3.45	3.56	1.27	17.1	埴輪	18945
22-354 A2			Ⅱ	不定形石室	I-2-B	3.39	2.31	0.38	2.4	埴輪	18646

国	写真図番	出土地点	期	石種	分類・備考	径値 (cm)		重量 (g)	石 材	登録 No	
						長さ	幅				
	22-355 F1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		4.24	3.17	0.60	8.7	珪質頁岩	18547
	22-355 A2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.24	2.48	0.55	3.2	珪質砂岩	18648
	22-357 E2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.33	1.84	0.60	2.3	珪質頁岩	18549
	22-358 F1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		3.35	1.83	0.62	2.7	チャート	18650
	22-358 AⅡ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.67	1.95	1.36	6.0	珪質頁岩	18551
	22-360 F1・2 トレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.89	2.72	0.65	4.9	珪質頁岩	18652
	22-361 F1・2 トレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.73	3.82	0.94	9.3	珪質頁岩	18653
	22-362 B2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		3.40	4.22	1.38	15.8	珪質頁岩	18654
	22-363 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		2.98	5.12	1.63	23.5	珪質頁岩	18655
	22-364 F1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		5.53	2.99	1.43	33.0	珪質頁岩	18556
	22-365 B2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		4.02	7.98	0.93	39.2	珪質頁岩	18557
	22-366 F2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		3.69	8.02	1.19	23.0	珪質頁岩	18640
	22-367 E1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		3.06	2.62	0.98	8.5	珪質頁岩	18641
	22-368 F2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		4.74	2.52	1.06	11.8	珪質頁岩	18677
	22-369 C3	V	不定形石	Ⅰ-2-B		4.35	3.71	1.01	14.7	珪質頁岩	18679
	22-370 AⅡ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.71	1.77	0.47	2.0	珪質頁岩	18680
	22-371 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.69	3.65	1.17	15.6	珪質頁岩	18681
	22-372 C3	V	不定形石	Ⅰ-2-B		4.26	6.50	1.37	34.0	珪質頁岩	18682
	22-373 F2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		7.20	3.73	1.58	68.0	珪質頁岩	18683
	22-374 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		4.07	4.45	1.58	34.7	珪質頁岩	18684
	22-375 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		2.60	3.15	1.19	11.2	珪質頁岩	18685
	22-376 B1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		3.14	4.26	0.88	10.6	珪質頁岩	18686
	22-377 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-C		2.79	3.25	0.94	10.6	珪質頁岩	18689
	22-376 E1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-C		2.02	2.64	0.23	1.6	珪質頁岩	19172
	22-379 西側	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-B		0.8	0.98	0.18	0.7	珪質頁岩	18689
	22-380 F1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-B		3.33	2.14	0.62	3.2	珪質頁岩	18690
	22-381 A2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-B		4.64	2.50	1.16	12.2	珪質頁岩	18691
	22-382 E2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-B		5.44	3.38	1.10	21.7	珪質頁岩	18692
	22-383 A1	V	不定形石	Ⅰ-1-B		1.62	3.51	0.78	4.3	珪質頁岩	18642
	22-384 AⅡ サブトレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-B		2.64	3.58	0.78	7.1	珪質頁岩	18698
	22-385 E2	V	不定形石	Ⅰ-1-B		6.15	4.52	1.35	41.4	ホルンフェルス	19059
	22-386 E2	V	不定形石	Ⅰ-1-B		2.81	3.04	0.73	7.0	珪質頁岩	18700
	22-387 C2	V	不定形石	Ⅰ-1-B		3.58	2.56	0.54	6.0	珪質頁岩	18910
	22-388 B2	V	不定形石	Ⅰ-1-B		3.36	4.11	0.90	10.6	珪質頁岩	19059
	22-389 E1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-B		2.38	2.72	0.77	4.6	珪質頁岩	19352
	22-390 E1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-C		2.57	1.18	0.27	1.3	珪質頁岩	18563
	22-391 F1・2 トレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-C		6.63	4.99	10.19	34.0	珪質頁岩	18664
	22-392 C1 ヘルム	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-E		2.61	3.24	0.40	10.3	珪質頁岩	18565
	22-393 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-E		3.68	3.28	10.40	8.4	珪質頁岩	18666
	22-394 F1	V	不定形石	Ⅰ-1-E		4.83	7.47	1.42	46.0	珪質頁岩	18567
	22-395 B1	Ⅱ・N	不定形石	Ⅰ-2-A		4.13	2.63	0.59	6.8	珪質頁岩	18670
	22-396 AⅡ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		5.09	2.86	1.06	13.3	珪質頁岩	18481
	22-397 F2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		5.24	2.71	0.92	10.4	珪質頁岩	18671
	22-398 C2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		2.30	3.71	0.90	13.7	珪質頁岩	18672
	22-399 F2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		5.46	5.66	1.99	59.0	珪質頁岩	18973
	22-400 A1 N035	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		3.71	1.97	0.53	3.7	珪質頁岩	18674
	22-401 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-B		3.53	2.75	1.25	13.3	チャート	18643
	22-402 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		3.51	3.07	1.16	12.2	珪質頁岩	18712
	22-403 B2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		3.67	4.06	1.16	25.6	珪質頁岩	18713
	22-404 A2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		4.65	3.21	0.91	14.8	珪質頁岩	19270
	22-405 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-B		1.05	3.34	0.91	9.3	珪質頁岩	18575
	22-406 F1・2 トレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-C		1.68	2.55	0.58	2.6	珪質頁岩	18576
	22-407 B2	Ⅱ・N	不定形石	Ⅰ-2-C		5.95	3.86	1.89	41.7	珪質頁岩	18577
	22-408 B1	Ⅱ・N	不定形石	Ⅰ-2-C		3.74	3.07	0.95	11.2	珪質頁岩	18714
	22-409 F2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-D		6.87	4.01	1.49	37.1	珪質頁岩	18578
	22-410 F2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		3.04	3.46	1.10	11.3	珪質頁岩	18580
	22-411 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		4.29	2.71	1.10	10.0	珪質頁岩	18581
	22-412 F1・2 トレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		2.38	0.94	0.50	1.1	チャート	18582
	22-413 B1	Ⅱ・N	不定形石	Ⅰ-3-B		2.57	1.78	0.36	2.1	珪質頁岩	18583
	22-414 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		3.43	2.28	0.73	6.4	珪質頁岩	18584
	22-415 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		4.24	3.70	1.15	16.9	珪質頁岩	18587
	22-416 E2	V	不定形石	Ⅰ-3-B		5.12	1.94	0.93	10.1	珪質頁岩	18589
	22-417 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		4.72	3.60	1.01	20.6	珪質頁岩	18590
	22-418 E2	V	不定形石	Ⅰ-3-B		5.94	4.45	1.88	44.0	珪質頁岩	18591
	22-419 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		2.49	3.19	1.00	10.1	珪質頁岩	18644
	22-420 B1	Ⅱ・N	不定形石	Ⅰ-3-B		3.18	2.09	0.63	3.6	珪質頁岩	18722
	22-421 F1・2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		6.27	6.28	1.99	94.3	珪質頁岩	18723
	22-422 F1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		3.54	2.24	0.93	6.4	珪質頁岩	18724
	22-423 AⅡ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-C		3.86	7.88	1.08	10.5	珪質頁岩	18692
	22-424 A1	V	不定形石	Ⅰ-3-A		2.35	1.59	0.43	1.2	珪質頁岩	18593
	22-425 C1	V	不定形石	Ⅰ-3-C		3.18	2.63	0.89	9.5	珪質頁岩	18594
	22-426 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-D		3.22	3.45	0.89	9.3	珪質頁岩	18595
	22-427 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-E		5.80	2.35	10.20	13.1	珪質頁岩	18596
	22-428 A1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-A		5.64	4.30	1.12	28.3	珪質頁岩	18598
	22-429 C1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-1-A		4.66	3.57	0.81	18.3	珪質頁岩	18599
	22-430 A2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-A		4.03	3.88	0.91	20.0	珪質頁岩	18601
	22-431 C2 トレンチ	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-A		4.90	2.53	1.11	16.7	チャート	18608
	22-432 A2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-A		5.90	3.20	1.19	24.9	珪質頁岩	18599
	22-433 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-A		4.69	3.19	0.92	13.4	珪質頁岩	18625
	22-434 C2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-2-A		3.13	3.76	1.07	13.2	珪質頁岩	18717
	22-435 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-C		5.83	3.27	1.15	24.0	珪質頁岩	18660
	22-436 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-C		6.38	4.02	1.26	40.3	珪質頁岩	18601
	22-437 E2	V	不定形石	Ⅰ-2-C		2.78	2.75	1.01	9.0	珪質頁岩	18674
	22-438 C1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-A		4.56	3.57	0.69	10.3	珪質頁岩	18719
	22-439 C1	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-3-B		6.43	5.09	1.22	44.2	珪質頁岩	18715
	22-440 E2	V	不定形石	Ⅰ-3-C		4.72	3.85	1.48	32.7	珪質頁岩	18720
	22-441 D2	Ⅱ	不定形石	Ⅰ-4-A		4.75	3.28	1.16	20.3	珪質頁岩	18603
	22-442 B1	Ⅱ・N	不定形石	Ⅰ-4-A		2.93	2.35	0.63	3.7	チャート	18118
	22-443 A2	V	不定形石	Ⅰ-4-C		3.34	4.49	1.05	16.9	珪質頁岩	18605

図番	写真図番	出土地点	層	器種	分類・備考	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	登録 No
						長さ	幅	厚さ			
23-444	B1	V	不定形石器	器-4-C		2.68	3.47	1.15	12.5	雑質燧石	18606
23-445	F1	V	不定形石器	器-4-C		4.71	2.74	0.99	14.5	粗粒砂岩	18626
23-446	F1	V	不定形石器	器-4-C		3.08	4.67	0.86	11.1	粗粒燧石	18708
23-447	A1	VI	不定形石器	器-4-C		5.37	3.68	1.23	34.0	粗粒砂岩	18709
23-448	B2	W	不定形石器	器-4-D		3.17	3.82	0.62	5.4	粗粒燧石	18607
23-449	C3	W	不定形石器	M-A		3.58	3.43	0.92	12.9	粗粒燧石	18608
23-450	C1	W	不定形石器	M-A		3.72	3.13	0.90	14.5	粗粒燧石	18609
23-451	E1	IV	不定形石器	M-B		4.49	2.13	0.85	8.4	粗粒燧石	18610
23-452	F1	W	不定形石器	M-B		2.45	1.60	0.41	2.0	粗粒燧石	18611
23-453	D2	W	不定形石器	M-B		3.36	1.94	0.97	6.0	粗粒燧石	18612
23-454	D3	W	不定形石器	M-B		3.52	4.48	1.28	11.4	粗粒燧石	18619
23-455	AR	III	不定形石器	V		5.39	2.55	0.64	7.1	粗粒砂岩	18613
23-456	D1	IV	不定形石器	V		4.55	3.78	0.86	16.8	粗粒砂岩	18614
23-457	F1	W	不定形石器	V		5.14	2.49	0.91	11.5	粗粒燧石	18615
23-458	C1	W	不定形石器	V		2.01	2.65	0.48	2.8	粗粒燧石	18616
23-459	D3	IV	不定形石器	V		3.28	4.93	0.85	12.4	粗粒燧石	18617
23-460	サブレンテ	W	不定形石器	V		3.26	3.39	1.44	12.3	粗粒燧石	18618
23-461	E2	W	不定形石器	V		2.92	2.86	1.35	9.9	粗粒燧石	18619
23-462	C1	W	不定形石器	V		3.89	1.74	0.57	3.0	粗粒燧石	18620
23-463	A1	III	不定形石器	V		3.30	3.31	1.63	20.8	石灰岩	18621
23-464	E1	W	不定形石器	V		4.16	4.06	1.37	27.3	粗粒燧石	18622
23-465	AR	III	不定形石器	V		2.93	4.73	0.83	12.5	粗粒燧石	18645
23-466	F2	W	不定形石器	V		2.07	2.63	0.46	2.7	粗粒燧石	18646
23-467	AR	III	不定形石器	V		3.24	2.89	0.74	4.1	粗粒燧石	18647
23-468	AR	III	不定形石器	V		2.31	3.78	0.59	6.3	粗粒燧石	18648
23-469	B1	III	不定形石器	V		3.20	5.06	0.90	15.6	粗粒燧石	18701
23-470	AR	III	不定形石器	V		3.33	2.11	0.78	4.1	粗粒燧石	18702
23-471	AR	III	不定形石器	V		4.37	2.37	0.78	8.7	粗粒燧石	18703
23-472	AR	III	不定形石器	V		3.08	3.79	0.78	10.0	粗粒燧石	18704
23-473	C1	W	不定形石器	V		4.11	2.78	0.82	9.0	粗粒燧石	18705
23-474	E1	ベルト	W	不定形石器	V	6.51	5.45	1.37	45.4	粗粒砂岩	18706
23-475	AR	III	不定形石器	V		5.21	3.30	1.01	14.1	粗粒燧石	18707
23-476	F1	W	不定形石器	V		6.05	3.19	1.72	36.3	粗粒燧石	18725
23-477	B2	W	不定形石器	V		2.91	2.67	0.78	7.0	粗粒燧石	18833
23-478	D1	IV	不定形石器	V		2.30	2.91	0.65	4.4	粗粒燧石	18941
23-479	F1	W	不定形石器	V		1.67	2.95	0.93	8.2	粗粒砂岩	19176
23-480	E1	V	不定形石器	V		2.50	3.49	1.06	8.4	粗粒燧石	19214
23-481	C2	V	不定形石器	V		4.94	5.01	1.79	30.3	粗粒砂岩	19291
23-482	E1	W	不定形石器	V		3.16	2.39	0.67	5.1	粗粒燧石	18612
23-483	C1	W	不定形石器	V		5.46	4.22	2.45	77.4	粗粒燧石	18403
23-484	D2	III	不定形石器	V		3.37	2.73	0.73	6.3	粗粒燧石	18630
23-485	B1・2 NO58	III	打製石片	器-1	器用部・磨刃・全長に磨打、磨打跡磨痕	15.93	6.49	4.18	730.0	粗粒燧石	18425
23-486	B1	VI	打製石片	器-1	器用部・磨刃・全長に磨打、磨打跡磨痕	12.25	6.45	4.26	460.0	粗粒燧石	18496
第59図36	23-485	B1	V	打製石片	器-1	11.12	4.68	2.27	159.4	燧石	18356
23-486	B1	V	打製石片	器-2	11.51	5.87	2.88	260.0	燧石	18350	
23-487	E2	ベルト	VI	打製石片	器-2	11.45	5.64	3.44	260.0	燧石	18358
23-488	C2	ベルト	VI	打製石片	器-1	6.21	3.62	1.72	54.3	粗粒燧石	18342
23-489	B1	V	打製石片	器-1	8.64	5.18	2.49	193.0	燧石	18347	
23-490	B1	III	打製石片	器-1	10.63	6.45	2.39	200.0	燧石	18344	
23-491	F1	V	打製石片	器-1	10.65	5.56	2.77	186.8	燧石	18345	
第59図38	23-492	C1 NO69	III	打製石片	器-1	10.87	4.93	2.31	172.3	粗粒燧石	18349
23-493	B2	W	打製石片	器-1	11.63	4.40	2.67	148.6	燧石	18355	
23-494	A2	V	打製石片	器-1	13.17	6.32	3.49	360.0	燧石	18360	
第59図39	23-495	F1	V	打製石片	器-1	10.52	5.13	2.53	198.4	粗粒燧石	18354
第59図40	23-496	AR	III	打製石片	器-3	10.88	5.62	2.28	160.7	粗粒燧石	18346
23-497	F1	V	打製石片	器-1	69.17	9.09	2.39	131.2	粗粒砂岩	18650	
23-498	F1 西側	V	打製石片	器-1	7.02	3.22	1.41	35.8	粗粒砂岩	18335	
第59図41	23-499	B1	VI	打製石片	器-1	8.89	4.66	1.73	96.3	燧石	18340
23-500	A1	VI	打製石片	器-1	10.26	2.99	2.02	116.9	燧石	18352	
23-501	C1	IV	打製石片	器-1	11.57	6.21	3.02	300.0	燧石	18366	
23-502	E2	W	打製石片	器-1	6.44	4.16	1.44	53.7	粗粒砂岩	18337	
23-503	B1	V	打製石片	器-1	8.98	4.26	1.95	95.8	粗粒燧石	18338	
23-504	F2	W	打製石片	器-1	8.83	4.67	1.70	96.0	燧石	18341	
第59図42	24-505	A	サブレンテ	V	12.69	5.59	2.80	280.0	粗粒砂岩	18361	
24-506	AR	III	打製石片	器-1	7.70	3.98	1.24	44.6	石灰燧石	18362	
24-507	B2	V	打製石片	器-3	11.85	6.10	2.89	350.0	燧石	18359	
24-508	C2	V	打製石片	器-1	68.18	5.31	3.15	183.2	粗粒燧石	18354	
24-509	AR	III	打製石片	器-1	69.36	5.76	2.65	157.9	粗粒燧石	18351	
24-510	C1	V	打製石片	器-1	66.99	5.95	2.82	125.9	燧石	18353	
24-511	A1	V	打製石片	器-2	10.10	6.03	2.15	198.4	燧石	18357	
24-513	E1	W	打製石片	器-3	68.93	5.17	1.69	125.6	粗粒燧石	18649	
24-514	D1	W	打製石片	器-1	65.99	5.76	3.05	167.1	粗粒燧石	18672	
24-515	F2	V	打製石片	器-1	68.26	5.00	1.54	66.2	粗粒燧石	18673	
24-516	AR	III	打製石片	器-1	68.02	5.49	2.12	143.5	燧石	18673	
24-517	F2	W	打製石片	器-1	63.68	5.70	1.68	53.7	燧石	18339	
24-518	F2	W	打製石片	器-1	67.99	6.08	3.29	163.2	燧石	18343	
24-518	E3	W	打製石片	器-1	70.01	5.06	2.76	125.8	燧石	18348	
第59図43	24-519	A2	V	打製石片	器-1	60.23	6.06	2.97	197.7	粗粒燧石	18633
第59図19	24-520	D1	II	磨製石片	器-2	4.27	2.54	0.56	7.7	燧石	18313
24-521	E2	W	磨製石片	器-2	3.72	2.17	0.27	4.2	粗粒燧石	18315	
24-522	C1	II	磨製石片	器-1	65.39	3.24	2.54	56.7	燧石	18305	
24-523	AR	III	磨製石片	器-1	65.63	6.86	1.69	93.8	燧石	18306	
24-524	E2	W	磨製石片	器-1	65.76	3.77	2.15	96.3	燧石	18307	
24-525	B1 NO7	III	磨製石片	器-1	66.15	4.60	2.53	108.8	粗粒燧石	18308	
24-526	F2	W	磨製石片	器-1	63.80	4.44	2.60	173.0	燧石	18309	
24-527	A1	III	磨製石片	器-1	61.17	3.71	2.43	166.6	燧石	18310	
第58図20	24-528	A1	II	磨製石片	器-1	111.15	5.16	3.16	250.0	粗粒砂岩	18312
24-529	B2	V	磨製石片	器-1	64.78	3.96	1.31	45.7	粗粒砂岩	18314	
24-529	E1	V	磨製石片	器-1	64.78	3.96	1.31	45.7	粗粒砂岩	18314	
24-530	B2	V	磨製石片	器-1	63.34	2.60	0.41	5.0	燧石	18316	



図 号	写真図面	出土 地点	種 類	器 種	分類・備考	計量値 (cm)		重量 (g)	石 材	登録 No
						高さ	厚さ			
24-531 C1	I	IV	磨製石片	欠損品	(3.91) 2.73 1.18	26.6	瑠璃質頁岩	18366		
24-532 A2	II	磨製石片	欠損品	(5.48) 3.88 2.47	79.7	瑠璃質砂岩	18367			
24-533 C1	IV	磨製石片	破片	6.32 2.89 0.96	26.6	瑠璃質砂岩	18368			
24-534 A1	II	磨製石片	欠損品	(4.90) 3.37 1.52	53.0	砂岩	18369			
24-535 F1	V	磨製石片	表面	8.09 4.16 1.08	55.6	瑠璃質頁岩	18370			
24-536 D1	II	磨製石片	内刃・欠損品	(5.83) 4.95 3.39	103.9	レキ岩	18371			
24-537 F1	II	磨製石片	欠損品	(7.10) 4.77 3.30	163.6	凝灰岩	18372			
24-538 C2 トレンチ	II	磨製石片	欠損品	(9.81) 4.20 2.58	171.4	凝灰質砂岩	18373			
24-539 F1	V	磨製石片	欠損品	(8.56) 4.81 (1.93)	130.7	片山岩	18374			
24-540 F1・2 トレンチ	V	磨製石片 (大型)	内刃・欠損品	(5.73) 6.78 2.65	188.0	凝灰岩	18375			
24-541 表層	II	磨製石片	欠損品	(4.44) 3.85 2.04	53.0	砂岩	18420			
24-542 F1	II	磨製石片(未成器)		(6.10) 4.85 2.04	86.2	凝灰質砂岩	18395			
24-543 D3	V	磨製石片(欠損品)		(3.88) (4.07) (2.07)	42.6	レキ岩	19295			
24-544 B2	VI	磨石		(3.82) 5.32 5.00	220.0	レキ岩	18433			
24-545 E1	II	磨石		7.12 6.44 3.66	300.0	花崗岩	18435			
24-546 B2	V	磨石		17.10 6.00 7.40	1160.0	レキ岩	18443			
24-547 A2	V	磨石		15.30 6.57 3.89	680.0	花崗岩	18447			
24-548 E2	VI	磨石		(9.11) (5.02) 3.56	171.9	レキ岩	18451			
24-549 F2	IV	磨石		(9.03) 4.18 3.98	200.0	花崗岩	18452			
24-550 A1	II	磨石		4.18 5.36 5.04	154.0	花崗岩	18453			
24-551 E1	V	磨石		(7.35) 3.97 3.44	150.7	花崗岩	18454			
24-552 C1 NQ70	II	磨石		(6.94) (4.77) 4.84	210.0	花崗岩	18455			
24-553 C2	V	磨石		10.75 9.52 5.48	840.0	花崗岩	18457			
24-554 B1	V	磨石		10.41 7.94 4.45	592.4	花崗岩	18459			
24-555 B1 NQ60	II	磨石		10.29 7.56 4.76	560.0	花崗岩	18480			
24-556 E1	VI	磨石		11.43 7.80 5.57	600.0	花崗岩	18461			
24-557 F1	IV	磨石		10.61 8.42 5.40	750.0	花崗岩	18462			
24-558 E1	V	磨石		(12.91) 8.17 3.97	680.0	花崗岩	18469			
24-559 E1	II	磨石		11.12 8.62 5.34	840.0	花崗岩	18473			
24-559 E1	II	磨石		9.90 5.95 3.50	300.0	花崗岩	18474			
24-560 A2	V	磨石		12.28 5.25 4.40	440.0	花崗岩	18475			
24-562 F1	II	磨石		6.25 3.19 2.55	81.9	凝灰質砂岩	18476			
24-563 B2	II	磨石		(6.37) 5.52 3.18	175.9	砂岩	18670			
24-627 F1	II	粘板磨盤	磨石+磨石	8.74 7.70 5.93	620.0	安山岩	18436			
24-628 E1	V	粘板磨盤	磨石+磨石	(9.65) 6.24 3.49	370.0	花崗岩	18463			
24-629 F2	V	粘板磨盤	磨石+磨石	14.90 6.93 4.97	840.0	花崗岩	18652			
24-564 A1 NQ50	II	特殊磨石	18438と組合				18434			
24-565 A1K	III	特殊磨石	I-A-1	18.75 14.33 4.72	980.0	花崗岩	18438			
24-566 E1	VI	特殊磨石	I-A-1	15.90 12.00 7.44	1090.0	花崗岩	18445			
24-566 B2	VI	特殊磨石	I-A-1	15.50 6.21 4.23	620.0	レキ岩	18449			
24-567 E1	V	特殊磨石	I-A-1	14.88 6.59 4.77	720.0	花崗岩	18458			
24-568 E1	IV	特殊磨石	I-A-1	14.12 6.59 4.41	650.0	花崗岩	18465			
24-569 B1	V	特殊磨石	I-A-1	18.60 6.48 4.72	670.0	花崗岩	18470			
24-570 E1	V	特殊磨石	I-A-1	12.70 7.19 6.97	900.0	花崗岩	18663			
24-571 F2	IV	特殊磨石	I-A-1-a	(7.68) 6.65 4.64	240.0	花崗岩	18464			
24-572 A1 NQ55	III	特殊磨石	I-A-1-a	(9.01) 8.15 5.81	570.0	花崗岩	18654			
24-573 A2	V	特殊磨石	I-A-1-b	(12.41) 5.25 7.65	600.0	玄武岩	18444			
24-574 F2	V	特殊磨石	I-A-1-b	12.40 6.52 6.20	670.0	花崗岩	18657			
24-575 C2	V	特殊磨石	I-A-1-b	(10.01) 7.32 5.43	500.0	花崗岩	18651			
24-576 A2	V	特殊磨石	I-A-1-c	(13.39) 5.84 7.44	700.0	花崗岩	18440			
24-577 C1	IV	特殊磨石	I-A-1-c	(4.66) 8.45 5.92	380.0	花崗岩	18450			
24-578 E1	V	特殊磨石	I-A-1-c	(11.73) 6.95 6.48	680.0	花崗岩	18662			
24-579 F1	V	特殊磨石	I-A-1-e	(12.65) 6.54 4.42	590.0	花崗岩	18655			
24-580 D2	II	特殊磨石	I-A-2	15.14 5.86 7.49	880.0	花崗岩	18441			
24-581 E1	II	特殊磨石	I-A-2	(6.97) 7.09 5.21	370.0	砂岩	18437			
24-582 表層	II	特殊磨石	I-A-2-b	(4.70) 8.57 4.51	750.0	花崗岩	18446			
24-583 C2・3 ヘルム	IV	特殊磨石	I-A-3-b	(12.27) 5.71 5.41	560.0	花崗岩	18430			
24-584 表層	II	特殊磨石	I-C-1-e	(11.80) 5.50 5.64	450.0	花崗岩	18440			
24-585 F1	II	特殊磨石	I-D-1-a	(7.19) 6.07 3.80	181.2	レキ岩	18668			
24-586 B1	III	特殊磨石	I-D-3-b	12.06 7.70 5.36	700.0	花崗岩	18467			
24-587 F1 トレンチ	II	特殊磨石	II-A-1	13.10 6.59 5.95	790.0	花崗岩	18472			
24-588 E2	II	特殊磨石	II-A-1	11.91 7.55 4.43	720.0	花崗岩	18651			
24-589 E1 西壁	V	特殊磨石	II-A-1	13.70 7.08 5.48	720.0	花崗岩	18653			
24-590 F1	VI	特殊磨石	II-A-1	14.45 7.74 6.20	780.0	花崗岩	18659			
24-591 B1	III	特殊磨石	II-A-1-a	(6.96) 5.79 4.17	196.3	花崗岩	18330			
24-592 D2	V	特殊磨石	II-A-1-a	(8.04) 6.99 5.42	370.0	花崗岩	18466			
24-593 E1	V	特殊磨石	II-A-1-b	11.344 6.51 7.09	720.0	花崗岩	18439			
24-594 E1	V	特殊磨石	II-A-1-b	(10.84) 4.18 5.41	350.0	花崗岩	18442			
24-595 E1	V	特殊磨石	II-A-1-d	(8.21) 15.43 (4.75)	600.0	花崗岩	18629			
24-596 C2	V	特殊磨石	II-A-4	12.53 6.61 5.18	560.0	花崗岩	18664			
24-597 F1	IV	特殊磨石	II-A-4	9.69 6.39 3.26	330.0	花崗岩	18495			
24-598 F1	IV	特殊磨石	II-A-4	12.91 8.67 5.50	880.0	花崗岩	18471			
24-599 A2	V	特殊磨石	II-A-4	10.96 6.20 3.95	400.0	花崗岩	18666			
24-600 D2	V	特殊磨石	II-A-1-b	(5.20) 7.48 5.47	360.0	花崗岩	18456			
24-601 E2	VI	特殊磨石	II-B-1	15.70 9.12 6.60	1470.0	花崗岩	18426			
24-602 F2	VI	特殊磨石	II-B-1	8.86 12.67 5.27	840.0	花崗岩	18428			
24-603 F2	IV	磨石	2磨盤	7.96 5.41 2.01	138.6	凝灰質砂岩	18317			
24-604 F2	V	磨石	1磨盤	(5.29) 3.36 2.02	61.3	レキ岩	18318			
24-605 D2	V	磨石	2磨盤	(6.50) 2.79 1.50	42.4	凝灰質砂岩	18319			
24-606 E1	II	磨石	2磨盤	(6.29) 3.31 1.99	74.2	凝灰質砂岩	18320			
24-607 A表 サブトレ	II	磨石	1磨盤・1直線	(7.58) 5.65 2.43	178.4	凝灰質砂岩	18321			
24-608 B2	II	磨石	2磨盤磨削磨盤	8.91 5.84 2.29	172.8	頁岩	18322			
24-609 E2	V	磨石	1直線	(8.88) 3.36 2.33	124.2	凝灰質砂岩	18323			
24-610 F1・2 トレンチ	II	磨石	1直線・1直線	(8.57) 3.37 2.23	82.2	凝灰質砂岩	18324			
24-611 A1	II	磨石	磨石+特殊磨石・2磨盤磨削磨盤	(5.18) 3.85 (1.90)	61.2	凝灰質砂岩	18325			
24-612 A1K	III	磨石	2磨盤磨削磨盤	7.17 3.05 1.74	74.2	凝灰質砂岩	18329			
24-613 A2	II	磨石	欠損・1磨盤	(6.15) 8.78 1.54	65.6	片山岩	18334			
24-614 E1	II	磨石	1磨盤	6.78 4.84 2.26	121.6	安山岩	18390			
24-615 A2	II	磨石	欠損	(7.25) 7.04 3.52	230.0	玄武岩	18397			

図 号	写真図録	出土地点	種	品 種	分期・備考	計量値 (cm)			重量 (g)	石 材	登録 No
						長さ	幅	厚さ			
25-616	A2	A1	V	磨石	19628と結合・共通1部、1薄層1部	14.20	5.50	4.06	460.9	磨粒砂岩	18398
	A1		磨石								18623
25-617	A3		磨石	2薄層		12.54	6.38	2.66	300.0	磨粒砂岩	18399
25-618	E1		V	ほぼ全面磨粒砂岩		14.42	7.53	2.20	330.0	レキ岩	18400
25-619	B1 NO26		磨石	尖鋭・稜角ハシラ (自然石の可能性有)	(E89)	7.66	4.83	3.00	370.0	レキ岩	18401
25-620	(C2) トレンチ		磨石	1部打撃痕		17.00	4.75	2.89	350.0	磨粒砂岩	18402
25-621	F1		磨石	磨製石押転用品		10.45	6.80	2.69	230.0	磨粒砂岩	18404
25-622	A2		磨石			9.46	4.46	3.07	210.0	宝山岩	18432
25-623	F1		V	磨石		12.44	8.36	6.90	1140.0	花崗岩	18958
25-624	E1		V	磨石		9.34	6.72	4.52	460.0	花崗岩	18959
25-630	E1		V	磨石	1面：磨1	(5.34)	6.52	1.98	84.7	レキ岩	18427
第59図45	25-631	E2	V	磨石	2面：磨1	6.15	2.60	20.50	250.0	花崗岩	18428
	25-632	A1 NO47	磨石	1面：磨1 風化激しい		10.01	(6.43)	4.85	600.0	花崗岩	18429
25-633	A1 NO48		磨石	1面：磨1	(7.47)	11.37	4.21	520.0	花崗岩	18629	
25-634	E2		V	磨石	1面：磨1	8.68	8.02	5.96	580.0	花崗岩	18960
第59図44	25-635	F1・2 トレンチ		磨石	1面：磨1・1面：磨1・磨2	8.92	6.21	4.54	400.0	花崗岩	18667
第59図46	25-636	B2	V	石皿		(6.96)	7.62	3.40	250.0	花崗岩	18331
	25-637	E2	V	磨石皿		9.60	7.33	1.84	165.8	磨粒砂岩	18407
25-638	E1		V	磨石		10.98	3.91	2.14	134.9	磨粒砂岩	18408
25-639	E2		V	磨石		8.60	3.54	1.93	97.3	磨粒砂岩	18494
第59図23	25-640	E2	V	石棒		(13.21)	3.86	2.64	210.0	磨粒砂岩	18423
25-641	F1		石棒		(8.80)	3.96	2.00	120.0	磨粒砂岩	18328	
25-642	E2		磨石		(3.53)	4.58	(3.45)	192.4	磨粒砂岩	18424	
第59図22	25-643	B1 NO66	磨石			(12.04)	11.21	7.56	1640.0	宝山岩	18832
25-644	E1		石棒?			(3.62)	3.42	(1.76)	30.9	頁岩質岩	18671
第59図48	25-645	F2	石刀			(10.41)	2.13	0.96	34.7	頁岩	18327
	25-646	D2	V	石刀未満品		(22.30)	5.52	1.75	37.2	磨粒砂岩	18416
25-647	D2	V	石剣			(6.21)	2.10	(8.20)	12.5	頁岩砂岩	18326
25-648	F1・2 トレンチ		石剣			(22.70)	5.47	1.72	240.0	磨粒砂岩	18496
25-649	F1		V	石製未成品		9.52	3.18	1.65	48.7	磨粒砂岩	18431
25-650	E2		石製未成品?	1部磨石		6.21	3.13	1.54	50.7	磨粒砂岩	18634
第59図24	25-651	F1	磨石	両面、中央に貫通孔、穴縁品		3.77	2.59	1.04	1.1	磨粒砂岩	18757
第59図25	25-652	D2	V	石製品 (浮子?)		(5.86)	3.47	1.77	1.6	磨石	18758
第59図26	25-653	E1	V	けづけ器磨り	内形	3.69	(1.81)	0.58	5.7	磨石	18746
第59図27	25-654	E2	V	けづけ器磨り	横内形	4.45	(2.19)	0.62	6.8	磨粒砂岩	18747
第59図28	25-655	F1	V	けづけ器磨り	内形	2.94	(1.89)	0.35	3.6	磨粒砂岩	18748
第59図29	25-656	E1	V	けづけ器磨り	磨石方形?	4.45	(2.51)	0.59	12.9	磨石	18749
第59図30	25-657	E2	V	けづけ器磨り	内形・縦横孔有	3.02	(1.64)	0.60	4.2	磨石	18750
第59図31	25-658	A2	磨石	内形		3.99	(2.34)	0.49	6.9	頁岩	18751
第59図32	25-659	A2 NO72	磨石	横内形		1.94	1.10	0.21	1.0	カンラン岩	18752
第59図33	25-660	A1 NO43	磨石	碧玉状		4.58	1.52	(0.64)	7.3	碧玉	18753
第59図34	25-661	D1 NO66	磨石			6.82	3.02	0.47	13.4	磨石	18754
第59図35	25-663	A1 NO42	磨石	針状		8.80	0.90	0.54	8.4	カンラン岩	18755

## VI 考察とまとめ

### 1 遺構

今回の発掘調査は、遺跡の西側の緩斜面の裾の、幾分平坦になった部分 176㎡を行った。発掘区の南側と北側は湧水が流れ、発掘時においては、写真図版 1 に見るように、発掘区のほぼ半分、D1・D2・D3・E1・E2・F1・F2 グリットにおいて、花崗岩の岩盤上に大型の花崗岩礫が重なり合うような状況で検出された。そのため、もともと遺構の立地しがたい場所であったと思われる、検出した遺構は、A1・A2・B1・C1 グリットから縄文時代のもと思われる土坑 5 基・焼土遺構 2 基・埋設土器 1 基と、遺構は少ない。

土坑は、大型土坑 2 基、小型土坑 3 基である。大型土坑は、断面形が直壁状のもの 1 基とフラスコ状のもの 1 基であり、埋土中の出土遺物から時期的には大木 6 式から大木 7a 式期のものと思われる。

焼土遺構は、周辺から炭化物は検出されず、投棄されたものと思われる。

埋設土器は、口縁部・底部を欠いており時期不明である。

さて、花崗岩礫が多量に検出された遺跡は広田半島では他にも見られ、瀬沢貝塚・雲南遺跡の発掘の際にも検出している。瀬沢貝塚においては、花崗岩礫帯より検出した遺構は埋設土器 1 基のみであった。(注 1) この花崗岩礫の形成の時期は不明であるが、瀬沢貝塚の発掘例では、本遺跡の第 I 群土器に相当する土器が、花崗岩礫の隙間から出土している。花崗岩礫の成立は、水・風等による花崗岩塊の浸食により成分の硬い部分のみが残ったことによるものと思われる。その成立は縄文時代前期初頭以前の可能性がある。しかし、局地的なものであるか広域的なものであるか、旧石器時代から縄文時代への変遷過程における気候変動によるものなのか、花崗岩礫帯の成立原因及び時期等不明で、今後の研究が待たれる。

注 1 陸前高田市教育委員会 「瀬沢貝塚発掘調査報告書」「陸前高田市内遺跡発掘調査報告書 3」陸前高田市文化財調査報告書第 23 号

### 2 土器

#### 第 I 群

本群は、縄文前期に属するもので大木 1・2b・4・5 式のものである。大木 4・5 式は、出土数は多かったが、他の型式のものは少ない。

第 1 類は大木 1 式に相当するもので、胎土に植物繊維を含むものである。

A は、結節を有する羽状縄文を施文するもので、原体はすべて前々段多条であった。

B は、結節の無い羽状縄文を施文するもので、原体は、ほとんどが前々段多条であるが、74 のように前々段多条と直前段半燃のものもある。

C は、ループ文を有するものである。ループ文は、横位に三段から八段まで施文されるものが見られ、77 のように斜めに施文されるものもあり、陸前高田市友沼 III 遺跡 (注 2)・小堀内 I 遺跡 (注 3) に類例がある。

D は、斜縄文を施文するものである。単節斜縄文によるもの、前々段多条・組紐と思われるものがある。

E は撚糸文を有するもので、大木 2a 式の可能性もある。

第 2 類は、大木 2b 式に相当すると思われるもので、S 字状連鎖沈文を有するものである。

第3類は、胎土に植物繊維を含むが、型式不明のものである。

第4類は、大木4式・5式に相当するものである。

Aは、大木4式に相当すると思われるもので、細い粘土紐による小波状・「の」の字状・弧状の貼付文を有するものである。

Bは、大木5式に相当すると思われるもので、細い粘土紐や沈線による連続山形文や鋸歯状装飾帯を有するものである。大木5式は、5a式・5b式に細分が可能である。袖野遺跡においては、5a式のもの为主であるが、136・144・146・147のように大木5b式と思われるものも混在する。

Cは、大木4式・5式と思われるもので、細い粘土紐による梯子状貼付文・格子状貼付文を有するものである。

## 第II群

縄文時代前期末から中期初頃にかけての、大木6式・7a式・7b式と思われるもので、大木7a式は出土点数が非常に多く、発掘資料の中心をなすものである。

第1類は、大木6式に相当すると思われるものである。

Aは、球胴形の深鉢である。胴部文様帯を有するものと、持たないものがある。胴部文様帯は、胴部上半部に集中し、横位沈線によって胴下半部と区画され、胴下半部には斜縄文が施文される。胴部文様帯の文様は、縦位の弧状沈線と緩やかに斜めに下がり先端が渦巻き状をなすものが多いが、3のように円文・波状沈線・横位沈線・刺突文列を有するものもある。口唇には、数個単位の台形状の突起を有するものがあり、突起に刻みを施すもの、ソーマン状の貼付文を有するもの等がある。口縁部には、3のように沈線と刺突文列によつての文様、4～6のように沈線と貼付文による文様構成のものがある。本類は、鳩岡崎遺跡第3群1類bに類例を見ることが出来る。

Bは、長胴形深鉢で胴部文様帯を有するものである。胴部文様帯は、胴上半部のみに文様帯を持つものと、胴下半部まで文様帯が展開するものがある。胴上半部のみに文様帯を持つものは、横位沈線・山形沈線が施文されている。胴下半部まで、文様帯が展開するものは、11のように2条単位の横位沈線と沈線間への半截竹管による押し引きが施されるもの、縦位・横位・弧状の沈線からなる対角線文を有するものがある。口唇には、突起を有するものがあり、9のように連続する弧状の突起を有するものもある。口縁部には、沈線と貼付文の組み合わせによる文様を有するが、173のように沈線のみのもので、11のように斜縄文施文後に縦位の貼付文を貼付するものも見られる。11は、大木7a式の可能性もある。本類は、長根貝塚第一群第一類・鳩岡崎遺跡第3群2類aに類例を見ることが出来る。

Cは、長胴形深鉢で、口縁部のみに文様を有するものである。口唇に突起を有するものは見られず、口縁部の文様は、沈線主体で、沈線による渦巻き文・円文・縦位弧状沈線・山形沈線を有しており、12では刺突文列を有する。本類は、長根貝塚第二群第一類・鳩岡崎遺跡第3群3類に類例を見ることが出来る。

第2類は、大木7a式に相当すると思われるもので、出土土器の中心をなすものである。

Aは球胴形深鉢で胴部文様帯を有する。胴部文様帯は、胴上半部に集中し、胴下半部と沈線によって区画するもの(13・14)、区画しないもの(15・16)がある。胴部文様は、15のよう

に沈線による単純な文様も見られるが、沈線・集合沈線により複雑化した文様も見られる。胴下半部には、結節回転縄文・結節羽状縄文を施文するものが多く見られる。口縁部の文様は、貼付文・細い粘土紐の貼付による浮線文・沈線・集合沈線・三角形印刻文等の組み合わせによって複雑化している。長根貝塚第三群第六類に類例を見ることが出来る。

Bは、球胴形深鉢で胴部文様帯を持たないものである。口縁は、平縁・山形口縁のものがみられ、山形口縁のものは、頂部下に縦位の貼付文を有するものが多く見られ、194のように複雑化した貼付文を有するものもある。口縁部には、沈線・三角形印刻文・刺突文等によって文様が意匠されているが、19・22のように原体施文のみのものもある。胴部には、縦位の回転羽状縄文・結節回転縄文が施文されるものが多い。

Cは、長胴形の深鉢で、器形が胴部で膨れ頸部が締め、口縁部が開くもので、胴部文様帯を有するものである。口縁部文様帯及び胴部文様帯は、斜縄文施文後に沈線によって文様を意匠するものや、貼付文・隆起線・沈線・集合沈線・三角形印刻文・半截竹管による押し引き等の組み合わせによって文様を意匠するものがある。

Dは、長胴形の深鉢で、器形が胴部で膨れ頸部が締め、口縁部が開くもので、胴部文様帯を持たないものである。口唇には、突起を持つものが多く見られ、突起下の口縁部には刻みの施された縦位の貼付文を有するものが多い。口縁部には、平行沈線・渦巻き文・波状沈線・刺突等による文様を有するものも見られるが、斜縄文や横位の回転羽状縄文のみのものもある。胴部には、縦位の結節羽状縄文・結節回転縄文が施文されるものが多く見られるが、斜縄文・綾線文が施文されるものもある。鳩岡崎遺跡第4群2類Cに類例を見ることが出来る。

Eは、長胴形の深鉢で、器形が口縁部から胴部にかけて直線的に立ち上がるもの、及び胴部が直線的に立ち上がり、頸部で屈折し口縁部が開くもので、区画された口縁部文様帯を有するものである。口縁は平縁をなすものが多く見られ、口唇に突起を有するものがある。頸部には横位の刻みの施された隆起線が巡り、胴部と区画するものが多い。口縁部には、横位沈線・波状沈線・渦巻き文・集合沈線文が描かれている。F・Gは割愛する。Hは、斜縄文施文後に、幅の狭い半截竹管による縦位沈線・弧状沈線・縦長の渦巻き文と、半截竹管によって縁取られた縦長の幅広い「 $\cap$ 」状の凹みを4単位有している。このような文様構成は他には見られず、搬入品の可能性のあるものである。

第3類は、大木7b式に相当すると思われるものである。

Aは、球胴形の深鉢で、口縁部には斜縄文と貼付文を有している。口縁部と胴部の境が不明瞭なもの、段によって胴部と区画するものがある。

Bは、長胴形の深鉢で、器形が頸部で締め口縁部が開くもののうち、口縁部文様帯・胴部文様帯を有するものである。口縁部には沈線による円文と区画文を有し、Aと同様、段によって胴部と区画している。

Cは、長胴形の深鉢で、器形が頸部で締め口縁部が開くもので、口縁部に縦位の貼付文を有し、胴部文様帯を持たないものである。口縁は、平縁・山形口縁がある。口唇の内面・外面に隆起線を有するものが多い。口縁部には、斜縄文や横位結節縄文・撚糸文を施文後に、縦位の貼付文や「Y」字状貼付文・「U」字状貼付文・「 $\cap$ 」字状貼付文が貼付される。貼付文には、斜縄文が施文されるものが多い。口縁部と胴部は、段によって区画されるもの、隆起線によって区画されるものがある。胴部には斜縄文が施文されるものが多く見られるが、縦位の結節回

転縄文・結節羽状縄文のものもある。

Dは、長胴形の深鉢で、器形が、口縁部から胴部にかけて直線的に立ち上がるものである。口唇外面に幅の広い隆起線を有し、口縁部には、回転羽状縄文を施文後に、縦位の貼付文が貼付され、貼付文上には刻みが施されている。口縁部と胴部の境は、刻みを有する横位の隆起線で区画されている。胴部には、縦位・横位の結節羽状縄文が施文される。Eは、長胴形の深鉢で、器形が、胴部が直線的に立ち上がり、頸部で屈折し、口縁部が大きく開くものである。Fは、長胴形の深鉢で原体側面圧痕文による文様を有するものである。

### 第Ⅲ群

縄文時代中期中葉から中期後葉の、大木8a式から大木9式に相当すると思われるものである。出土点数は少ない。第1類は大木8a式、第2類は大木8b式、第3類は大木9式に相当すると思われるものである。

### 第Ⅳ群

縄文時代後期中葉から後期後葉と思われるものである。ほとんどの資料が細片である。第1類は文様が磨消縄文によるもの、第2類は充填縄文を有するもの、第3類は入組文を有するもの、第4類は口縁部に数条の横位平行を有し平行沈線間に瘤状貼付文や刺突文・刻みが充填されるもの、第5類は口縁部に横位の弧状沈線を有するものである。

### 第Ⅴ群

縄文時代晩期のものと思われるものである。出土点数は3点と少ない。

注2 陸前高田市教育委員会 1990 「友沼Ⅲ遺跡」陸前高田市文化財調査報告

注3 (財)岩手県埋蔵文化財センター 1983 「小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第52集

## 3 石器

袖野Ⅰ遺跡より出土した石器は、681点であった。袖野Ⅰ遺跡を特徴づける石器として、打製石斧未成品型スクレイパーがあげられる。同様の石器が、力持遺跡では「力持型スクレイパー」として名称されているが、今まで打製石斧未製品として分類していた経緯を考え、当遺跡では「打製石斧未成品型スクレイパー」と名称することとした。

力持遺跡では「打製石斧未成品型スクレイパー」と同様の石器「力持型スクレイパー」が77点報告されている。当遺跡ではその半分の34点の出土量であったが、発掘面積が力持遺跡では6000㎡をこえ、当遺跡では200㎡以下であることから異様な出土量であるといえる。

片面のほぼ全面に母岩とした自然面を残し、剥離面の周縁に刃部を形成した。形状が楕円形もしくは長方形に整形されている。打製石斧としては刃部が未熟で、側縁に摩滅痕などの使用痕があり、スクレイパーとしての使用が確認できるものもある。自然面側にも剥離があり両刃になっているものも多い。側縁の刃部を利用しやすいように(握りやすく)刃つぶしされているものもある。

当遺跡から一定の出土量によって、三陸海岸南部地域においても片面に自然面を残す打

製石斧的な石器が分布していることが判明された。石器と共伴した土器が前期末から中期初頭で主体が大木6～7式土器であることから、この時期に隆盛した石器である可能性が高い。

「力持遺跡発掘調査報告書」によると、「従来から宮古市を中心に三陸沿岸北部地に出土が確認され、地理的な立地を考慮すると、用途は海産系の生業に関連することが想起される。」とあり、三陸沿岸南部の大船渡市での出土例（打製石斧未製品として分類）も報告されている。当遺跡においても、主体とする縄文前期には海にごく近い場所で生活していたと思われ、海産系の生業に使用されたことは十分考えられる。

全体の形状から、石筥や打製石斧未成品にも判断できるが、製造工程と形状がほぼ同じであり一定の出土量があることから、当遺跡では定型石器（スクレイパー）として製造されたものであろう。

以上のことから、三陸海岸北部から南部にかけて広範囲に分布する石器といえるのではないだろうか。今まで、市内の遺跡から一定量の出土がなかったため、打製石斧未成品（未製品）として報告したことを付記しておく。また、今後の「打製石斧未成品型スクレイパー」研究において当遺跡の石器が参考になれば幸いである。

#### 引用参考文献

- (財)岩手県埋蔵文化財センター 1983 「小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書」『田老大規模年金保養基地関連遺跡発掘調査』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第52集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 「間館Ⅰ遺跡発掘調査報告書」『土地改良総合整備事業寺田地区関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第156号
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 「上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書」『新盛岡競馬建設関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第177号
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 「煤孫遺跡発掘調査報告書」『東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第196号
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「館遺跡発掘調査報告書」『国道397号道路整備事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第432号
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「宝性寺跡発掘調査報告書」『ふるさと農道緊急整備事業根岸地区関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第441号
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書」『公共下水道整備（代行）事業に伴う発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第452号
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 「力持遺跡発掘調査報告書」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
- 岩手県教育委員会 1982 「江釣子村嶋岡崎遺跡 遺物・要約・分析鑑定結果編」『東北縦貫自動

車道関係埋蔵文化財調査報告書XV-2」岩手県文化財調査報告書第70集

- 北上市教育委員会 1983 「滝の沢遺跡(1977～1982年度調査)北上市文化財調査報告第33集
- 北上市教育委員会 1990 「滝の沢遺跡II(1989年度調査)北上市文化財調査報告第60集
- 北上市教育委員会 1991 「滝の沢遺跡III(1984・86・87・88・90年度調査)北上市文化財調査報告第63集
- 遠野市教育委員会 2002 「新田II遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書13集
- 宮城県教育委員会 1969 「長根貝塚」埋蔵文化財緊急発掘調査概報」宮城県文化財調査報告書第19集
- 宮城県教育委員会 1987 「小梁川遺跡」「七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書III」宮城県文化財調査報告書第122号
- 稲野彰子 1991 「大木式土器にみられる球形形深鉢について」北上市立博物館研究報告第8号
- 今村啓爾 2006 「大木6式土器の諸系統と変遷過程」東京大学考古学研究室研究紀要第20号
- 興野義一 1967 「大木式土器理解のために(I)」『考古学ジャーナル』13 ニューサイエンス社
- 興野義一 1968 「大木式土器理解のために(II)」『考古学ジャーナル』16 ニューサイエンス社
- 興野義一 1968 「大木式土器理解のために(III)」『考古学ジャーナル』18 ニューサイエンス社
- 興野義一 1968 「大木式土器理解のために(IV)」『考古学ジャーナル』24 ニューサイエンス社
- 興野義一 1969 「大木式土器理解のために(V)」『考古学ジャーナル』32 ニューサイエンス社
- 興野義一 1970 「大木式土器理解のために(VI)」『考古学ジャーナル』48 ニューサイエンス社
- 須原 拓 2005 「大木7a式土器にみられる集合沈線文系土器について」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要IV
- 須原 拓 2009 「大木7a式土器にみられる地域性」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要XVII
- 千葉正彦 2007 「和賀川上・中流域における大木6式土器」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要XXVI
- 丹羽 茂 1989 「中期大木式土器様式」『縄文土器大観』1 小学館



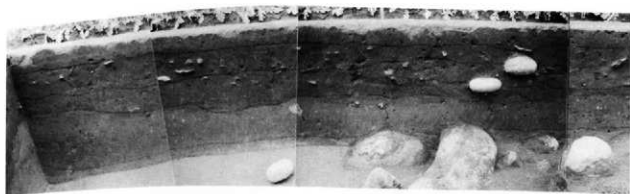
写 真 图 版



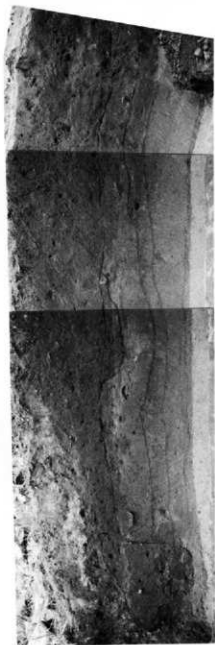
調査区遺景



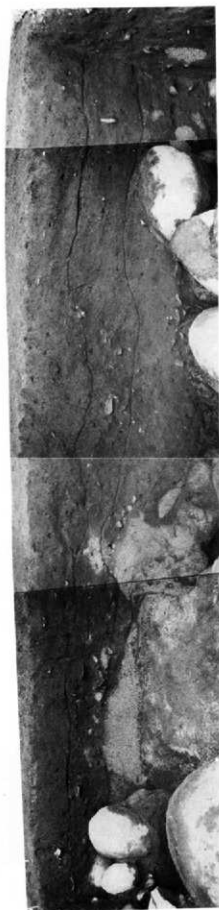
調査区完備状況  
写真図版1



写真図版2 A1～F1西壁セクション



A1~3 断面セクション

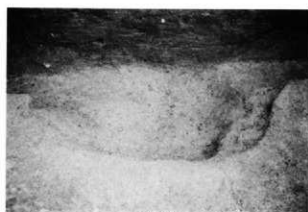


F1~2 断面セクション

写真図版3



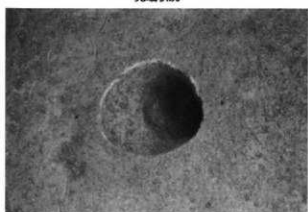
A1-1土坑検出状況



完掘状況



A2-1土坑土層断面



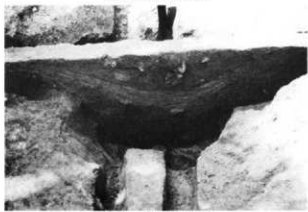
完掘状況



A2-2土坑検出状況



完掘状況



B1-1土坑土層断面



完掘状況

写真図版4



C1-1土坑土层断面



完壙状況



B2-1焼土遺構土層断面



C1-1焼土遺構土層断面



C1-1埋設土器検出状況



埋設状況

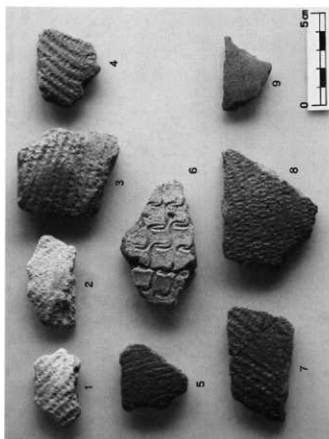
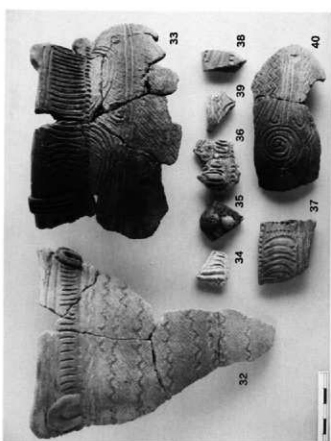
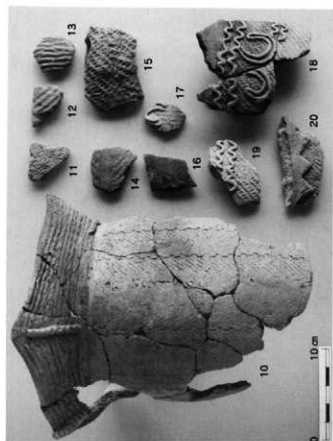


土層断面

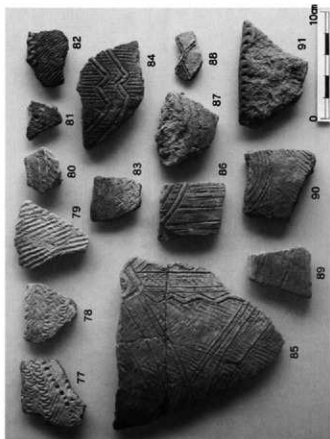
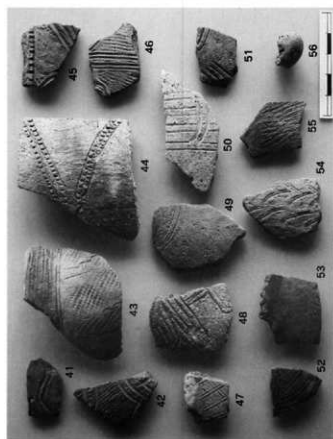
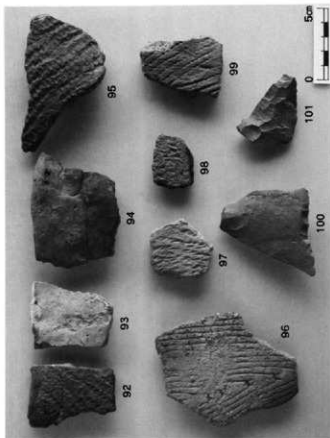
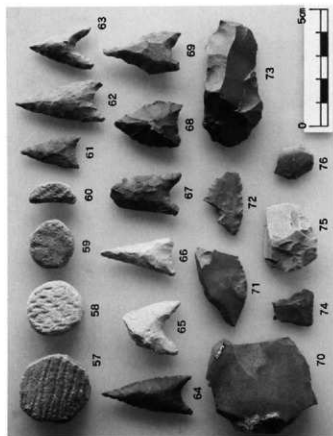


完壙状況

写真図版5

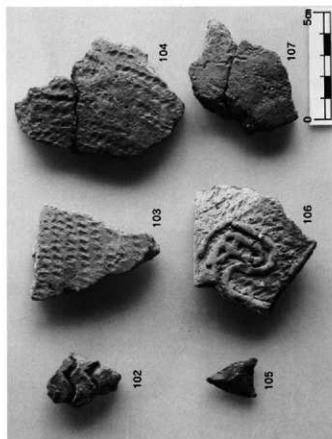
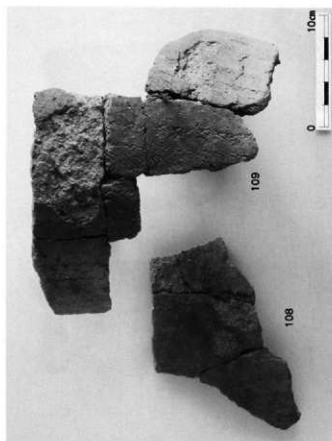


写真図版 6 遺構内出土遺物

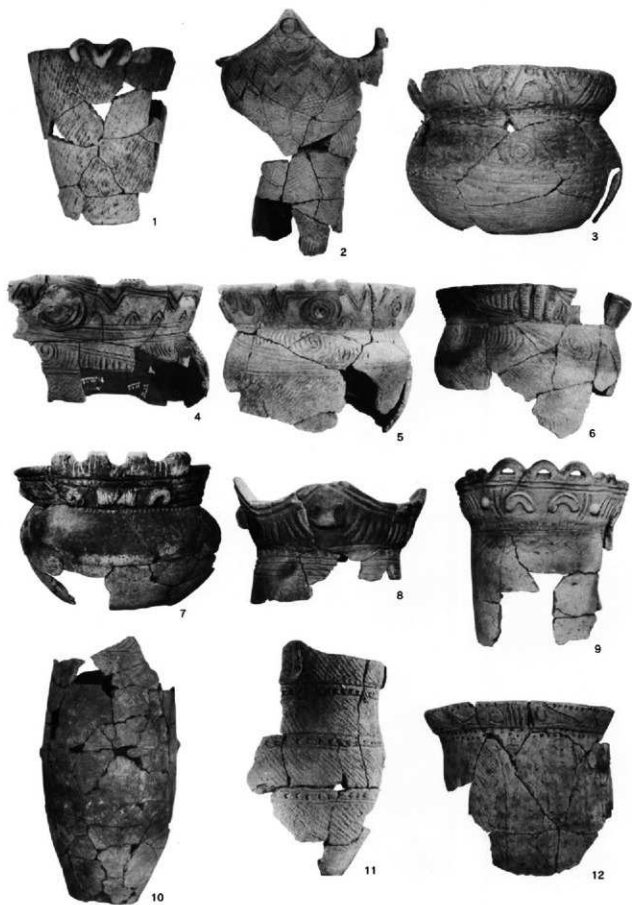


写真図版7 遺構内出土遺物

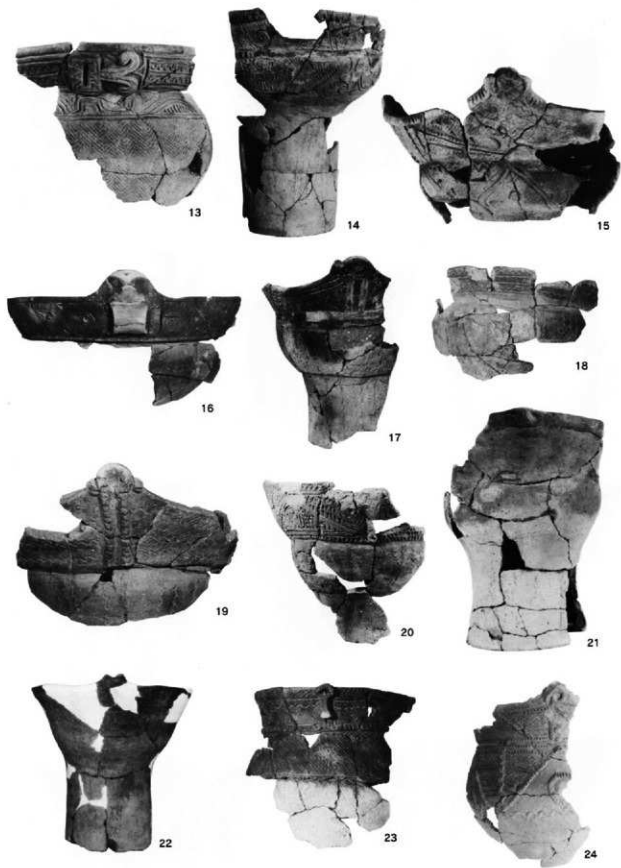




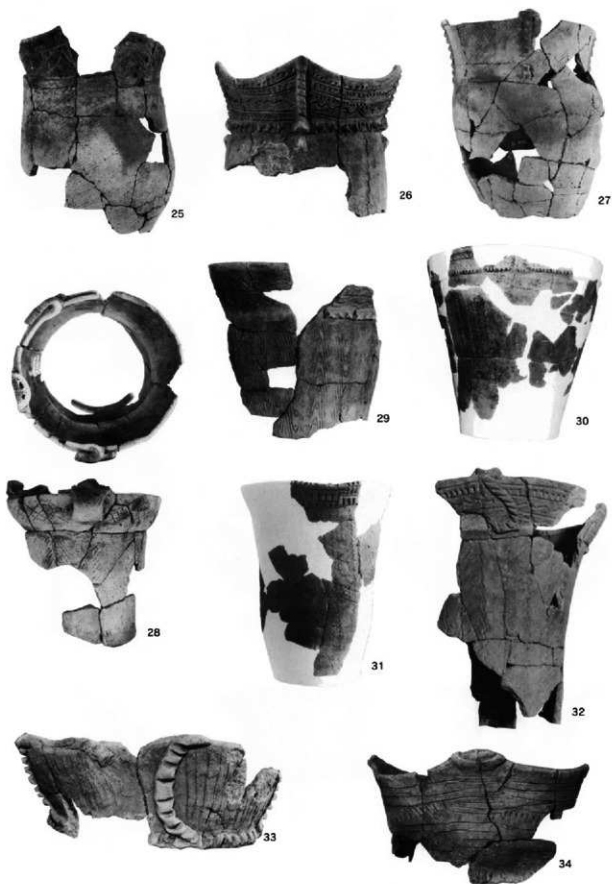
写真図版B 遺構内出土遺物



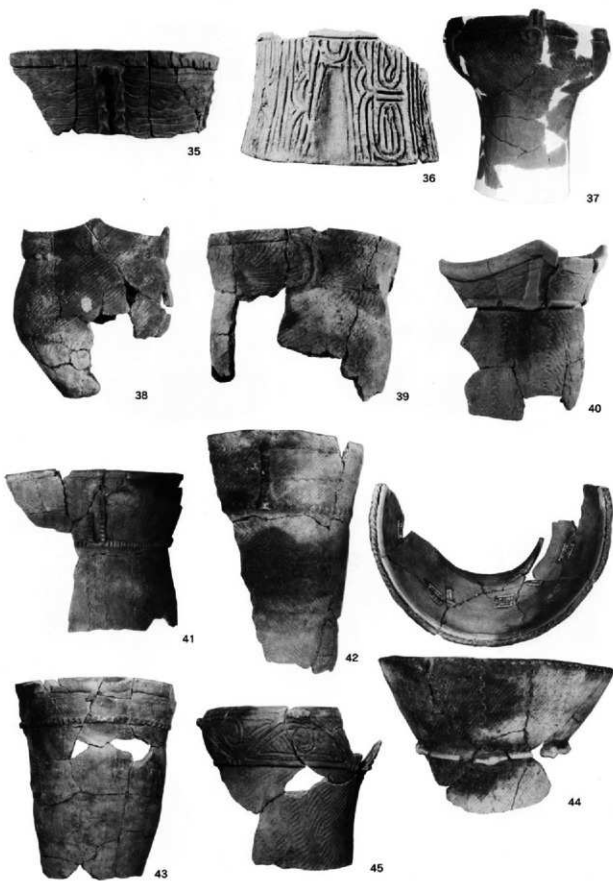
写真図版9 遺構外出土土器



写真図版10 遺構外出土土器



写真図版11 遺構外出土土器



写真図版12 遺構外出土土器



46



47



48



49



50



51

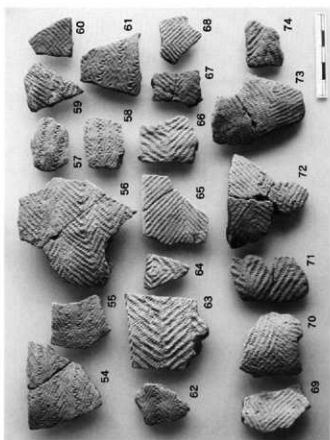
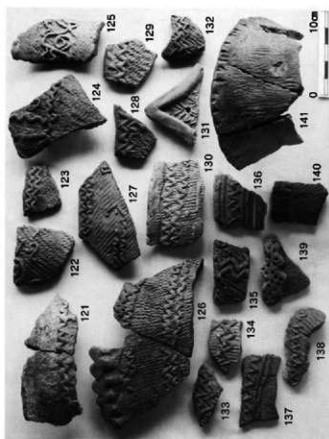
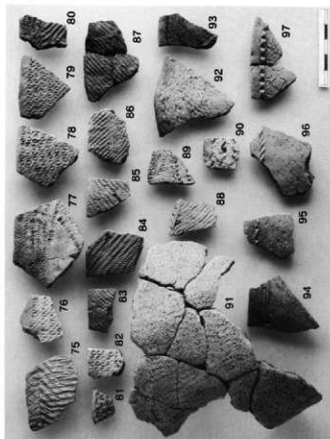


52

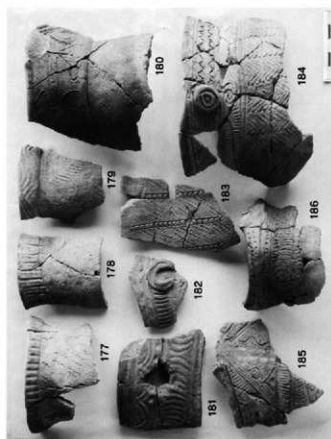
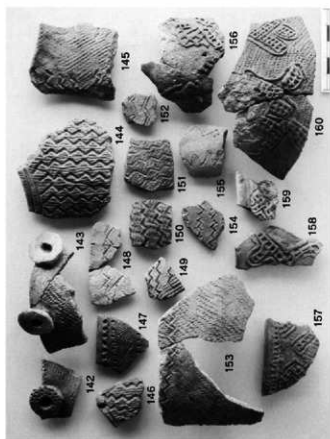
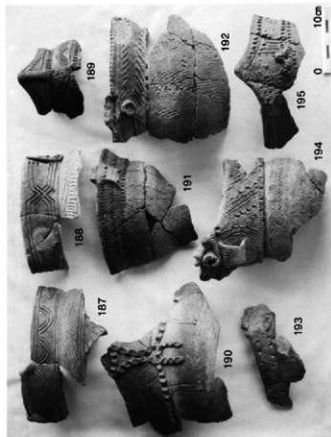


53

写真図版13 遺構外出土土器

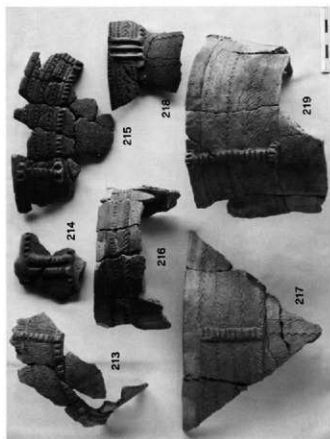


写真図版 14 遺構外出土器

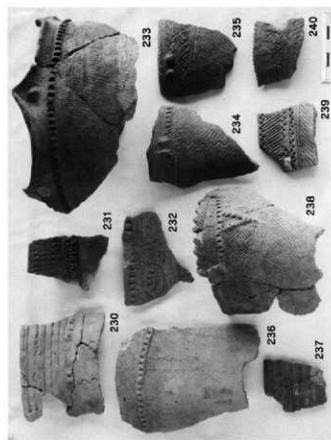
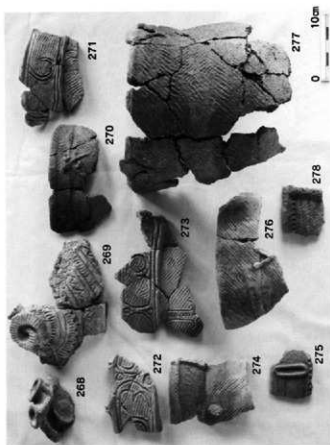


写真図版 15 遺構外出土土器

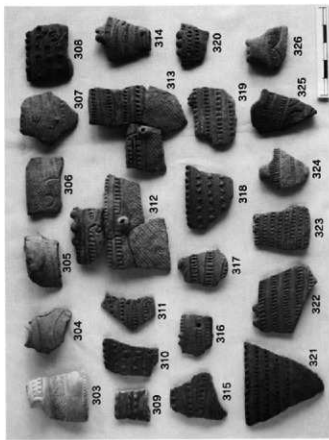
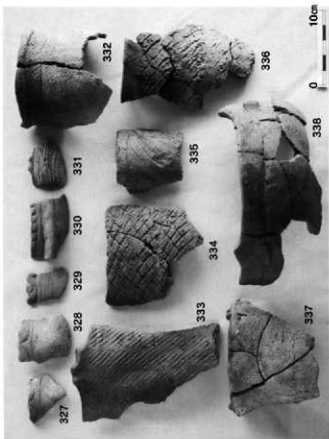
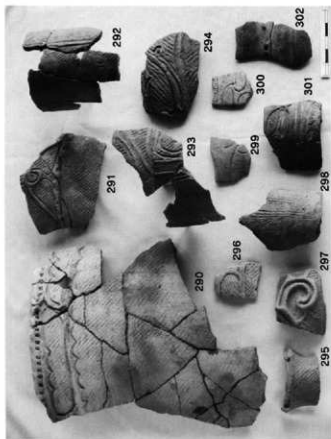




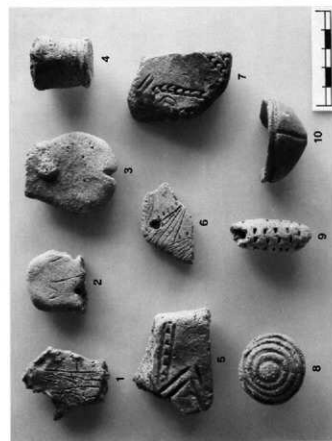
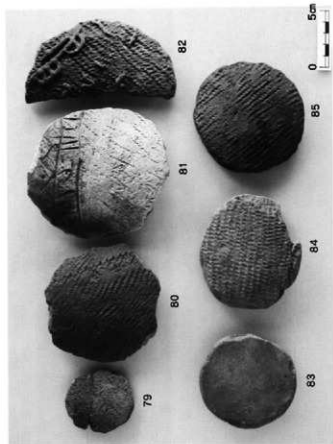
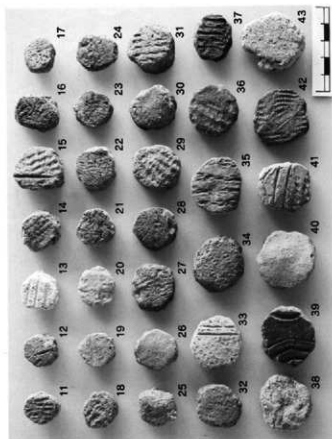
写真図版 16 遺構外出土土器



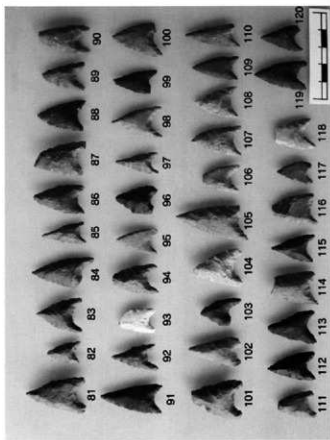
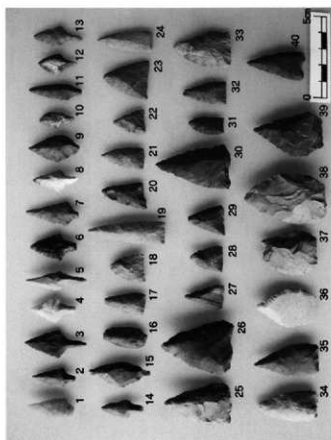
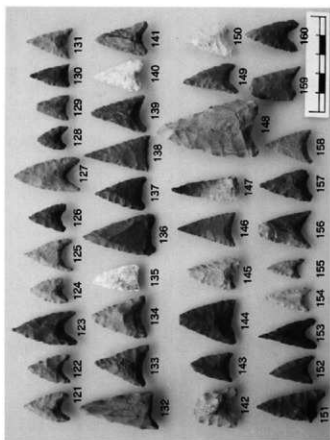
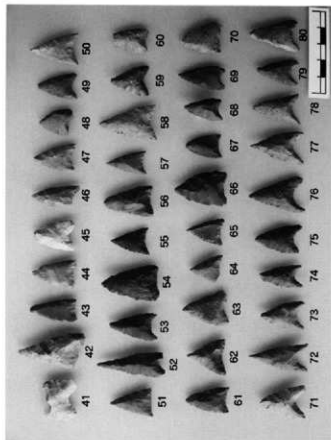
写真図版 17 遺構外出土土器



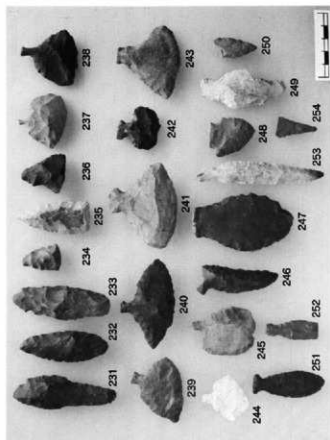
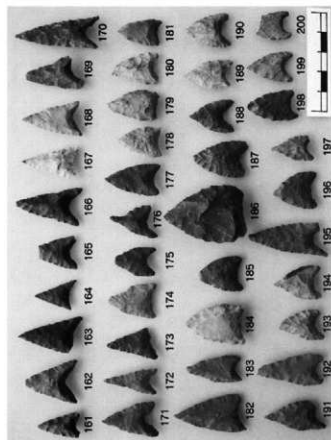
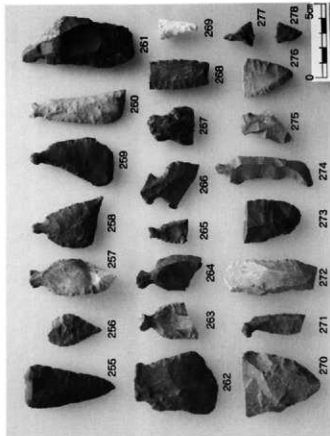
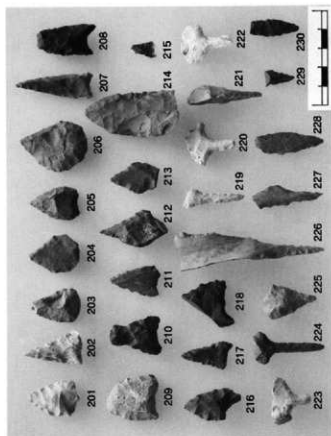
写真図版 18 遺構外出土土器



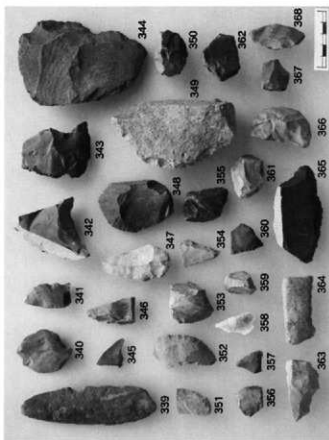
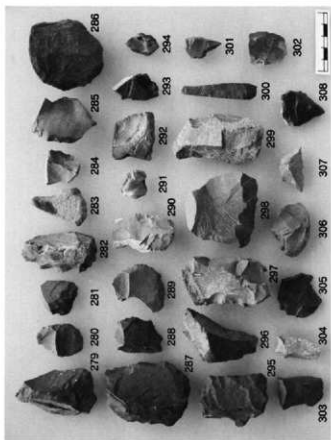
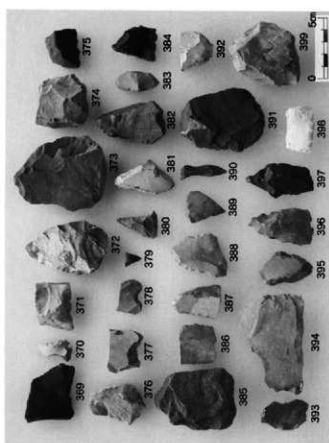
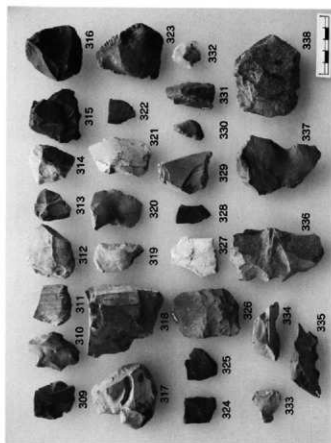
写真図版 19 土製品



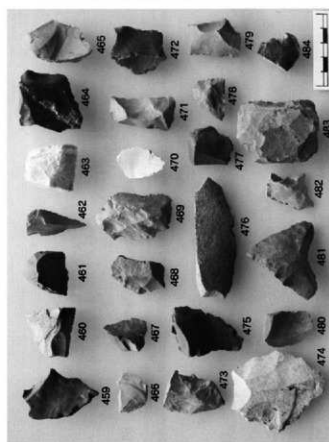
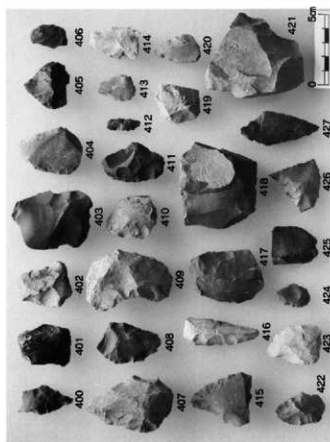
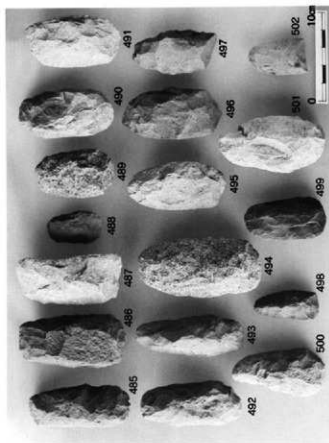
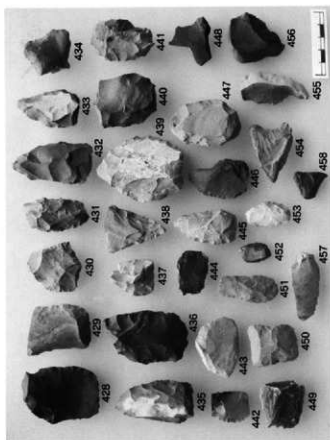
写真図版20 石器



写真図版 21 石器

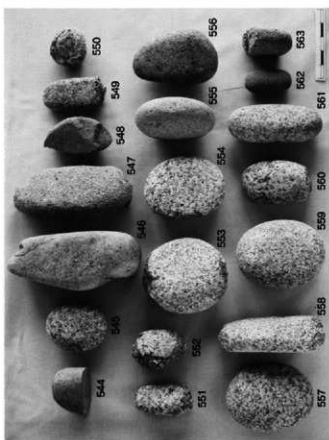
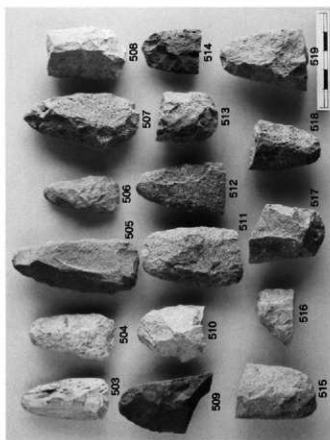
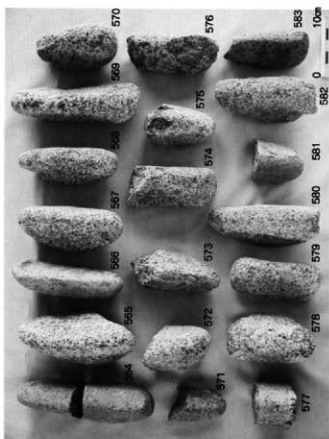


河套新22 石器

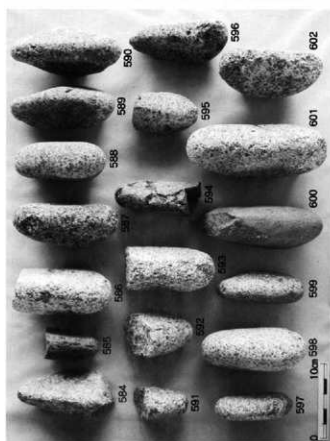
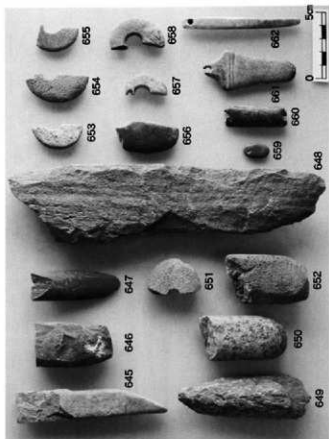
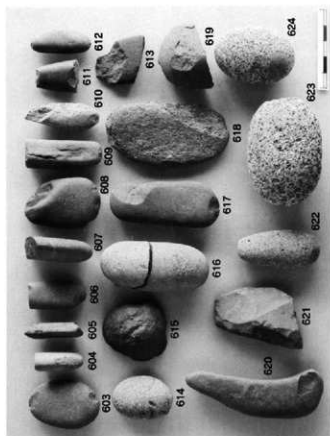


写真図版 23 石器





写真図版 24 石器



写真図版 25 石器

# 報告書抄録

ふりがな	そでのいちいせき							
書名	袖野 I 遺跡							
副書名	陸前高田市内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 28 集							
編著者名	佐藤正彦 遠藤優子							
編集機関	陸前高田市教育委員会（担当：陸前高田市教育委員会事務局生涯学習課）							
所在地	029-2292 岩手県陸前高田市高田町字館の沖 110 TEL 0192-54-2111							
発行年月日	西暦 2010 年 3 月 23 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
そでのいちいせき 袖野 I 遺跡	いわてけん 岩手県 うつくしせんたかた 陸前高田市 ひろたちょう あしたの 字袖野	03210	NF78- 2239	38度 58分 41秒	141度 41分 45秒	20030801 ～ 20031030	176㎡	宅地造成 による
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
袖野 I 遺跡	散布地	縄文時代 前期～中期	土坑 焼土遺構 埋設土器	5 基 2 基 1 基	縄文土器（前～中期） 土製品 土偶 石器 けつ状耳飾り 石製垂飾品			

(陸前高田市文化財調査報告書第28集)

## 袖野 I 遺跡

発 行 日 2010年3月23日  
編 集・発 行 陸前高田市教育委員会  
岩手県陸前高田市高田町字館の沖110  
TEL 0192(54)2111  
印 刷 タクミ印刷(有)  
岩手県陸前高田市高田町字館の沖164  
TEL 0192(55)2178